平成２５年度 文部科学省委託事業
成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業

獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業

（コンソーシアム）

実 績 報 告 書

平成２６年３月

学校法人 シモゾノ学園
国 際 動 物 専 門 学 校

平成２５年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業

実　績　報　告　書

目　　次

第１編　事業計画および事業実施内容　1

1.　事業概要　3
2.　事業実施の背景　3
3.　事業実施内容　4
3.1.　組織（コンソーシアムの構成員・構成機関等）　4
3.2.　事業の実施体制　6
3.3.　事業実施の工程　7
3.4.　モデルカリキュラム開発＜学習ユニット開発 WG＞　7
3.5.　関連職域調査研究＜関連職域調査研究 WG＞　8
4.　事業の成果　10
4.1.　モデルカリキュラム開発の成果　10
4.2.　関連職域調査研究の成果　19
5.　事業成果の活用　22
6.　事業の課題と展開　22

第２編　コンソーシアム事業の個別報告　25

1.　モデルカリキュラム開発＜学習ユニット開発 WG＞　27
1.1.　開発の背景となる目的　27
1.2.　開発方法及び手順　27
1.3.　科目の整理（学習ユニットの開発に向けて）　28
1.4.　コマシラバスの作成　33
1.5.　モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発　99
1.6.　まとめと考察　100
2.　関連職域調査研究＜関連職域調査研究 WG＞　102
2.1.　調査の目的　102
2.2.　調査の方法及び対象　102
2.3.　調査結果について　118
2.4.　まとめと考察　153

第1編　事業計画および事業実施内容

1.　事業概要

2.　事業実施の背景

3.　事業実施内容

3.1.　組織（コンソーシアムの構成員・構成機関等）

3.2.　事業の実施体制

3.3.　事業実施の工程

3.4.　モデルカリキュラム開発＜学習ユニット開発 WG＞

3.5.　関連職域調査研究＜関連職域調査研究 WG＞

4.　事業の成果

4.1.　モデルカリキュラム開発の成果

4.2.　関連職域調査研究の成果

5.　事業成果の活用

6.　事業の課題と展開

第１編　事業計画および事業実施内容

1. 事業概要

新しい成長分野である「獣医療体制分野」において、ニーズの変化に対応できる中核的専門人材の養成に取り組む。本事業では、特に、日本獣医師会小動物臨床部会が中心となってこれまで取組を進めてきた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を利活用し、チーム動物医療に対応できる動物看護師（中核的専門人材）の養成を目的とする。さらに、動物病院や、企業・団体等での利用促進のために、社会人を対象とした学習ユニットの開発と評価指標を示す。

2. 事業実施の背景

ペット産業の市場規模は、『ペットビジネスハンドブック』（産経新聞メディックス）の 2011 年版によれば、ペットフードが 4,713 億円、ペット用品が 1,812 億円、関連業界（病院・トリマー・ペットホテル・葬祭など）が 5,620 億円となり、合計で 1 兆 2,145 億円に上る。ペット産業を取り巻く環境は、東日本大震災の影響や長期化する国内景気の低迷で、飼育意欲にやや陰りが見え、厳しい事業環境となっている。一方、ペットの飼育環境が向上したことによりペットの高齢化が進行しており、それに伴って保険や介護用品、葬儀などの関連市場は拡大している。

動物看護師の主な就労の場は動物病院であるが、こうした事情を背景とし、単なる診療・治療施設から多角的なサービスを提供する総合サービス施設として変わりつつあり、その中にあって求められるサービスの内容も多様な広がりを持つようになった。こうしたニーズの変化に対応する取組みとして、日本獣医師会小動物臨床部会が中心となって進めてきた統一資格としての動物看護師の創設がある。「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」に基づく教育により、動物看護師のスキル・能力を高めるとともに、中核的専門人材として顧客満足度を高める有意な人材を養成することを目指している。

本事業では、社会人の学び直しにも役立てられるように、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の学習ユニット化を進めるとともに、今後重要なサービスとなりうるグルーミングやしつけ等のサービスやアンチエイジングケアサービスについての調査・研究を実施することとしている。学生のみならず、既に動物病院等の現場で活躍している社会人に対しても再教育の場として訴求することを目指しているものであり、

その意義は大きいと考えている。

これまで動物看護師に相当する民間資格が複数存在し、それぞれの資格で認定される能力・要件が異なっていたため、業界内での評価を高めることができず、結果として動物看護師という仕事に対するモチベーションの低下につながってしまっていた。動物看護師の資格を統一化することにより、こうした状況を打破し、中核的専門人材としての役割を明確化することができると考えられる。本事業に参加していただく方々は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの学習ユニット化を行うことは、獣医療体制の高度化を図る上で意義深い。

また、既に動物看護師として勤務している方々が、新たに加わった当該カリキュラム教育における知識・技術の付加修得に効を奏するとともに、動物看護師への転身を考えている社会人の方々に対して有意となるカリキュラムを学習ユニット化することにより、社会人の学び直しの強化につなげたいと考えている。

3. 事業実施内容

3.1.組織（コンソーシアムの構成員・構成機関等）

（１）構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体等）

構成機関（学校・団体・機関等）の名称		役割等	都道府県名
1	学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校	総括、研究開発	東京
2	学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	研究開発	大阪
3	公益社団法人 日本獣医師会	研究開発	東京
4	一般社団法人 日本動物看護職協会	研究開発	東京
5	公益社団法人 日本動物病院福祉協会	研究開発	東京
6	NPO法人 動物愛護社会化推進協会	研究開発	大阪
7	株式会社 ファームプレス	研究開発	東京
8	一般社団法人 日本小動物獣医師会	調査・研究	東京
9	学校法人 有坂中央学園	調査・研究	群馬
10	学校法人 中央総合学園 高崎ペットワールド専門学校	調査・研究	群馬

11	学校法人 中央工学校 中央動物専門学校	調査・研究	東京
12	学校法人 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校	調査・研究	宮崎
13	学校法人坪内学園 専門学校松江総合ビジネスカレッジ	調査・研究	東京
14	学校法人爽青会 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	調査・研究	静岡
15	学校法人中村学園 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	調査・研究	千葉
16	株式会社 インターズー	調査・研究	東京
17	東京理器株式会社	調査・研究	東京
18	株式会社緑書房	調査・研究	東京
19	学校法人 シモゾノ学園 学園本部	事務局	東京

（２）協力者等（委員など個人で本事業に参画する者等）

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
新井 敏郎	日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医学部長	調査・研究	東京
太田 光明	動物看護師統一認定機構／麻布大学 教授	研究開発	東京
酒井 健夫	麻布大学 客員教授	研究開発	東京
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医保健看護学科教授	研究開発	東京
原 大二郎	公益社団法人 日本動物病院福祉協会 ／獣徳会 動物医療センター	調査・研究	愛知
細井戸 大成	公益社団法人 日本獣医師会	調査・研究	大阪
横田 淳子	一般社団日本動物看護職協会	調査・研究	青森

（３）学習ユニット開発 WG

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
下薗 惠子	国際動物専門学校	WGリーダー	東京
石橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校	研究開発	大阪
太田 光明	動物看護師統一認定機構／麻布大学 教授	研究開発	東京
酒井 健夫	麻布大学 客員教授	研究開発	東京
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学	研究開発	東京
八木 信幸	中央カレッジグループ 経営企画本部	研究開発	群馬
山下 眞理子	国際動物専門学校	研究開発	東京

（４）関連職域調査研究 WG

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校	WGリーダー	宮崎
太田　宗雪	株式会社インターズー	調査・研究	東京
小嶋　佳彦	小島動物ウエルネスセンター	調査・研究	新潟
坂本　　敏	中央動物専門学校	調査・研究	東京
下田尾　誠	高崎ペットワールド専門学校	調査・研究	群馬
松本　州史	東京理器株式会社	調査・研究	東京

3.2. 事業の実施体制

獣医療体制分野産学連携コンソーシアム

獣医療体制分野の事業全体を統括。大学・専門学校、動物病院、獣医療関連団体、関連企業にて組織。

学習ユニット開発ＷＧ

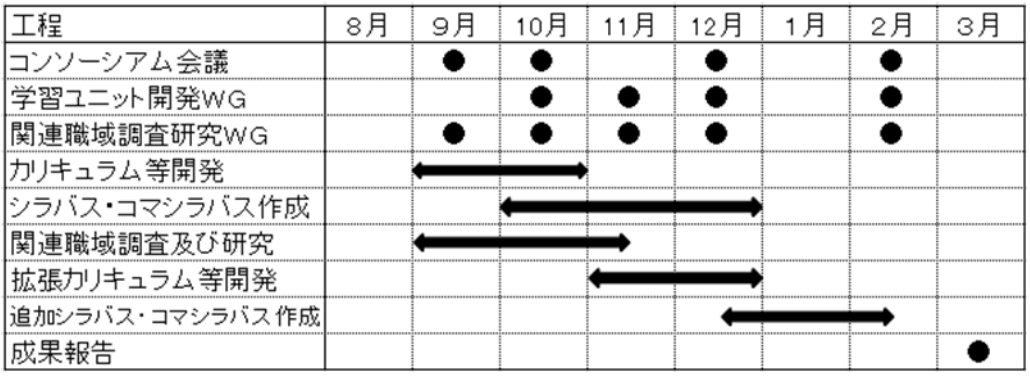
動物看護師高位平準化コアカリキュラムをもとに、社会人向けのオーダーメード型講習にも利活用できるよう学習ユニット化を進める。大学・専門学校教員にて組織。

関連職域調査研究ＷＧ

グルーミングやしつけ等、ペット産業の多様化するサービス（関連職域）について調査し、動物業界人材の臨床以外の分野で求められるスキルの体系化を行う。専門学校教員、獣医療及びペット産業関連企業にて組織。

職域プロジェクト（動物・ペット産業）

3.3. 事業実施の工程



3.4. モデルカリキュラム開発＜学習ユニット開発 WG＞

（1）モデルカリキュラム開発の目的

獣医療体制分野における、業界横断的な共通科目作成による学習ユニット化が期待され、それに伴う質の保証の可視化（学習フロー、シラバス、コマシラバス、評価制度等）が求められている。

これまで動物看護師に相当する民間資格が複数存在し、それぞれの資格で認定される能力・要件が異なっていたため、業界内での評価を高めることができず、結果として動物看護師という仕事に対するモチベーションの低下につながってしまっていた。動物看護師の資格を統一化することにより、こうした状況を打破し、中核的専門人材としての役割を明確化することができると考えられる。本事業に参加していただいた方々は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの学習ユニット化を行うことは、獣医療体制の高度化を図る上で意義深い。

また、既に動物看護師として勤務している方々が最新の知見を学ぶ場として、新たに加わった当該カリキュラム教育を活用し、知識・技術の修得・研鑽に努めていただくことを企図するとともに、動物看護師への転身を考えている社会人の方々に対しても有意となるカリキュラムを学習ユニット化することにより、社会人の学び直しの強化につなげたいと考えている。

（２）方法及び手順

本事業では、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」（60 単位、1,920 時間）を基にして、学習ユニットの構築を行う。社会人の学び直し強化に役立つオーダーメード型講習にも対応できるよう、単位取得認定や履修証明の発行を視野に入れた「わかりやすい学習ユニット」を構築することを心掛け、モデルカリキュラムを開発する。

学習ユニットを構築する際には、履修証明書の発行を前提として考えることとし、120 時間以上となるよう配慮する。

3.5. 関連職域調査研究＜関連職域調査研究 WG＞

（１）調査の目的

関連職域調査研究 WG では、動物病院でのサービスが獣医療だけでなく、関連する各種サービスも実際に展開されているなかで、今回、獣医療以外のサービスに関して現状どのような状況にあるか、またこれらに関する病院長・病院運営者の意識を調査し、必要とされる人材、またその養成に必要な課題を探るため、「動物病院における獣医療以外のサービスに関する意識･実態調査」実施した。

（２）調査の方法及び対象

A. アンケート実施方法（調査方法）

① インターネット配信による調査回答（184 件回答／229 件依頼中：回答率 80.3%）

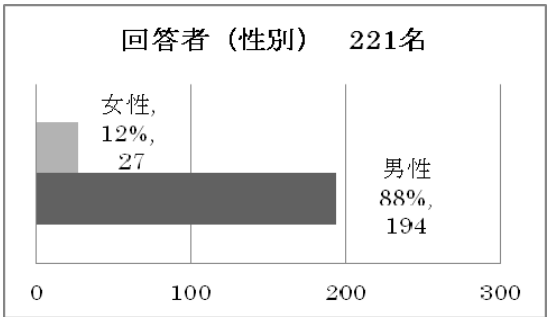
② アンケート用紙を用いた調査回答（37 件回答／45 件依頼中：回答率 82.2%）

（１）、（２）合計回答数：221 件回答／274 件依頼中、回答率 80.66%

B.アンケート調査回答者プロフィール

① 回答者（動物病院院長）男女比

男性	194 名	88%
女性	27 名	12%
合計	221 名	100%



② 年齢

平均年齢	41.39 歳

（219 名平均、未記入 2 名）

③ 地域分布

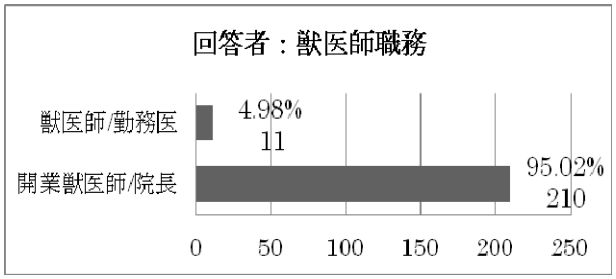
40 都道府県の動物病院から回答

地域	北海道	東北	関東/甲信越	東海/北陸	近畿	中国/四国	九州沖縄	全国計
含む都道府県	北海道	青森 秋田* 岩手 盛岡 宮城 山形 福島	群馬 栃木 茨城 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨* 長野* 新潟	静岡 愛知 三重* 岐阜 富山* 石川 福井*	滋賀 京都 大阪 奈良 和歌山 兵庫	岡山 鳥取 島根* 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	福岡 佐賀 大分 熊本 宮崎 鹿児島 沖縄	
回答者数	10 名	10 名	95 名	26 名	40 名	22 名	18 名	221 名
比率※	4.52%	4.52%	42.99%	11.76%	18.10%	9.95%	8.14%	100%

※(小数点第２位以下四捨五入)　　(*)の都道府県は回答者なし

④ 回答者：獣医師職務

職務	回答者分布
開業獣医師/院長	210 名
獣医師/勤務医	11 名
合計	221 名



⑤ 開業年数

平均８．３６年

開業年数	0～5 年	6～10 年	11～15 年	16～20 年	21 年以上	合計
回答者数	115 名	48 名	28 名	11 名	19 名	221 名
比率	52.04%	21.72%	12.67%	4.98%	8.60%	100%

4. 事業の成果

4.1.モデルカリキュラム開発の成果

（１）学習ユニットの全体像

動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを基にして作成した学習ユニットの全体像は以下のとおりである。

		科目名	時間数	単位
1年次	専門基礎分野	動物形態機能学Ⅰ	30	1
		動物形態機能学Ⅱ	30	1
		動物形態機能学Ⅲ	30	1
		動物形態機能学Ⅳ	30	1
		動物形態機能学Ⅴ	30	1
		動物疾病看護学Ⅰ	30	1
		動物疾病看護学Ⅱ	30	1
		動物疾病看護学Ⅲ	30	1
		動物疾病看護学Ⅳ	30	1
		動物疾病看護学Ⅴ	30	1
		動物感染症学	30	2
		病原体・衛生管理	30	1
		動物健康管理	15	1
		公衆衛生学	30	1

		動物行動学Ⅰ	30	1
		動物行動学Ⅱ	30	1
	専門分野	動物看護学Ⅰ	30	1
		動物看護学Ⅱ	30	1
		臨床動物看護学Ⅰ	30	1
		臨床動物看護学Ⅱ	30	1
		臨床動物看護学Ⅲ	30	1
		動物臨床検査学	30	1
		院内コミュニケーションⅠ	25	1
		院内コミュニケーションⅡ	25	1
		院内コミュニケーションⅢ	25	1
		動物飼育実習Ⅰ	45	1
		動物看護実習Ⅰ	90	2
		動物臨床検査学実習Ⅰ	90	2
		外科動物看護実習Ⅰ	45	1
2年次	専門基礎分野	動物病理学	30	1
		動物薬理学	30	1
		動物栄養学Ⅰ	30	1
		動物栄養学Ⅱ	30	1
		動物栄養学Ⅲ	30	1
		動物医療関連法規	30	1
		動物繁殖学	15	1
		動物人間関係学	30	1
		動物福祉論	30	1
		飼養管理学Ⅰ	30	1
		飼養管理学Ⅱ	30	1
	専門分野	動物入院管理	30	1
		幼齢動物・老齢動物管理	30	1
		救急救命対応	15	1
		クライアントエジュケーション	30	1
		動物飼育実習Ⅱ	90	2
		動物看護実習Ⅱ	135	3

		動物臨床検査学実習Ⅱ	135	3
		外科動物看護実習Ⅱ	45	1
		総合臨床実習	135	3
			1,950	59

（２）コマシラバス

本事業にてコマシラバスを作成したのは、以下の 17 科目である。ここでは、それらのうち「動物形態機能学Ⅰ」のみ掲載する。(他のコマシラバスについては、「第２編　1.4 コマシラバスの作成」を参照)。

- 動物形態機能学Ⅰ
- 動物形態機能学Ⅱ
- 動物形態機能学Ⅲ
- 動物形態機能学Ⅳ
- 動物形態機能学Ⅴ
- 動物健康管理
- 動物行動学Ⅰ
- 動物行動学Ⅱ
- 動物看護学Ⅰ
- 臨床動物看護学
- 動物薬理学
- 動物栄養学Ⅰ
- 動物栄養学Ⅱ
- 動物栄養学Ⅲ
- 動物繁殖学
- 救急救命対応
- クライアントエジュケーション

「動物形態機能学Ⅰ」

		シラバス（概要）
学科		動物の生命維持の仕組みと、解剖学、生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。また、犬猫以外の動物の解剖を比較して学ぶ。
コース	動物看護学科	
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物形態機能学Ⅰ（形態機能学概論・比較解剖）	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者		前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物形態機能学Ⅰ 形態機能概論1	1.シラバスとの関係	解剖生理学を学ぶための基礎知識	
		2.コマ主題	体とはどのようなものか	
		3.コマ主題細目	体の素材としての細胞、組織について	
		4.コマ主題細目深度	1）細胞の構造について知る	
		5.次コマとの関係		
2	形態機能概論2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	2）細胞を構成する物質とエネルギーの生成	
		5.次コマとの関係		
3	形態機能概論3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	3）核酸、細胞の増殖と染色体	
		5.次コマとの関係		
4	形態機能概論4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	4）上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について知る	
		5.次コマとの関係		
5	形態機能概論5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	5）器官の成り立ちと維持、調整機能について知る	
		5.次コマとの関係		
6	形態機能概論6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	6）細胞内液、細胞外液、電解質について知る	
		5.次コマとの関係		

7	形態機能概論7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体の機能	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	7）内部環境とホメオスタシスについて知る	
		5.次コマとの関係		
8	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係	犬と猫以外の動物の体の構造の違いを理解するために、犬猫の体の構造を総体的に知る	
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目	犬猫の体の構造を知る構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	1）体内にはどんな器官がどのように構造しているか	
		5.次コマとの関係		
9	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	2）循環器系器の構造とその生理的働き概要	
		5.次コマとの関係		
10	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	3）呼吸器系	
		5.次コマとの関係		
11	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	4）消化器系	
		5.次コマとの関係		
12	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	5）泌尿器系	
		5.次コマとの関係		
13	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	6）生殖器系	
		5.次コマとの関係		

14	比較解剖:　犬と猫の体の構造と機能7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	7）その他	
		5.次コマとの関係		
15	比較解剖:鳥の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
16	比較解剖:鳥の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
17	比較解剖:鳥の体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
18	比較解剖:鳥の体の構造と機能4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
19	比較解剖:ウサギの体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
20	比較解剖:ウサギの体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
21	比較解剖:ウサギの体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
22	比較解剖:反芻動物の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

23	比較解剖：反芻動物の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
24	比較解剖：反芻動物の体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
25	比較解剖：馬の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
26	比較解剖：馬の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
27	比較解剖：魚の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
28	比較解剖：魚の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
29	比較解剖：その他の動物	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
30	まとめ	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

（３）モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発

本事業にて開発したモデルカリキュラムは以下のとおり。

ユニット	時間	科目時間	教科（授業科目）	ユニット特徴	学習目的（どんな方にお勧めか）
Ⅰ	150	15	動物健康管理学	臨床現場で見られる主な疾病を学び、実際に動物飼育（主に犬猫）を通して健康管理に努める。また犬猫以外の動物、小鳥、ウサギ、ハムスター、フェレットなどのエキゾチックアニマル、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物の動物種による飼育健康ケアの違いを知る。	犬猫以外の動物関連分野に興味のある方。 動物医療の知識から動物飼育を学びたい方。
		30	飼養管理学Ⅰ		
		30	動物疾病看護学Ⅰ		
		30	動物疾病看護学Ⅱ		
		45	動物飼育実習Ⅰ		
Ⅱ	120	30	動物形態機能学Ⅰ	主に犬猫の体の構造や機能を知り、動物医療現場で行われる処置及び入院看護に活かす。	動物医療分野に参入したい方。
		90	動物看護実習Ⅰ		
Ⅲ	120	30	動物形態機能学Ⅱ	主に犬猫の体の構造や機能を知り、動物医療現場で行われる検体採取及び検査に活かす。	検査技術を身につけたい方。
		90	動物臨床検査実習Ⅰ		
Ⅳ	135	30	病原体・衛生管理	公衆衛生、関連法規から人と動物の健康に寄与する。また、ワクチン接種や外科的処置（避妊手術、去勢手術）含めた疾病予防から動物の健康の向上に役立てる。	共通感染症及び法規を理解し人と動物の健康への啓発に努めたい方。 動物医療現場での基本的な外科手術の流れを身につけたい方。
		30	公衆衛生学		
		30	動物医療関連法規		
		45	外科動物看護実習Ⅰ		
Ⅴ	150	30	動物行動学Ⅰ	主に犬猫の動物種としての習性や行動様式や必要栄養素やライフステージの違いから適正な飼養を学ぶ。また動物の個性や生活環境を活かした飼養のために院内及びクライアントとの情報収集、共有にコミュニケーション能力を活かす。	行動学、栄養学の知識を身につけたい方。 動物医療現場でコミュニケーション能力を高めたい方。
		30	動物栄養学Ⅰ		
		30	動物栄養学Ⅱ		
		30	院内コミュニケーションⅠ		
		30	院内コミュニケーシ		

			ョンⅡ		
Ⅵ	150	30	動物感染症学Ⅰ	主に犬猫の感染症（寄生虫、微生物）の知識から必要な検査項目を知る。また、動物看護に欠かせない観察力や職業人としての情意面を養い症状別の異常を見分ける知識を身につける。	動物看護師として働くために必要となる基礎的、基本的な知識・概念を体系的に学びたい方。
		30	動物感染症学Ⅱ		
		30	動物看護学Ⅰ		
		30	動物看護学Ⅱ		
		30	動物臨床検査学		

（４）まとめと考察

本事業では、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」（60 単位、1,920 時間）を基にして、学習ユニットの構築を行った。学習ユニットを構築する際には、履修証明書の発行を前提として考え、120 時間以上となるよう配慮した。

学習を始める際の目的、動機は人によって異なり、様々である。「動物を飼いたい。動物をよりよく飼育するために知識・技術を学びたい」というニーズもあれば、「介護の現場でアニマルセラピーを取り入れたいが、動物からの感染症が気になるので、そういった知識を短期間で効率よく学びたい」というニーズもある。もちろん、「動物看護師になりたいので、動物看護師として働くために必要となる基礎的、基本的な知識や概念を体系的に学びたい」というニーズもある。

本事業では、そうしたそれぞれのニーズに応えられるよう、学習ユニットの特徴に加えて、学習目的（どんな方にお勧めか）も明記している。

なお、今回構築する学習ユニットは、夜間や土日、ならびに夏季休業期間や冬季休業期間などに開講することを検討しており、すぐに専門学校等に入学して学び出すことが困難な就労者や求職者など、社会人の学び直しに役立つよう活用する予定である。働きながら学ばざるを得ない方や、結婚・出産・子育てなどで家庭から離れにくい方に、短期間の講座（詳しくは「1.5 モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発」を参照）を受講していただき、そこで得られる修了証（履修証明書）を積み重ねることで、２年課程の１年生の科目をすべて履修し、２年生に編入できるような仕組みを作れないかと考えている。

上記のことを考慮し、本事業における学習ユニットの構築に当たっては、主に１年生で履修すべき科目を取り扱った（各科目の位置づけについては「1.3（２）科目の整理」を参照）。今後、関連職域 WG が調査した学習ニーズ等を考慮し、さらに科目を増やしていきたいと考えている。

4.2.関連職域調査研究の成果

（１）調査結果について

１） 動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて

動物看護師の統一認定資格化、公的資格化が動いている一方で、それ以外の職種・各分野における資格・ライセンスの状況、動物病院勤務者における保有状況を調査。また、資格が問われると考える職種・サービスとその理由を調査した。

① トリミング分野

トリミング分野では、JKC（一般社団法人ジャパンケネルクラブ）の資格制度がその他の資格保有者に比べ多かった一方で、多くが各専門学校等の養成機関単位、または団体で資格を出しているが現状であった。

② しつけトレーニング分野

しつけトレーニング分野では、トリミング分野と同様、教育機関独自で発行された資格を保有することが多い模様。また、卒業後に各団体・協会主催の資格を取得する者もいるとのこと。この分野に関しては、経営側の獣医師自身の知識にもかなりバラつきがあると思われる。

③ その他の分野に関する資格保有

その他の分野に関しては、日本愛玩動物協会／日本愛玩動物飼養管理士の所有者が多い。また、その他、ヒト分野の看護師、栄養士資格保有者や各種団体で発行のキャットグルーマー、ビジネス検定、T タッチ（マッサージ）、ハンドラーなどの保有がみられた。

④ 資格が問われると思うサービス

動物病院経営･運営者からみた「資格が問われると思うサービス」については、10%を超える割合で、1 位：しつけ、2 位：トリミング、3 位パピークラス、以下 4 位カウンセリング、5 位マッサージなどとなり、他に直接動物または飼い主に対し接する業務に関して、特に資格が問われると考えることが分かった。

⑤、⑥ 資格が問われる理由（延回答数）/（個別回答数）

資格が問われる理由に関しては、「a:社会的に一定レベルの知識、または技術

が必要と考えるから」が 76.63%と過半数を超える結果となった。また、公的に認められている資格がない（17.62%）ことからのニーズも資格の必要性を問う理由として 15%を超えた。

⑦ その他の理由　（資格が問われる理由）

動物の命を扱う職種であり、また責任がある仕事であること、人により偏った知識、誤った知識・技術の提供を避けるべきことなど標準化、統一性を持った資格が求められていることがわかる。きちんとしている人への報酬を確保するためにも資格・教育が必要との意見などであった。

上記のほか、アンケート結果としてとりまとめたのは以下の項目（詳細は、「第２編　2.3 調査結果について」を参照）。

１）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて（前述分）
２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価
３）動物病院における付帯サービスの満足度評価
４）今後展開したい付帯サービス
５）動物看護の知識が必要なサービス
６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無
７）養成校以外からの人材採用
８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容
９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス
10）　動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見

（２）まとめと考察

今回、平成２５年度文部科学省委託事業「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」“獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業”関連職域調査研究 WG の調査として「動物病院でのサービスが獣医療だけでなく、関連する各種サービスも実際に展開されているなかで、今回、獣医療以外のサービスに関して現状どのような状況にあるか、またこれらに関する病院長・病院運営者の意識を調査し、必要とされる人材、またその養成に必要な課題を探るため、「動物病院における獣医療以外のサービスに関する意識･実態調査」実施した。

今回、動物病院での獣医療サービス以外の実態調査を動物病院の院長または準じる運営者に実施し、前述の各項目に対する「コメント部分」にも記したように、各調査の結果分析からも「関連職域サービスの動物病院での実施状況、評価、今後に

期待・希望すること」が見えてきた。

調査結果の「２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価、３）動物病院における付帯サービスの満足度評価、４）今後展開したい付帯サービス、８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容、９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス」の結果からは、現状多くの動物病院で実施している「ホテル」、「処方を必要としないフード販売」、「同おやつ・サプリメント販売」、「トリミング」、「ペット保険」サービスの実施が動物病院運営への貢献度として上位５位に入っており他と比べ評価が高かった。

また、動物病院の院長（経営者）らが今後に期待する付帯サービスとしては、特に「しつけ」、「パピークラス」、「トリミング」の３つは、現在実施している付帯サービスとしても、また、今後に展開したい期待するサービスとしても注目されることがわかってきた。

それに伴い人材育成の面に対しても上記３つ以外のサービスも含め、各職種・サービスにかかわる動物病院に就業するスタッフに関して、それぞれの職種・サービスで必要を感じている具体的な教育希望項目、すなわち専門的な知識・技術の継続的な向上を望んでいることがわかった。

人材教育面では、付帯サービススタッフのみでなく獣医師、動物看護師も含めた全職種のスタッフに要望する項目については、共通して社会人としての常識力、顧客はもとよりスタッフ間でのコミュニケーション力、サービス業に就業する者としての接遇力・コミュニケーション力に対する教育の必要性を強く望んでいることも合わせて分かった。前述の７）養成校以外からの人材採用　の意見からもあるとおり経営者側・サービス提供者側では、より幅広い人材を求めていることが垣間見えた。

付帯サービススタッフに関する資格については、「１）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて」の結果からもわかるとおり、現状多くの資格が存在することからも取得資格、教育などにバラつきがあり、この点からも一定水準の教育を受け、技術・知識を持った人材が就業することが望まれていることが見える。

一方で、動物病院における付帯サービスに関する教育実施状況を見ると、６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無　の結果が示すとおり、教育機会は47.51％と半数近い動物病院では、実施していないところが多いのが現状で、実施しているところでも不定期開催や年数回開催にとどまっているのが現状で、上述の求める付帯サービス人材に対して必要と考える継続的な教育・育成がなかなかできていないことも見えてきた。

今回の結果に示された「しつけ」、「パピークラス」の教育強化の希望が強く示されたことは、これらの付帯サービスを強化していくことが動物病院経営・運営に

とって、また動物・飼い主にとっても適切な飼育環境を享受できやすくなる。
それとともに動物を飼っていない「一般社会の人と共生していく」という面、また動物愛護の観点からもこれらの活動が動物病院で積極的にかつ適切に行われ、多くの動物、飼い主が来院しサービスを享受することでより良い社会生活、より良い「人と動物の共生」につながることも非常に重要なことと考えられる。このような意味からも多くの獣医師が今後に期待できる有用な付帯サービスとして認識してきていることを意味すると思われる。

5. 事業成果の活用

本年度の事業で作成したコマシラバスならびにモデルカリキュラム（学習ユニット）については、本校ならびに事業協力校の７校では、平成 26 年度から既存学科コース等の授業科目に反映させ、成果を活用する予定である。

また、動物看護師国家資格化検討推進協議会（一般社団法人　全国動物教育協会）に参加している４１校ならびに動物看護師養成コアカリキュラム採用校（５６校：重複在り）においても、本事業の成果であるコマシラバス、モデルカリキュラムならびに関連職域についての調査結果等の情報を共有し、より質の高い教育活動を行うために、成果を活用する予定である。

6. 事業の課題と展開

モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発について、本年度の事業では学習ユニットの構築に当たり、主に１年生で履修すべき科目を取り扱った。今後は、関連職域 WG が調査した学習ニーズ等を考慮し、さらに科目を増やしていきたいと考えている。

また、それらモデルカリキュラムの質の保証の可視化に関わるコマシラバスの作成については、次年度さらなる取組みが必要となっている。次年度、事業を継続し、コマシラバスを完成させたいと考えている。

今回実施した関連職域調査研究 WG の調査は、「各種サービスを提供する動物病院側からの調査」である。このため、提供されているサービスが「サービスを享受する側が求めるニーズ」に合ったものになっているのか、乖離しているのかの実態が見えてこ

なかった。また、各種付帯サービスに対する教育希望項目が見えてきたこと、教育機関に期待する項目が示されたことから今後の課題を検討した。

今後の課題として、

（A）サービスを受ける側、すなわち飼い主らからの調査を実施することで、ニーズに合ったサービスが提供されているのかの検証と実態把握ができると考えられる。

また、「人と動物のより良い共生」の観点からも、上記に加えて「一般社会から見える動物病院でのサービス提供に対する意識・認識調査」の実施も合わせて必要になると思われる。

（B）上記（A）の実態調査をすることで、教育サイド（教育機関）への教育に関しての実態把握、調査研究することも今後の課題として考えられる。

（C）教育サイドの現状を把握したうえでニーズにあった人材育成のための各種教育項目など方向性の調査検討が必要になると考えられる。

第２編　コンソーシアム事業の個別報告

1.　モデルカリキュラム開発＜学習ユニット開発 WG＞

1.1. 開発の背景となる目的

1.2. 開発方法及び手順

1.3. 科目の整理（学習ユニットの開発に向けて）

1.4. コマシラバスの作成

1.5. モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発

1.6. まとめと考察

2.　関連職域調査研究＜関連職域調査研究 WG＞

2.1. 調査の目的

2.2. 調査の方法及び対象

2.3. 調査結果について

2.4. まとめと考察

第２編　コンソーシアム事業の個別報告

1. モデルカリキュラム開発＜学習ユニット開発 WG＞

1.1. 開発の背景となる目的

獣医療体制分野における、業界横断的な共通科目作成による学習ユニット化が期待され、それに伴う質の保証の可視化（学習フロー、シラバス、コマシラバス、評価制度等）が求められている。

これまで動物看護師に相当する民間資格が複数存在し、それぞれの資格で認定される能力・要件が異なっていたため、業界内での評価を高めることができず、結果として動物看護師という仕事に対するモチベーションの低下につながってしまっていた。動物看護師の資格を統一化することにより、こうした状況を打破し、中核的専門人材としての役割を明確化することができると考えられる。本事業に参加していただいた方々は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの学習ユニット化を行うことは、獣医療体制の高度化を図る上で意義深い。

また、既に動物看護師として勤務している方々が最新の知見を学ぶ場として、新たに加わった当該カリキュラム教育を活用し、知識・技術の修得・研鑽に努めていただくことを企図するとともに、動物看護師への転身を考えている社会人の方々に対しても有意となるカリキュラムを学習ユニット化することにより、社会人の学び直しの強化につなげたいと考えている。

1.2. 開発方法及び手順

本事業では、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」（60 単位、1,920 時間）を基にして、学習ユニットの構築を行う。社会人の学び直し強化に役立つオーダーメード型講習にも対応できるよう、単位取得認定や履修証明の発行を視野に入れた「わかりやすい学習ユニット」を構築することを心掛け、モデルカリキュラムを開発する。

学習ユニットを構築する際には、履修証明書の発行を前提として考えることとし、

120 時間以上となるよう配慮する。なお、今回構築する学習ユニットは、専門学校等に入学して学び出すことがすぐには難しい就労者や求職者などを対象とし、夜間や土日、ならびに夏季休業期間や冬季休業期間などに開講することを検討しており、社会人の学び直しに役立つよう活用する予定である。そして将来的には、働きながら学ばざるを得ない方や、結婚・出産・子育てなどで家庭から離れにくい方に、短期間の講座（詳しくは「1.5 モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発」を参照）を提供したいと考えている。そして受講した方々が、そこで得られる修了証（履修証明書）を積み重ねることで２年課程の１年生の科目をすべて履修し、２年生に編入できるような仕組みを作れないかと考えている。

上記のことを考慮し、本事業における学習ユニットの構築に当たっては、主に１年生で履修すべき科目を取り扱った（各科目の位置づけについては「1.3（２）科目の整理」を参照）。

1.3. 科目の整理（学習ユニットの開発に向けて）

（１）動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム

以下に、コアカリキュラム構成を示す。（「動物看護系専門教育機関　動物看護師養成高位平準化対応連絡協議会　コアカリ作成委員会　動物看護師統一認定機構（推奨）」を一部改編。なお、科目名、時間数、単位については変更なし。）

	科目名	時間数	単位
専門基礎分野	動物形態機能学	150	5
	動物疾病看護学	150	5
	動物感染症学	60	2
	病原体・衛生管理	30	1
	動物健康管理	15	1
	公衆衛生学	30	1
	動物行動学	60	2
	動物病理学	30	1
	動物薬理学	30	1
	動物栄養学	75	5
	動物医療関連法規	30	1

	動物繁殖学	15	1
	動物人間関係学	30	1
	動物福祉論	30	1
	飼養管理学	30	1
	飼養管理学（エキゾチック）	30	1
専門分野	動物看護学	15	1
	臨床動物看護学	90	3
	動物臨床検査学	30	1
	院内コミュニケーション	75	3
	動物入院管理	30	1
	幼齢動物・老齢動物管理	30	1
	救急救命対応	15	1
	クライアントエデュケーション	30	1
	動物飼育実習Ⅰ	45	1
	動物飼育実習Ⅱ	90	2
	動物看護実習Ⅰ	90	2
	動物看護実習Ⅱ	135	3
	動物臨床検査学実習Ⅰ	90	2
	動物臨床検査学実習Ⅱ	135	3
	外科動物看護実習Ⅰ	45	1
	外科動物看護実習Ⅱ	45	1
	総合臨床実習Ⅰ	135	3
		1,920	60

（２）時間数の長い科目の見直し（細分化）について

① 対象とした科目は以下の８科目

- 01「動物形態機能学」150 時間（5 単位）
- 03「動物疾病看護学」150 時間（5 単位）
- 08「動物栄養学」75 時間（5 単位）⇒60 時間（2 単位）に変更
- 13「動物行動学」60 時間（2 単位）
- 15「飼養管理学」60 時間（2 単位）
- 16「動物看護学」15 時間（1 単位）⇒60 時間（2 単位）に変更

・ 17「臨床動物看護学」90 時間（3 単位）
・ 23「院内コミュニケーション」75 時間（3 単位）

② 上記のうち、以下の５科目についてコマシラバスを作成
・ 01「動物形態機能学Ⅰ～Ⅴ」150 時間（5 単位）を 5 科目に細分化
・ 08「動物栄養学Ⅰ～Ⅱ」60 時間（2 単位）を 2 科目に細分化
・ 13「動物行動学Ⅰ～Ⅱ」として 60 時間（2 単位）を 2 科目に細分化
・ 16「動物看護学Ⅰ～Ⅱ」として 60 時間（2 単位）を 2 科目に細分化
・ 17「「臨床動物看護学Ⅰ～Ⅲ」として 90 時間（3 単位）を 3 科目に細分化

③ 細分化の進め方についての確認
・ コマシラバスづくりを進めることで科目内容を精査できることを確認。
・ 「動物看護学Ⅰ～Ⅱ」や「臨床動物看護学Ⅰ～Ⅲ」のように、コマシラバスの作りこみを進めることを確認。

（３）科目の整理

上記（２）の手順にしたがって科目を見直した結果を以下に示す。

		科目名	時間数	単位
1年次	専門基礎分野	動物形態機能学Ⅰ	30	1
		動物形態機能学Ⅱ	30	1
		動物形態機能学Ⅲ	30	1
		動物形態機能学Ⅳ	30	1
		動物形態機能学Ⅴ	30	1
		動物疾病看護学Ⅰ	30	1
		動物疾病看護学Ⅱ	30	1
		動物疾病看護学Ⅲ	30	1
		動物疾病看護学Ⅳ	30	1
		動物疾病看護学Ⅴ	30	1
		動物感染症学	30	2
		病原体・衛生管理	30	1
		動物健康管理	15	1
		公衆衛生学	30	1
		動物行動学Ⅰ	30	1
		動物行動学Ⅱ	30	1

	専門分野	動物看護学Ⅰ	30	1
		動物看護学Ⅱ	30	1
		臨床動物看護学Ⅰ	30	1
		臨床動物看護学Ⅱ	30	1
		臨床動物看護学Ⅲ	30	1
		動物臨床検査学	30	1
		院内コミュニケーションⅠ	25	1
		院内コミュニケーションⅡ	25	1
		院内コミュニケーションⅢ	25	1
		動物飼育実習Ⅰ	45	1
		動物看護実習Ⅰ	90	2
		動物臨床検査学実習Ⅰ	90	2
		外科動物看護実習Ⅰ	45	1
2年次	専門基礎分野	動物病理学	30	1
		動物薬理学	30	1
		動物栄養学Ⅰ	30	1
		動物栄養学Ⅱ	30	1
		動物栄養学Ⅲ	30	1
		動物医療関連法規	30	1
		動物繁殖学	15	1
		動物人間関係学	30	1
		動物福祉論	30	1
		飼養管理学Ⅰ	30	1
		飼養管理学Ⅱ	30	1
	専門分野	動物入院管理	30	1
		幼齢動物・老齢動物管理	30	1
		救急救命対応	15	1
		クライアントエジュケーション	30	1
		動物飼育実習Ⅱ	90	2
		動物看護実習Ⅱ	135	3
		動物臨床検査学実習Ⅱ	135	3
		外科動物看護実習Ⅱ	45	1

		総合臨床実習	135	3
			1,950	59

（４）学習ユニット作成の方向性について

- 関連職域との連携を考慮した学習ユニットを構築する。
- 動物看護師を取得した学生が、将来、キャリアの可能性を拡大できるような全体設計を目指す。
- 結婚・出産後の復職に向けたリカレント教育など、社会人の学び直しにつながる学習ユニットをつくる。

（５）学び直しイメージの構築について

- 「畜産学」とは、共通の科目が多いと考えられる。
- 「水産学」とは、少し距離がある。
- 「農学」分野の場合、動物よりも植物が中心であり、連携が難しい。
- 「ヒトの医療・介護福祉」分野とは、共通性もあるが、学び直し（労働移動）を考えると課題あり
  - 動物看護師→ヒトの医療・介護福祉：ハードルが高く、労働移動は困難。
  - ヒトの医療・介護福祉→動物看護師：適切な学習ユニット化により、学び直しの道筋を見えやすくすることが可能。

1.4. コマシラバスの作成

次ページ以降に、下記の科目のコマシラバスを掲載する。

- 動物形態機能学Ⅰ
- 動物形態機能学Ⅱ
- 動物形態機能学Ⅲ
- 動物形態機能学Ⅳ
- 動物形態機能学Ⅴ
- 動物健康管理
- 動物行動学Ⅰ
- 動物行動学Ⅱ
- 動物看護学Ⅰ
- 臨床動物看護学
- 動物薬理学
- 動物栄養学Ⅰ
- 動物栄養学Ⅱ
- 動物栄養学Ⅲ
- 動物繁殖学
- 救急救命対応
- クライアントエジュケーション

「動物形態機能学Ⅰ」

		シラバス（概要）
学科		動物の生命維持の仕組みと、解剖学、生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。また、犬猫以外の動物の解剖を比較して学ぶ。
コース	動物看護学科	
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物形態機能学Ⅰ（形態機能学概論・比較解剖）	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者		前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物形態機能学Ⅰ 形態機能概論1	1.シラバスとの関係	解剖生理学を学ぶための基礎知識	
		2.コマ主題	体とはどのようなものか	
		3.コマ主題細目	体の素材としての細胞、組織について	
		4.コマ主題細目深度	1）細胞の構造について知る	
		5.次コマとの関係		
2	形態機能概論2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	2）細胞を構成する物質とエネルギーの生成	
		5.次コマとの関係		
3	形態機能概論3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	3）核酸、細胞の増殖と染色体	
		5.次コマとの関係		
4	形態機能概論4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	4）上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について知る	
		5.次コマとの関係		
5	形態機能概論5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	5）器官の成り立ちと維持、調整機能について知る	
		5.次コマとの関係		
6	形態機能概論6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	素材としての細胞と組織	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	6）細胞内液、細胞外液、電解質について知る	
		5.次コマとの関係		

7	形態機能概論7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体の機能	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	7）内部環境とホメオスタシスについて知る	
		5.次コマとの関係		
8	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係	犬と猫以外の動物の体の構造の違いを理解するために、犬猫の体の構造を総体的に知る	
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目	犬猫の体の構造を知る構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	1）体内にはどんな器官がどのように構造しているか	
		5.次コマとの関係		
9	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	2）循環器系器の構造とその生理的働き概要	
		5.次コマとの関係		
10	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	3）呼吸器系	
		5.次コマとの関係		
11	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	4）消化器系	
		5.次コマとの関係		
12	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	5）泌尿器系	
		5.次コマとの関係		
13	比較解剖： 犬と猫の体の構造と機能6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	6）生殖器系	
		5.次コマとの関係		

14	比較解剖:　犬と猫の体の構造と機能7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	犬猫の体の構造を知る	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	7）その他	
		5.次コマとの関係		
15	比較解剖:鳥の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
16	比較解剖:鳥の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
17	比較解剖:鳥の体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
18	比較解剖:鳥の体の構造と機能4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
19	比較解剖:ウサギの体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
20	比較解剖:ウサギの体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
21	比較解剖:ウサギの体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
22	比較解剖:反芻動物の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

23	比較解剖：反芻動物の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
24	比較解剖：反芻動物の体の構造と機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
25	比較解剖：馬の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
26	比較解剖：馬の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
27	比較解剖：魚の体の構造と機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
28	比較解剖：魚の体の構造と機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
29	比較解剖：その他の動物	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
30	まとめ	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

「動物形態機能学Ⅱ」

学科		シラバス（概要）
コース	動物看護学科	血液の循環とその調整に関わる分野および呼吸について学ぶ。
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物形態機能学Ⅱ（血液循環とその調節・呼吸とその調節）	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者		前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物形態機能学Ⅱ　循環器系の構成1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	循環器系の構成	
		5.次コマとの関係		
2	循環器系の構成2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	心臓の構造	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	①心臓の位置と外形　②心臓の4つの部屋と4つの弁	
		5.次コマとの関係		
3	循環器系の構成3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	③心臓の血管と神経	
		5.次コマとの関係		
4	心臓の生理的機能1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	心臓の拍出機能	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	心臓の興奮とその伝播	
		5.次コマとの関係		
5	心臓の生理的機能2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	心臓の拍出機能	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	心電図	
		5.次コマとの関係		
6	心臓の生理的機能3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	心臓の収縮	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	心拍出量と血圧	
		5.次コマとの関係		

7	末梢循環器系の構造1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血管の構造1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
8	末梢循環器系の構造2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血管の構造2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
9	末梢循環器系の構造3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	2）循環器系器の構造とその生理的働き概要	
		5.次コマとの関係		
10	末梢循環器系の構造4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	肺循環の血管	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
11	末梢循環器系の構造4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	全身の動脈	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
12	末梢循環器系の構造5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	全身の静脈	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
13	血液の循環の調整1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血圧	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

14	血液の循環の調整2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血圧・血流量の調整	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
15	血液の循環の調整3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腎臓による血圧の調整	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
16	血液の循環の調整4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	微小循環	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
17	リンパとリンパ管1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	リンパ管の構造	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
18	リンパとリンパ管2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	リンパの循環	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
19	呼吸器の構造1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目	呼吸器の構造	
		4.コマ主題細目深度	上気道	
		5.次コマとの関係		
20	呼吸器の構造2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸器の構造2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
21	呼吸器の構造3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
22	呼吸気系の働き　1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸とは？	
		3.コマ主題細目	内呼吸と外呼吸	
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

23	呼吸気系の働き ２	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸とは？	
		3.コマ主題細目	、気道について	
		4.コマ主題細目深度	気道の機能について	
		5.次コマとの関係		
24	呼吸気系の働き ３	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸のメカニズム	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	呼吸のメカニズム、呼吸筋	
		5.次コマとの関係		
25	呼吸気系の働き ４	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸気量	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	呼吸数、換気量、肺活量、残気量	
		5.次コマとの関係		
26	呼吸気系の働き ５	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	ガス交換とガスの運搬①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
27	呼吸気系の働き ６	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	ガス交換とガスの運搬②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
28	呼吸気系の働き ７	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	肺の循環と血液	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
29	呼吸気系の働き ８	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸運動の調整	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
30	まとめ	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

「動物形態機能学Ⅲ」

		シラバス（概要）
学科		血液とその造血器、血球、血漿成分、骨髄の形態に関する基礎的な知識を得る。また、免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構を学ぶ。外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調節に関する基礎知識を得る
コース	動物看護学科	
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物形態機能学Ⅲ（血液とその造血器・外部環境からの防御・体温調整・免疫）	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者		前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物形態機能学Ⅲ　血液　1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血液の組成と機能①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	血液の組成について	
		5.次コマとの関係		
2	血液2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血液の組成と機能②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	血液の機能について	
		5.次コマとの関係		
3	血液3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	赤血球について①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	赤血球の数・ヘヘモグロビン・濃度・ヘマトクリットにつてい	
		5.次コマとの関係		
4	血液4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	赤血球について②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	ヘモグロビンの構造と機能	
		5.次コマとの関係		
5	血液5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	赤血球について③	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	赤血球の破壊と新生について	
		5.次コマとの関係		
6	血液6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	白血球①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	白血球に種類について。顆粒球、リンパ球、単球	
		5.次コマとの関係		

7	血液7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	白血球②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	白血球に種類について。顆粒球、リンパ球、単球。左方移動の意味を知る。	
		5.次コマとの関係		
8	血液8	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血小板	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
9	血液9	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血漿タンパク質と赤血球沈降速度	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
10	血液10	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血液凝固と線維素溶解①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	血液凝固の阻止、血液凝固	
		5.次コマとの関係		
11	血液11	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血液凝固と線維素溶解②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	出血時間・凝固時間、線維素溶解	
		5.次コマとの関係		
12	血液12	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血液型①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	人の血液型について知識を得る	
		5.次コマとの関係		
13	血液13	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	血液型②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	犬と猫の血液型について	
		5.次コマとの関係		

14	血液14	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	輸血①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	輸血について	
		5.次コマとの関係		
15	血液15	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	輸血②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	輸血について	
		5.次コマとの関係		
16	血液16	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	輸血③	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	輸血について	
		5.次コマとの関係		
17	外部環境からの防御①	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	皮膚の構造と機能①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	皮膚の組織構造。表皮、真皮、皮下組織	
		5.次コマとの関係		
18	外部環境からの防御②	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	皮膚の構造と機能②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	皮膚の付属器。毛、爪、皮膚腺。血管、神経。	
		5.次コマとの関係		
19	外部環境からの防御③	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	皮膚の構造と機能③	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	皮膚の機能	
		5.次コマとの関係		
20	外部環境からの防御④	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	生体の防護機構④	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	非特異的防御機構。皮膚・粘膜における防御。貪食作用・細胞障害物質による防御	
		5.次コマとの関係		
21	外部環境からの防御⑤	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	生体の防護機構⑤	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	特異的防御機構＝免疫とは。免疫に関与するリンパ球の機能	
		5.次コマとの関係		
22	外部環境からの防御⑥	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	生体の防護機構⑥	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	液性免疫と細胞性免疫について	
		5.次コマとの関係		

23	外部環境からの防御⑦	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	生体の防護機構⑦	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	予防接種とは。ワクチンを接種する意味について	
		5.次コマとの関係		
24	外部環境からの防御⑧	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	生体の防護機構⑧	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	生体防御の関連臓器。リンパ節、粘膜付属リンパ組織と扁桃。胸腺、脾臓	
		5.次コマとの関係		
25	外部環境からの防御⑨	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体温とその調節①	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	熱の出納。熱産生と熱の放散	
		5.次コマとの関係		
26	外部環境からの防御⑩	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体温とその調節②	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	体温の分布と測定。日内変動、変温動物	
		5.次コマとの関係		
27	外部環境からの防御１１	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体温とその調節③	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	体温調節。温度受容器。体温調節中枢。	
		5.次コマとの関係		
28	外部環境からの防御１２	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体温とその調節④	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	発熱。高体温と低体温。	
		5.次コマとの関係		
29		1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
30	まとめ	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

「動物形態機能学Ⅳ」

学科		シラバス（概要）
コース	動物看護学Ⅳ	情報の受容と処理では、脳と神経における神経組織、中枢神経系および末梢神経系の構造と機能に関する基礎知識について学ぶ。感覚と情報伝達では視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚、痛覚の解剖生理学に関する基礎知識について学ぶ。からだの支持と運動では骨と関節、骨格筋と運動、各部位の運動器にかんする基礎知識を得る。
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物形態機能学Ⅳ	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者		前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	情報と受容と処理1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	神経系の構造と機能1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	神経細胞と支持細胞	
		5.次コマとの関係		
2	情報と受容と処理2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	神経系の構造と機能2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	ニューロンとシナプス。興奮の伝達	
		5.次コマとの関係		
3	情報と受容と処理3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	神経系の構造と機能3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	神経系の構造	
		5.次コマとの関係		
4	情報と受容と処理4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄と脳1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脊髄の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
5	情報と受容と処理5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄と脳2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脳の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
6	情報と受容と処理6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄と脳3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脳の構造と機能・脳幹、小脳、間脳	
		5.次コマとの関係		

7	情報と受容と処理7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄と脳4	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脳の構造と機能・大脳	
		5.次コマとの関係		
8	情報と受容と処理8	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄と脳5	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脳の構造と機能・脳室と髄膜、脳脊髄液の循環	
		5.次コマとの関係		
9	情報と受容と処理9	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄神経と脳神経1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
10	情報と受容と処理10	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄神経と脳神経2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	体性神経系の構成と機能	
		5.次コマとの関係		
11	情報と受容と処理11	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	脊髄神経と脳神経3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	自律神経系の構成と機能について	
		5.次コマとの関係		
12	感覚と情報伝達1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	眼の構造と視覚1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	眼球の構造と付属器	
		5.次コマとの関係		
13	感覚と情報伝達2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	眼の構造と視覚2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	視覚	
		5.次コマとの関係		

14	感覚と情報伝達3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	耳の構造と聴覚・平衡覚1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	耳の構造・外耳、中耳、内耳	
		5.次コマとの関係		
15	感覚と情報伝達4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	耳の構造と聴覚・平衡覚2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	聴覚。平衡覚	
		5.次コマとの関係		
16	感覚と情報伝達5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	味覚	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	味覚器の構造、味覚の特徴	
		5.次コマとの関係		
17	感覚と情報伝達6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	嗅覚	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	嗅覚器の構造、嗅覚の特徴	
		5.次コマとの関係		
18	感覚と情報伝達7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	痛覚	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	痛みの分類	
		5.次コマとの関係		
19	からだの支持と運動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	骨格を構成する骨について。骨の形態と構造	
		5.次コマとの関係		
20	からだの支持と運動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	骨格を構成する骨について。骨の組織と組成	
		5.次コマとの関係		
21	からだの支持と運動3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格4	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	骨の発生と成長。骨の生理的な機能	
		5.次コマとの関係		
22	からだの支持と運動4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨の連結1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	関節について。関節の一般構造、関節の形状と可動性	
		5.次コマとの関係		

23	からだの支持と運動5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨の連結2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	関節運動の障害、不動性の連結	
		5.次コマとの関係		
24	からだの支持と運動6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格筋1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	骨格筋の構造	
		5.次コマとの関係		
25	からだの支持と運動7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格筋2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	筋の形状と名称	
		5.次コマとの関係		
26	からだの支持と運動8	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格筋3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	筋と腱の補助装置、骨格筋の作用	
		5.次コマとの関係		
27	からだの支持と運動9	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	骨格筋4	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	骨格筋の神経支配、運動調整機序。	
		5.次コマとの関係		
28	からだの支持と運動10	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体幹の骨格と筋1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脊柱と体幹の筋	
		5.次コマとの関係		
29	からだの支持と運動11	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体幹の骨格と筋2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	前肢帯の骨格と筋	
		5.次コマとの関係		
30	からだの支持と運動12	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体幹の骨格と筋3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	後肢帯の骨格と筋	
		5.次コマとの関係		

「動物形態機能学Ｖ」

		シラバス（概要）
学科		栄養の消化と吸収については、消化器の構造と機能を学び基礎知識を得る。また、内臓機能の調節では、自律神経による調整と内分泌による調整を学び、全身の内分泌系の基本構造と機能を知る。体液調整と尿の生成では、腎機能と尿細管における再吸収と分泌を理解し、集合管における尿濃縮を知る。また、細胞外液の調整機序を知り、体液の調整を理解できるようにする
コース	動物形態機能学Ｖ	
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物形態機能学Ｖ（栄養の消化吸収・内臓機能の調整・体液の調整と尿の生成	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者		前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	栄養の消化と吸収1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	口・咽頭・食道の構造と機能1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	口の構造と機能、口腔。咀嚼。	
		5.次コマとの関係		
2	栄養の消化と吸収2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	咽頭と食道の構造と機能2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	咽頭、嚥下、食道	
		5.次コマとの関係		
3	栄養の消化と吸収3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腹部消化管の構造と機能1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	胃の構造、形状。胃壁と胃液	
		5.次コマとの関係		
4	栄養の消化と吸収4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腹部消化管の構造と機能2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	小腸構造と機能	
		5.次コマとの関係		
5	栄養の消化と吸収5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腹部消化管の構造と機能3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	大腸の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
6	栄養の消化と吸収6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	肝臓1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	肝臓と胆嚢の構造	
		5.次コマとの関係		
7	栄養の消化と吸収7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	肝臓2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	肝臓の機能、門脈	
		5.次コマとの関係		

8	栄養の消化と吸収8	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	膵臓1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	膵臓の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
9	栄養の消化と吸収9	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腹膜	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	腹膜と腸間膜	
		5.次コマとの関係		
10	内臓機能の調整1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	自律神経による調整1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	自律神経の機能と特徴	
		5.次コマとの関係		
11	内臓機能の調整2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	自律神経による調整2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	自律神経系の構成と機能について	
		5.次コマとの関係		
12	内臓機能の調整3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	内分泌による調整1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	内分泌とホルモン、ホルモンの特徴	
		5.次コマとの関係		
13	内臓機能の調整4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	内分泌による調整2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	ホルモンの性質、機能、生成、分泌	
		5.次コマとの関係		
14	内臓機能の調整5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	内分泌による調整3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	ホルモンのフィードバック機能について	
		5.次コマとの関係		
15	内臓機能の調整6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	全身の内分泌腺	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	内分泌系の基本構造と機能	
		5.次コマとの関係		

16	内臓機能の調整7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	視床下部一下垂体系について	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	視床下部と下垂体の構造	
		5.次コマとの関係		
17	内臓機能の調整8	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	視床下部一下垂体系について	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	視床下部ホルモン、下垂体ホルモン	
		5.次コマとの関係		
18	内臓機能の調整9	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	甲状腺と副甲状腺	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	甲状腺と副甲状腺の構造とホルモン	
		5.次コマとの関係		
19	内臓機能の調整１０	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	甲状腺と副甲状腺	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	甲状腺と副甲状腺のホルモンの作用	
		5.次コマとの関係		
20	内臓機能の調整１１	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	膵臓	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	膵島の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
21	内臓機能の調整１２	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	副腎	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	副腎の構造とホルモン	
		5.次コマとの関係		
22	内臓機能の調整１３	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	性腺	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	性腺の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
23	内臓機能の調整１４	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	その他の内分泌腺	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	消化ホルモンなど	
		5.次コマとの関係		
24	体液の調整と尿の生成1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腎臓1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	腎臓の構造と機能について	
		5.次コマとの関係		

25	体液の調整と尿の生成2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腎臓2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	糸球体の構造と機能。	
		5.次コマとの関係		
26	体液の調整と尿の生成3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腎臓3	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	尿細管の構造と機能。再吸収と分泌を知る	
		5.次コマとの関係		
27	体液の調整と尿の生成4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	腎臓4	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	傍糸球体装置の構造と機能	
		5.次コマとの関係		
28	体液の調整と尿の生成5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	排尿路1	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	排尿路の構造	
		5.次コマとの関係		
29	体液の調整と尿の生成6	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	排尿路2	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	膀胱について	
		5.次コマとの関係		
30	体液の調整と尿の生成7	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	体液の調節	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	酸塩基平衡、電解質の異常	
		5.次コマとの関係		

動物健康管理

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		健常な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育胞について理解し、個体にあった適正飼育に努めるよう飼主家族への指導ができる。動物が疾患を持って診療を受ける時のみに獣医療が必要なのではなく、ヒトと動物の関係が変化し、家族の一員として受け入れられるようになった昨今では、動物の一生涯にわたって獣医療の介入が必要になってきている。動物病院は、動物の幸せな一生と健康をサポートし動物看護師は動物の健やかで快適な障害のための看護介入ができるようなりたい。動物の幸せな一生や健康をサポートする上で、ウェルネスプログラムとそれに含まれる定期健康診断の内容の充実は欠かせない。このプログラムにはどんなものが含まれているのか、また、飼主家族にどのように説明指導ができるのか、正しく理解していただけるのに必要な情報をアセスメントする。動物の一生の幸せと健康管理をテーマに、動物看護師にはどのような関わりができるのかも考える（参照：動物看護の教科書　第4巻：緑書房）
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物健康管理	
単位		
履修時間	15時間	
回数	15回	
必修・選択	必修	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。　両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物看護の教科書　第4巻	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	一般ケアと健康管理の方法①	1.シラバスとの関係		パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	動物は言葉で訴えないので、日頃の健康チェックが必要であることを理解する	
		3.コマ主題細目	健康チェックは病気の早期発見にも役立つ	
		4.コマ主題細目深度	健康チェックに必要な技術として①ブラッシング　②シャンプー　③運動　④食事と飲水の内容と量。バイタルサインの必要性を再確認し、正常時の平均値を確認しながらすすむ	
		5.次コマとの関係	次のコマでも引き続き一般的なケアと健康管理方法について学ぶ	
2	一般ケアと健康管理の方法②	1.シラバスとの関係	日頃実施する一般的な健康チェックについての続きを学習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	健康チェックは病気の早期発見にも役立つことを念頭に置いてチェックを進める	
		3.コマ主題細目	シャンプー時に実施する耳のケアも、動物看護師は耳介内の状態も確認できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	健常な動物であっても定期的に一般的な健康管理をすることの必要性を知る。実施する項目を決めて、毎回抜けることがないように進める。解剖学や生理学的数値を念頭において、異常な数の時に気がつくように観察をする。①耳　②眼　③口、歯　④爪　⑤肛門嚢　⑥排泄　以上について技術を習得できるようになる	
		5.次コマとの関係	獣医療におけるヘルスケアとウェルネスについて学ぶ	
3	ウェルネスプログラム①	1.シラバスとの関係	動物医療とウェルネスの関係を知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	ヒューマンアニマルボンド（HAB）を推進することで社会を支える医療分野となる	
		3.コマ主題細目	動物の福祉、医療を最優先に、すべての動物の幸せな一生、健康な一生を保証するために単なる予防ではない観点を持つ	
		4.コマ主題細目深度	動物の福祉、医療を最優先に、すべての動物の幸せな一生、健康な一生を保証するために単なる予防ではない観点を持つ。単なる感染症の予防ではなくヘルスケア（健康管理）とウェルネスという観点から広範なプログラムが計画され、提供されねばならないことを知る	
		5.次コマとの関係	ウェルネスに果たす動物看護師の役割について学ぶ	
4	ウェルネスプログラム②	1.シラバスとの関係	ウェルネスプログラムの内容を知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムの内容を挙げて各内容について簡単に説明できるように学習する	
		3.コマ主題細目	各項目について、簡単な概要を説明できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	①動物購入前のカウンセリング　②HABについて　③子犬と子猫のヘルスケア　④パピークラス　⑤しつけ教室　⑥行動学カウンセリング　⑦感染症の予防　⑧寄生虫コントロール　⑨検診プログラム　⑩避妊・去勢　⑪成犬・成猫のヘルスケア　⑫予防歯科　⑬　繁殖関せリング　⑭栄養学カウンセリング　⑮肥満のコントロール　⑯定期健康診断　⑰高齢動物ケア　⑱ペットロスサポート	
		5.次コマとの関係	今回に引き続きウェルネスプログラムのポイントについて学ぶ	
5	ウェルネスプログラム③	1.シラバスとの関係	前回に引き続き、プログラムのポイントについて学ぶと共にワクチンと予防について知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	ワクチンと予防について基礎的知識を復習する（免疫）	
		3.コマ主題細目	ワクチンと免疫について、感染症が成立しないようにするための知識を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	①感染予防　②感染源　③感染経路　④感受性動物　ワクチンとは　など基礎知識を学ぶ	
		5.次コマとの関係	免疫に関する知識を活かして、次回はワクチンの各論を知る	

6	ウェルネスプログラム④	1.シラバスとの関係	前回の基礎知識を元にして、ワクチンについて各論を学ぶ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	ワクチンの必要性と種類について知る	
		3.コマ主題細目	①ワクチンはなぜ必要なのか？　②ワクチンはどんな時に必要な？　③ワクチンの種類　④ワクチンの効果	
		4.コマ主題細目深度	ワクチンに関する知識として、①～④について学ぶ	
		5.次コマとの関係	今回の知識を元にして、実際の犬猫のワクチネーションを学ぶ	
7	ウェルネスプログラム⑤	1.シラバスとの関係	前コマからの続きで、実際のワクチン接種について学ぶ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	ワクチネーションとはなにか？	
		3.コマ主題細目	ワクチネーションに影響する因子とワクチンの種類につい	
		4.コマ主題細目深度	①犬猫のコアおよびノンコアワクチン　②副作用　③ワクチネーションプロトコール　④ワクチン接種後の管理　以上について学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	予防を知った上で定期健康診断にすすむ	
8	定期健康診断①	1.シラバスとの関係	なぜ、定期健康診断が必要なのか？を考える	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	何故必要なのか？　実施にあたっての準備について知る	
		3.コマ主題細目	何故必要なのかを自分自身で納得し、飼主家族への啓発をどのようにするか？について考える。実施のための準備ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	①飼主家族への啓発　②啓発の方法としてパンフレット　③検査内容にはどんなものがあるのか、を知ることができるようになる	
		5.次コマとの関係	実際の定期検診メニューを見る	
9	定期健康診断②	1.シラバスとの関係	定期健康診断の検査内容について知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	完全な身体検査、検査項目をグループに分けてパッケージをつくる	
		3.コマ主題細目	完全な身体検査、検査項目をグループに分けてパッケージをつくり、各パッケージについて実施法、料金、家族向け説明書などを作成してみる	
		4.コマ主題細目深度	定期健康管理の検査内容について基本的な知識の確認をしておく。各検査項目をグループに分けてパッケジにし、それぞれの実施法、料金、家族向け説明書などを作成する場合のグループワークをして各自が確認できる。	
		5.次コマとの関係	各パッケージを作成し、その内容を確認してみる	
10	定期健康診断③	1.シラバスとの関係	どんなパッケージにするか、項目の具体例を挙げる	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	定期健康診断の具体例を見てみよう	
		3.コマ主題細目	①血液検査（CBC）　②血液化学検査　③尿検査　④糞便検査　⑤眼科検査　⑥歯科検査　⑦心電図検査　⑧x線検査　⑨超音波検査　⑩血圧検査　⑪その他の検査	
		4.コマ主題細目深度	それぞれの検査の目的を確認できる。各検査方法の詳細は、臨床検査や動物看護実習時に習得するが、その内容を簡潔に説明できるように知識の復習ができる。これらの内容は、飼主家族に説明指導のために必要となるので、活用できるようにする。	
		5.次コマとの関係	各検査項目について知ったので、年齢ステージの定期健康検査について次で学ぶ	
11	定期健康診断④	1.シラバスとの関係	成犬期、高齢期の定期健康診断について学ぶ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	成犬期、高齢期の定期健康診断の内容について知る	
		3.コマ主題細目	1～7歳の動物は病気の早期発見のため、7歳以上（大型犬は5歳以上）の動物はオプション検査によって早期発見と共に高齢疾患に対応できるような内容になっていること	
		4.コマ主題細目深度	1～7歳の動物は病気の早期発見のため、7歳以上（大型犬は5歳以上）の動物はオプション検査によって早期発見と共に高齢疾患に対応できるような内容になっていることを学ぶので、オプション検査内容にいついて学ぶ。	
		5.次コマとの関係	定期健康診断の一端として、歯科予防について学ぶ	

12	歯科予防①	1.シラバスとの関係	伴侶動物にもっともよくみられる歯科疾患について、予防の観点から学ぶ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	歯科疾患の概要を理解し、いかに歯科疾患が全身に影響を及ぼしているか、予防の大切さを啓蒙できるように学習できる	
		3.コマ主題細目	歯科疾患の概要を理解し、いかに歯科疾患が全身に影響を及ぼしているか、予防の大切さを啓蒙できるように学習できる。特に歯周病について理解できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	①歯科疾患とは何か ②どんな症状か ③代表的疾患 ④全身に対する影響について ⑤予防の大切さ 以上の項目を、動物病院の全員が共有していることが大切であることを知る	
		5.次コマとの関係	歯科疾患を予防することの重要性を知った上で、歯科予防の指導に必要な知識を習得する	
13	歯科予防②	1.シラバスとの関係	歯科予防の指導に必要な知識を習得する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	飼主家族が家庭でデンタルケアを含めた予防歯科の指導ができるようになる	
		3.コマ主題細目	予防歯科で必要な機材について、手に取りながら使用目的を習得する。歯科診療に必要な主義の手順を確認し、	
		4.コマ主題細目深度	①予防歯科資材 ②手技の手順 ③代表的な歯科疾患の治療方法について適切な援助ができるように学習する	
		5.次コマとの関係	歯科疾患について知識を習得した上で、飼主家族への指導ができるようになる	
14	歯科予防③	1.シラバスとの関係	ライフステージ別の歯科検診ポイントについて学習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	犬のライフステージ別の歯科検診のポイントを知る ①幼犬（ここでは7か月未満） ②若齢犬（7か月齢～2歳） ③中齢犬（2～9歳） ④高齢犬（１０齢以降）	
		3.コマ主題細目	歯科疾患の予防を指導する上で必要なライフステージ別による検診のポイントの知識を習得する。	
		4.コマ主題細目深度	ライフステージ別の歯科検診の内容を理解することにより、動物病院におけるデンタルケアと、家庭でできるケアと予防について指導できるようになる。指導に必要なポイントを知る	
		5.次コマとの関係	健康管理をする上で必要な、動物にとって危険なものについて学ぶ	
15	食べてはいけないもの（事故の防止）	1.シラバスとの関係	伴侶動物の健康管理に必要な知識として、事故防止のために食べてはいけないもの、について知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	事故を未然に防ぐために、食べてはいけないものについて学習する。①食品 ②誤食する可能性のあるもの ③その他	
		3.コマ主題細目	家庭の中にある、身の回りの食品による事故を未然に防ぐために必要な指導ができるための知識を学習する。	
		4.コマ主題細目深度	①食品として、チョコレート、ねぎ類、生卵、レバー、生の豚肉、鶏の骨、ブドウ、味付けの濃いもの,など ②薬品として、ヒト用市販薬 ③化学薬品 ④植物として、毒性のある観葉植物など ④	
		5.次コマとの関係	全体のとりまとめとなる。	

「動物行動学Ⅰ」

		シラバス（概要）
学科		主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼主指導に活かす。 ヒトと動物のコミュニケーションは実際にはほとんどが行動を介して行われるため、私たち獣医療に関わる者は、おのおのが動物のプロフェッショナルとして行動の意味を的確に読み取り、人間と動物の間をつなく役割を持っている。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に、動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持という課題に加えて、動物においても心理的健康の大切さに注目しているということに他ならない。伴侶動物の問題行動が動物診療における深刻な課題であることがわかってきている。また、産業動物に関するアニマルウェルフェアの国際基準となった「5つの自由」の中の2つの項目は動物行動学に深く関連する。このような背景からも、動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、動物医療の専門職としも切望されている。
コース	動物看護学科	
年度		
学年	1年生	
期		
ユニット		
科目名	動物行動学Ⅰ	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択		
省庁分類		
授業形態		評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物行動学Ⅰ	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物行動学Ⅰ　動物行動学の基本概念1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	動物行動学の成り立ちと発展	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
2	動物行動学の基本概念2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動研究の4分野	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
3	動物行動学の基本概念3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動生態学の主な理論	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
4	動物行動学の基本概念4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動生態学の主な理論	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
5	行動の進化1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動の進化	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
6	行動の進化2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動の進化	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
7	行動の進化3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	家畜化のプロセス	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

8	行動の進化4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	家畜に伴う行動学的変化	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
9	行動の発達1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動発達の様式	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
10	行動の発達2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動学的変化	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
11	行動の発達3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
12	行動の周期性1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動の日周リズム	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
13	行動の周期性2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動の年周リズム	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
14	行動の周期性3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	その他の周期性	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
15	行動の動機づけと情動系1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動の動機づけ	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
16	行動の動機づけと情動系2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動の動機づけ	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

17	行動の動機づけと情動系3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	大脳辺縁系と情動行動の発現	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
18	行動の動機づけと情動系4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	大脳新皮質による情動の制御	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
19	行動に影響する生理物質	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	神経伝達物質	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
20	行動に影響する生理物質1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	ホルモンと行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
21	行動に影響する生理物質2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動に影響する主な科学物質	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
22	コミュニケーション行動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	動物のコミュニケーション行動と感覚世界	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
23	コミュニケーション行動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	視覚・聴覚を用いたコミュニケーション行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
24	コミュニケーション行動3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	嗅覚を用いたコミュニケーション行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
25	生殖行動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	哺乳類の生殖戦略	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

26	生殖行動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	性行動、育子行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
27	社会行動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	群の社会構造	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
28	社会行動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	敵対的行動、親和行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
29	維持行動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	摂食行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
30	維持行動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	排泄行動、身づくろい行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

「動物行動学Ⅱ」

学科		シラバス（概要）
コース	動物看護学科	主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼主指導に活かす。 ヒトと動物のコミュニケーションは実際にはほとんどが行動を介して行われるため、私たち獣医療に関わる者は、おのおのが動物のプロフェッショナルとして行動の意味を的確に読み取り、人間と動物の間をつなく役割を持っている。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に、動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持という課題に加えて、動物においても心理的健康の大切さに注目しているということに他ならない。伴侶動物の問題行動が動物診療における深刻な課題であることがわかってきている。また、産業動物に関するアニマルウェルフェアの国際基準となった「5つの自由」の中の2つの項目は動物行動学に深く関連する。このような背景からも、動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、動物医療の専門職としも切望されている。「動物行動学Ⅰ」で学んだ知識を活用し、これまで以上に行動学の知識を診療や問題行動の補正に活かし、動物たちの心身の健康増進に役立つようにする。
年度		
学年	2年生	
期		
ユニット		
科目名	動物行動学Ⅱ	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択		
省庁分類		
授業形態		評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物行動学・臨床行動学	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物行動学Ⅱ　行動変容と学習理論1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	刺激と反応の関係	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
2	行動変容と学習理論2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	古典的条件付けとオペラント条件付け	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
3	臨床行動学の基礎1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	問題行動の診断と治療の進め方	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
4	臨床行動学の基礎2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動治療の方法	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
5	臨床行動学の基礎3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	問題行動の予防	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
6	臨床行動学の基礎4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	問題行動の予防	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
7	アニマルウエルフェアの行動学的評価1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	アニマルウエルフェアの概念	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

8	アニマルウエルフェアの行動学的評価2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	アニマルウエルフェアの行動学的指標	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
9	問題行動とコンサルテーション1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	問題行動とは	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
10	問題行動とコンサルテーション2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	コンサルテーション技法	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
11	問題行動とコンサルテーション3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	コンサルテーション技法	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
12	問題行動とコンサルテーション4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	コンサルテーション技法	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
13	問題行動とコンサルテーション5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	問題行動の診断と治療	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
14	行動治療の方法1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動修正法の種類	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
15	行動治療の方法2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動修正法の種類	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

16	行動治療の方法3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	行動治療における薬物療法の紹介	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
17	犬における問題行動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
18	犬における問題行動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
19	犬における問題行動	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
20	犬における問題行動3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	恐怖・不安に起因する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
21	犬における問題行動4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	恐怖・不安に起因する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
22	犬における問題行動5	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	恐怖・不安に起因する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
23	猫における問題行動1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	排泄に関する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
24	猫における問題行動	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	排泄に関する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

25	猫における問題行動2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
26	猫における問題行動4	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
27	問題行動の予防1	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	適切な伴侶動物の選択基準	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
28	問題行動の予防2	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	十分な社会化と馴化	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
29	問題行動の予防3	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	十分な社会化と馴化	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		
30	まとめ	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係		

「動物看護学」

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		小動物診療は社会事情を受けてますます高度化し、動物病院においては獣医師のほかに、「診療の補助行為をはじめとする種々の動物医療関連業務」に携わり、かつ「飼い主に対する適切な世話や指導」を行う、いわゆる動物看護師の存在と重要性が大きくなってきた。単に獣医師の補助的サポートをするだけの存在ではなく、動物看護師でなければ行えない専門職としての職幾を明らかにする必要がある中で、獣医師が為せる職域ではない「動物看護学」を学び、職域として確立できるようにする。動物看護師は、獣医師の業務である診断、処方、手術、予後の判定以外の多岐にわたる業務をこなさねばならない。その業務の専門性を重要視しながら、獣医師では実施できない「動物看護学」遂行できるような動物看護師を育成するための学問とする。
年度	2014	
学年	1年生	
期	前期・後期	
ユニット		
科目名	動物看護学	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態	座学・グループワーク	評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。その他、授業時に実施するグループワークの内容や、“気付きノート”の提出により加点がある。
教科書	今からはじめる動物看護過程 動物看護者の倫理綱領	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護概論	1.シラバスとの関係	動物看護学全体をみる	動物看護者の倫理綱領・パワーポイント
		2.コマ主題	動物看護学概論	
		3.コマ主題細目	動物看護学とは何か	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは、人の看護、対象、目的、は？動物看護とはなにか？を考える。学生が考える具体的な動物看護とは何か、をグループワークする	
		5.次コマとの関係	これから学ぶ動物看護という職業を知る	
2	動物看護の業務	1.シラバスとの関係	動物看護学を学ぶ上で、業務を考える	動物看護者の倫理綱領・パワーポイント
		2.コマ主題	動物看護師の業務	
		3.コマ主題細目	動物看護師の業務には何があるのか、を考える	
		4.コマ主題細目深度	獣医療における動物看護師の役割を考える。動物看護に必要な心の成長とは何か、を知る。	
		5.次コマとの関係	一つづつの看護技術を実践する指針となる	
3	一つ一つの動物看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の業務技術をみる	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護技術	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の意義と考え方	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の実際、専門職としての看護技術の必要性を知る。技術を発揮する場面の状況を理解する。動物看護を行う上で必要な字牛つの意義を理解し、専門職としての動物看護技術について考えられるようにする	
		5.次コマとの関係	動物看護の基礎は観察であるが、その前に技術の意義を知る	
4	動物看護の観察1	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護の基本は観察力	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護の観察は推測	
		3.コマ主題細目	動物看護の観察とは、何か。観察の対象、方法、進め方	
		4.コマ主題細目深度	動物看護を行う上で共通して必要な観察技術を理解できる	
		5.次コマとの関係	観察1、を学び2に進む	
5	動物看護の観察2	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護の基本な観察力、その2	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護の様々な場面での観察の根拠	
		3.コマ主題細目	観察される場面を考える、また、観察される自分自身もあ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師としての観察の場面をイメージでき、必要な観察を考えられる	
		5.次コマとの関係	動物看護者のコミュニケーションを学ぶ前に基本的観察	
6	動物看護技術　コミュニケーション1	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	一般的なコミュニケーションとは	
		3.コマ主題細目	コミュニケーションの目的、対象、方法	
		4.コマ主題細目深度	社会人として必要なコミュニケーション技術を知り、コミュニケーションとはどんなものかを理解し、社会人としての必要な話し方や態度を意識して行動できる	
		5.次コマとの関係	コミュニケーションとは、の基礎を知った上で2に進む	
7	動物看護技術　コミュニケーション2	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護者としてのコミュニケーションとは	
		3.コマ主題細目	「聞く」というコミュニケーション	
		4.コマ主題細目深度	動物看護者としての大事な「聞く」技術と、社会人として必要な敬語に関しても理解し、身につけられる。敬語のトレーニング	
		5.次コマとの関係	コミュニケーションとは、1，2を知って3に進む	

8	動物看護技術　コミュニケーション3	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護者としてのコミュニケーションとは	
		3.コマ主題細目	飼い主を理解するために必要なこと	
		4.コマ主題細目深度	人を理解し、人に働きかける時に必要な考えアk他や行動の仕方を理解できる。患者動物の家族を理解するために必要なこと。客観的理解、自分自身への理解	
		5.次コマとの関係	コミュニケーションとは、1，2、3を知って4に進む	
9	動物看護技術　コミュニケーション4	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	実践的なコミュニケーションについて	
		3.コマ主題細目	効果的な・効果的ではないコミュニケーションとは	
		4.コマ主題細目深度	前回までに学んだコミュニケーション技術を使って実際のコミュニケーションの場面をイメージできる。アサーティブコミュニケーション、プロセスコード	
		5.次コマとの関係	コミュニケーション技術を学んだ上で次の技術習得に移る	
10	動物看護技術　記録・報告1	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護技術として、記録・報告の方法を知る	
		3.コマ主題細目	記録の意義について	
		4.コマ主題細目深度	日常生活から記録の意義について考えられる。動物看護師の書く看護記録の意義を理解できるようになる。カルテと看護記録の違い、看護記録の意義、必要性。	
		5.次コマとの関係	動物看護技術としての記録、報告1を知ってから2に移る	
11	動物看護技術　記録・報告2	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護技術として記録・報告の方法を知る2	
		3.コマ主題細目	実際の動物看護記録について	
		4.コマ主題細目深度	専門職が記録する効果的な動物看護記録のあり方を理解できるようにする。看護記録の構成、SOAP法。SOAP法による動物看護記録の書き方を学ぶ	
		5.次コマとの関係	動物看護技術としての記録、報告1、2を知ってから3に移る	
12	動物看護技術　記録・報告3	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	動物看護技術として記録・報告の方法を知る3	
		3.コマ主題細目	動物看護における報告・連絡・相談の意義	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師として、チームで働く物としての報告連絡相談の重要性を理解できる。動物看護師という職業について言葉にできるようにおする。ここまれの学びを踏まえて、動物看護師という職業について再び考えてみる	
		5.次コマとの関係	基本的技術を踏まえて、応用編に進む	
13	感染予防の看護技術1	1.シラバスとの関係	動物看護学の中の、具体的技術論を学ぶ	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	感染予防の技術1	
		3.コマ主題細目	手洗い・交差感染・感染の成立を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	感染の成立を理解し、日常的に衛生的な手洗いと感染予防の動物看護技術を考えられるようにする。	
		5.次コマとの関係	感染予防技術基本を学び、応用に進む	
14	感染予防の看護技術2	1.シラバスとの関係	動物看護学の中の、動物看護者に必要な具体的技術論を学ぶ	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	感染予防の技術2	
		3.コマ主題細目	手洗い・隔離室へのガウンテクニック	
		4.コマ主題細目深度	手洗い・隔離室へのガウンテクニックを動物看護師として考えられるようにする。空気感染、飛沫感染、接触感染の汗腺予防の方法と看護技術を知る	
		5.次コマとの関係	院内の感染予防技術を知り、環境整備知識を学ぶ	
15	環境整備の看護技術1	1.シラバスとの関係	動物看護学の中の、動物看護者に必要な具体的技術論を学ぶ	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	診療現場の環境整備の看護技術	
		3.コマ主題細目	医療現場の感染レベルと消毒法	
		4.コマ主題細目深度	清潔・汚染の区別、なぜ環境を整える必要があるのか、を学ぶ。環境とは？動物の5つの自由を学ぶ。整えるべき動物病院における環境整理を考えられるようにする。	
		5.次コマとの関係	診療の環境整備知識基礎を学び、2に進む	

16	環境整備の看護技術2	1.シラバスとの関係	動物看護学の中の、動物看護者に必要な具体的技術論を学ぶ	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	診療現場の環境整備の看護技術	
		3.コマ主題細目	におい環境の調節、温度環境の調整	
		4.コマ主題細目深度	入院舎・入院ケージの環境整備の方法を考えられるようにする。ケージ周囲の環境整備、目的。適応、診察室・待合室・診察室など。	
		5.次コマとの関係	環境整備の知識を知って安楽の看護技術に進む	
17	安全を守る看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者に必要な技術として	今からはじめる動物看護過程
		2.コマ主題	患者動物の安全を守る看護技術とは	
		3.コマ主題細目	安全を確保するマネージメント	
		4.コマ主題細目深度	動物病院で起こりがちな事故を説明し、動物看護師としての安全管理を考えられるようにする。安全を脅かす原因、事故事例の分析と改善、SHELLモデル。	
		5.次コマとの関係	動物看護学を遂行するために重要な安楽につなぐための	
18	安楽の看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行するために必要な技術として	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	安楽の考え方を学ぶ	
		3.コマ主題細目	安楽の考え方、入院している患者動物の安楽ケアーにつ	
		4.コマ主題細目深度	動物にとって安楽な状態とは何かを考えられるようにする。安楽とは何か？入院患者動物、安楽ケアー、痛みの緩和、マッサージ、マッサージの方法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	安楽の技術の基本を知り、応用に進む	
19	薬物療法の動物看護技術1	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	薬物療法の技術について学ぶ	
		3.コマ主題細目	薬物投与、吸収、全身への作用経路について	
		4.コマ主題細目深度	薬の体内への代謝経路を考えられるようにする。代謝に関わる臓器を理解できるようにし、薬物の代謝、排泄経路、薬物の主作用と副作用、薬効に影響を与える要因について学ぶ	
		5.次コマとの関係	薬物療法の基礎を知り、応用に進む	
20	薬物療法の動物看護技術2	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	薬物療法の技術について学ぶ	
		3.コマ主題細目	薬の医療知識、薬物療法、投薬のプロセス	
		4.コマ主題細目深度	薬の基礎知識から投薬の方法を考えられるようにする。経口薬の投与方法を理解できる。投薬時の確認内容、正しい薬物投与、5R。投薬方法と種類について学ぶ	
		5.次コマとの関係	経口薬の知識を持って、外用薬に進む	
21	薬物療法の動物看護技術3外用薬	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	外用薬を学ぶ	
		3.コマ主題細目	点眼、点鼻、点耳の投薬方法を知る	
		4.コマ主題細目深度	眼の解剖、耳の解剖を復習し、外用薬の使用方法を学ぶ。外用薬の動物看護技術を考えられるように学ぶ。	
		5.次コマとの関係	投薬経路を復習し、注射法に進む	
22	薬物療法の動物看護技術4注射法	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	注射法による薬物投与の動物看護について	
		3.コマ主題細目	注射法の動物看護技術を考える	
		4.コマ主題細目深度	注射の種類と薬効時間、注射器と注射針にるいて。注射の準備、注射技術のポイント、皮下注射、筋肉内注射を行う時の看護技術を学ぶ	
		5.次コマとの関係	注射法を学んだ上で、実際の注射時の看護技術に進む	
23	薬物療法の動物看護技術5注射法	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	注射法による薬物投与の動物看護について	
		3.コマ主題細目	注射技術のポイント	
		4.コマ主題細目深度	実際に注射法を行う時の動物看護技術を考えられるようにする	
		5.次コマとの関係	注射法を理解した上で、輸液療法の看護技術を学ぶ	
24	輸液療法の動物看護技術1	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	輸液療法の看護技術を知る	
		3.コマ主題細目	輸液療法の看護技術を考えられるようにする	
		4.コマ主題細目深度	輸液療法の看護技術を考えられるようにする。必要な備品や、動物への負担を理解出来る。輸液療法とは何か、輸液療法の目的、輸液療法を受けている患者動物の状況、必要な備品に触れてみる。	
		5.次コマとの関係	輸液療法の基本を学び、応用に進む	

25	輸液療法の動物看護技術2	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	輸液療法の看護技術を考えられるようにする	
		3.コマ主題細目	実際に必要な輸液療法の動物看護技術を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	輸液療法に必要な水分出納、輸液療法に必要な技術について。	
		5.次コマとの関係	次の動物看護技術の学習に進むために看護技術の確認	
26	検査の動物看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	検査の動物看護技術を学ぶ	
		3.コマ主題細目	検査を行うために動物看護師の役割を考える	
		4.コマ主題細目深度	患者動物中心の検査を行うために動物看護師の役割を考えられるようにする。検査前の看護、説明、検査中の看護、検査後の看護、検査の種類、検体採取時の基本事項、ボディーメカニクス、各種検査について学ぶ	
		5.次コマとの関係	次の動物看護技術習得に進む	
27	排泄援助の動物看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	排泄援助の動物看護技術について	
		3.コマ主題細目	排泄、排便の動物看護師としての役割を考える	
		4.コマ主題細目深度	排尿の意義、生理的意義、心理・社会的意義、排泄の生理、便意、排泄の生理、排泄の機序、排泄物の観察。便秘の分類	
		5.次コマとの関係	排泄後の清潔は動物看護師の重要な役割である	
28	清潔を保つ動物看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	清潔を保つ	
		3.コマ主題細目	清潔を保つ保つ動物看護技術について	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師としての被毛の管理について。清潔の生理的意義、社会的な意義、被毛の管理の必要性、寝たきりの大型犬の全身清拭をする	
		5.次コマとの関係	キズの管理をする基本を学ぶ	
29	創傷管理の動物看護技術	1.シラバスとの関係	動物看護学を遂行する動物看護者の具体的技術の習得	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	創傷を看護する	
		3.コマ主題細目	動物看護師として創傷管理について考える	
		4.コマ主題細目深度	創傷とは、じょくそうとは何か？じょくそうに対する動物看護師の役割について	
		5.次コマとの関係	動物看護者の業務を予定通り学び、まとめへ進む	
30	一年間の総まとめ	1.シラバスとの関係	動物看護学を学んだまとめと	今からはじめる動物看護過程、パワーポイント
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	一年間を振り返る	
		4.コマ主題細目深度	１年間で学んだことを振り返り、動物看護という職業について語り、動物看護師としてsの社会貢献、自己研鑽の仕方を考えられるようにする。動物看護を発展させていくために方法を知る。（学会発表、セミナーなどについて）	
		5.次コマとの関係		

「臨床動物看護学」（学生・教員向け授業15時間用）

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース	動物看護学	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族を支援できる専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、援助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せなず、習性や生態もちがう患者動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭での看護援助を継続して貰うために非常に大切である。また、動物看護師が指導する内容をよく理解し、家庭で患者動物に対して実行して貰えることは、その動物が治ることができるために非常に重要なことである。ここで指導教育する動物看護師が家族に信頼してもらえなければ、その教育指導内容をも信頼実行してもらえないことにもなりかねない。そのためには、信頼して貰える動物看護師になることがまず必要となる、これには、第一印象を良くし、指導者として信頼できる知識とそれを伝えるコミュニケーション能力と技術を持つことが必要となる。また、患者動物の現在の状況を正しく分析することによって、今後予測される問題を検討し、どんな時にどのような看護を実施すべきなのかを判断しなければならない。（参照:「疾患別動物看護ハンドブック」）
年度	2013年度	
学年	1年生＋2年生	
期		
ユニット		
科目名	臨床動物看護学（学生向け・教員向け授業）	
単位		
履修時間	15時間	
回数	15回	
必修・選択		
省庁分類		
授業形態	座学、演習	評価方法
作成者	山下眞理子	①1～10コマ、確認のための小試験（1～6コマでは、3コマ毎に1回×2回、症状別では2コマで1回×2回）、11～14コマは2コマづつ2回の小試験　②授業後のアンケート
教科書	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護学概論1	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護概論の中の①動物看護とは？②動物看護の対象の理解③職業としての動物看護師　について考える	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、動物看護過程とは何か、1年生で学習した動物看護学を見直し、復習する。写真を見て、どんな感情を持ったかを書留るところから各自が持つ動物への思いを確認する。それが　看護のイメージへとつながる。看護の歴史をナイチンゲールからひもとき、看護のこころと在り方、専門職としての動物看護師を知る。	
		5.次コマとの関係	動物看護過程の展開を知る	
2	動物看護学概論2	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護を実践する上で必要な観察技術について知る	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは、様々な情報を集積することにより看護過程を展開し、そこで得られた情報から今の問題を知ることによって展開できる。言葉を持たない動物の今と将来を想像する力が必要となる。動物への思いをバラバラに実行するのではなく、その思いをまとめて整理したものが動物看護過程であることの確認。	
		5.次コマとの関係	各自の持っている動物への思いやりが動物看護につながり、動物看護過程の展開につながる	
3	動物看護学概論3	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	どのステージにも「共通する動物看護技術」の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素①観察について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の基本的な条件は、その動物がその動物らしく健康な生活が送れるように支援することであり、そのためには看護対象の状況を適切に捉える必要がある。このために必要なのが観察力。専門職としての観察技術により、患者動物が必要としている看護は何か？看護対象の状態はどうか？を観ることであり、そのためには正常である時を知っていることが重要で、その他の力を駆使して推測する力が必要。観察することで必要としている看護が見つかる。初めて受診する犬の事例を見て、おきる可能性のある問題点と解決法をグループワークする。動物看護とは？を知った上で動物看護者の倫理綱領について学ぶ.	
		5.次コマとの関係	「共通する動物看護技術」の要素を引き続き学ぶ	
4	動物看護学概論4	1.シラバスとの関係	共通する動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護技術の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素②記録について学ぶ。アセスメントのSOAPモデルが理解できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に関する知識は通常、経験豊かな動物看護師と獣医師の診療中の動作や会話の中で観察により得られる。観察によるアセスメントを実行し、それを記録として残すことにより看護診断や看護計画に通じる。また、診療の中では看護料として料金をいただける対象ともなり得る。ここでは特にアセスメントのSOAPモデルについて習得できる。アビリティーモデルについて知り、アセスメントや記録に活用できるようになる。動物看護の基本となる倫理綱領について学ぶ	
		5.次コマとの関係	看護を実践する上では技術が大切である。実際の技術を習得すると共に、他者とのコミュニケーション能力をも得ることができるようにする	

5	動物看護学概論5	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる。引き続いて③について知	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護技術の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素③コミュニケーションについて学ぶ。患者動物がよりよく治るためには、飼主家族との関係が大切であるということを知る	
		4.コマ主題細目深度	動物とその飼主家族が健康的な生活を送るれるように援助するためには、対象とのコミュニケーションが重要である。コミュニケーションとは知覚、感情、思考の伝達であり分かち合う、伝達するという意味を持つ。患者動物の治療のためには飼主家族に動物看護師自身を良く理解し、信頼してもらうことが必要でありそのためにはコミュニケーションを取れることが必要になる。専門職として、社会人として必要なコミュニケーション手段を見直し、グループワークをしながら習得できる	
		5.次コマとの関係	動物看護の基本を復習した上で、看護技術にはどんなものがあるかを知る	
6	動物看護学概論6	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素を知った上で、クライアントエジュケーションについてまなぶ	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護師による飼主教育について。	
		3.コマ主題細目	飼主教育（クライアントエジュケーション）について必要なこと。具体的な例をあげて実際を体験する	
		4.コマ主題細目深度	飼主に動物の管理や援助を依頼し、これを継続実施していくことは動物が回復し又は健康を維持ししていくためにとても重要な事である。飼主に指導するために必要な技術について知り、実際の時に臆せず実施できるようになる	
		5.次コマとの関係	基本的な看護精神と技術を知り、症状別の看護に進む	
7	症状別の動物看護1　痛み①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	痛みについて。痛みのシステムと意味を知る	
		3.コマ主題細目	痛み。痛みがあるであろう患者動物の様子を観察し原因を推測する。また、その痛み自体についての知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	痛みのメカニズムや分類を知る。痛みがあるのであろう患者動物の観察により、安全な看護を実践するための過程を知るための学習をする。また、痛みの出る疾患を知り、獣医師による診断結果が出た時に理解し現状を共有できるための知識を持つことができる。慢性の高齢犬関節炎は、鎮痛剤のみでなく運動療法などリハビリテーションの技術によっても疼痛管理が可能であることを事例で検討する。	
		5.次コマとの関係	痛みとは何か、どんな様子を表すのかを知って痛みのある時の看護をしる	
8	症状別の動物看護2　痛み②	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	痛みのある患者動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	急性痛と慢性痛の違いを知り、それに沿った看護を理解	
		4.コマ主題細目深度	痛みのある患者動物の看護について学ぶ。痛みを表現することが不得手な患者動物に対して、どのように推測し、どこまで自分の痛みとして感じることができるか。断脚をした事例を前にして、術後の痛みの管理、看護師が介入できる援助について考えることにより患者動物の身になって考察できるようになる。慢性痛の代表的疾患を関節炎として事例で検討し、急性痛は断脚後の看護について検討す	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「かゆみ」、に進む。	
9	症状別の動物看護3　かゆみ①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	かゆみから考えられること、皮膚疾患としてのかゆみと脱	
		3.コマ主題細目	かゆみを持つ動物の観察と、かゆみを伴う原因について考え、知識を得る	
		4.コマ主題細目深度	かゆみを伴う疾患にどんなものがあるのか？観察により患者動物の今を知る。また、原因をよく理解した上で獣医師の診断した内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶことができる。皮膚疾患の場合には長期闘病になる慢性疾患の看護が必要になるので、家族への教育指導の方法を知ることが必要。	
		5.次コマとの関係		

10	症状別の動物看護4　かゆみ②	1.シラバスとの関係	臨床的な症状の観察と、原因となる疾患の知識を持った上で患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようにす	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	経過の長いであろう皮膚疾患の看護について	
		3.コマ主題細目	慢性疾患としての深在性膿皮症についての看護を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	慢性疾患として経過が長い事が予想される皮膚疾患に対する看護を考える。かゆみを伴う疾患にどんなものがあるのか？家族の理解度を挙げ、患者動物が不快でない生活を送れるような看護を援助できるようにする	
		5.次コマとの関係	主に皮膚疾患としてのかゆみから、慢性疾患の長期看護の大変さを学び、まとめをする	
11	症状別の動物看護5　嘔吐①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	嘔吐とは？吐出との相違について確認する	
		3.コマ主題細目	嘔吐する患者動物の観察と、そこから発する看護技術に	
		4.コマ主題細目深度	嘔吐のメカニズムや分類を知る。嘔吐がある患者動物の今を知ることにより患者動物が安全な看護をうけられるよう、看護を実践するために嘔吐のある疾患の情報を獣医師と共有できるための知識を持つことができる。消化器系とは？嘔吐とは？吐出との違いとは？	
		5.次コマとの関係	嘔吐のある動物の看護を知る	
12	症状別の動物看護6　嘔吐②	1.シラバスとの関係	症状として嘔吐がある患者動物を想定して看護を学ぶ	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	嘔吐のある症状をもつ患者動物の事例を想定して看護を考える	
		3.コマ主題細目	異物摂取した犬、嘔吐する患者動物の観察と、そこから発する看護技術について学ぶことができる。十分に食べること、飲むことができない動物の看護について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	事例を想定し、その患者動物がアビリティーモデルの中の１十分に食べられるか？飲めるか？身づくろいができるか？を確認しながら看護を実践する。異物が胃内にある犬の看護過程について事例を見ながら検証する。	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の排便異常に進む	
13	症状別の動物看護7　排便異常①	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	正常な排便と異常な排便について	
		3.コマ主題細目	異常な排便にはどのようなものがあるのか、その原因と看護について知る	
		4.コマ主題細目深度	異常な排便。下痢、軟便、血便、便秘。小腸性下痢、大腸性下痢。異常な排便を観察し、その原因をよく理解した上で獣医師の診断した内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	異常な排便についての知識を、患者動物の看護に活かす	
14	症状別の動物看護8　排便異常②	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や患者動物の今を知ることにより患者動物が安全で安楽な看護を受けられるようになれる	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	排便異常のある事例を想定し、それについての看護をまなぶ	
		3.コマ主題細目	排便異常がある患者動物の看護をする時には、栄養学的知識や家での治療としての食事体制を、飼主家族に守って継続して貰えることが必要。	
		4.コマ主題細目深度	ジアルジア感染による下痢が考えられる事例を想定し、この事例から看護過程を実践してみる訓練により、実践できるようになる。人にも影響が考えられる原因があるため、治癒するまで入院が必要となる事例をもとにして看護過程を考えてみる。	
		5.次コマとの関係	事例により看護過程が実践できるようになり、次からの症状に活用できる	
15	症状別の動物看護のまとめ	1.シラバスとの関係	まとめ	①疾患別　動物看護学ハンドブック　②今からはじめる　動物看護過程　③動物看護者の倫理綱領　④動物看護実践ハンドブック　⑤パワーポイント資料
		2.コマ主題	動物看護概要と症状別看護のまとめ	
		3.コマ主題細目	症状別看護の総まとめ。症状別の看護を通して、改めて動物看護とは何か、を理解し振り返る	
		4.コマ主題細目深度	今回の症状別看護を学習し、改めて動物看護とは何か、どこに着眼して観察し、記録した上で看護技術を活かす。	
		5.次コマとの関係		

「動物薬理学」

		シラバス（概要）
学科	動物看護学科	薬は獣医師の処方により調剤するものであるが、その薬理作用および副作用、薬が発揮する効果などを動物看護師が確認し知識として持っていることは必要なことである。動物は、ヒトと異なり必要に応じて進んで薬を口にすることがなく、家族の協力又は医療の現場にいるものが投与する」ことが必要になる。その時の投与経路について熟知し、それに伴うリスクを理解していおくことによって患者動物に危険なく、安全に投与し、その結果が正しい作用なのか危険なものなのかの容態を観察することが看護の上でとても重要なことである。獣医師が処方する薬ではあるが、その名称を知り、作用を理解しておくことによりカルテに記載された内容を正しく理解し、作用とその結果おきてくるかもしれない症状を予測することができるようにしたい。
コース	動物看護理学療法／動物看護	
年度	2014	
学年	2	
期	前期・後期	
ユニット		
科目名	薬理学	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必修	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物看護の教科書 第6巻	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	総論 薬理学とは	1.シラバスとの関係	薬理学を学ぶ上で必要な基本的知識を学ぶ	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書 第6巻
		2.コマ主題	薬理学とは	
		3.コマ主題細目	薬理学とは？基本用語、必要な用語を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	1薬理学とは何か 2医薬品に関する情報の必要性 3薬品の取扱いと注意事項について学び、薬理学に必要な基本的な知識を習得することができる	
		5.次コマとの関係	次のコマでは、薬の剤形について学ぶ	
2	薬物の剤形1	1.シラバスとの関係	臨床の場で薬剤を使用する際に必要な知識を学ぶ	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書 第6巻
		2.コマ主題	薬物の剤形について	
		3.コマ主題細目	薬物の剤形について知る；内服薬	
		4.コマ主題細目深度	薬剤は、局所に効かせたい場合や、全身に効かせたい場合など、目的が異なることがあり、それに最適な形状を選んで投与する必要がある。なぜ、様々な形状があるのかを理解し、患者動物またはその家族のコンプライアンスにより判断し、使い分けることができうるような知識を得ることを目的に学ぶ	
		5.次コマとの関係	必要な環境に応じた薬剤の形状を理解できる。次は注射薬。	
3	薬物の剤形2	1.シラバスとの関係	臨床の場で薬剤を使用する際に必要な知識を学ぶ	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書 第6巻
		2.コマ主題	薬物の剤形について	
		3.コマ主題細目	薬物の剤形について知る；注射薬、外用薬	
		4.コマ主題細目深度	目的に応じた効果を期待するために使い分ける。注射という行為は獣医師のみが行えることではあるが、患者動物の観察や注射後の観察、使用する際の準備などについて必要な知識を学ぶ。それにより患者動物の看護介入に役立つ知識を得ることができる	
		5.次コマとの関係	薬剤について知った後で、その薬物の投与方法とその特徴について知る	
4	薬物の投与方法とその特徴1	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書 第6巻
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について；様々な投与方法の長所、短所	
		4.コマ主題細目深度	様々な投与経路の長所と短所を知ることにより、環境と状況に際的な方法を知ることができる。知識を持つことにより、看護介入時に活用することができる。	
		5.次コマとの関係	投与方法の全体を知ることにより理解し、各論に進む	
5	薬物の投与方法とその特徴2	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書 第6巻
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について；静脈内投与①	
		4.コマ主題細目深度	静脈内に針を刺入し、シリンジや点滴装置を用いて薬剤を投与する方法。効果発現は早いが、そのため薬剤の反応も早く現れることになるので、治療をうける動物の観察をより詳細にする必要がある。知識を得て看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	静脈注射という事が、生命に直接影響を及ぼすということの認識	
6	薬物の投与方法とその特徴3	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書 第6巻
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について；静脈内投与②	
		4.コマ主題細目深度	静脈内に直接薬剤を投与する、ということは直接循環血の中に薬剤が投与され、生命に影響を及ぼす可能性もあるということ。薬剤投与が命に関わる重要事であるということを認識できるよう、生命現象についても改めて認識できるよう解説を得、認識を新たにできるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は、他の薬剤投与方法を学ぶ	

7	薬物の投与方法とその特徴4	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について;その他の投与方法として経口	
		4.コマ主題細目深度	口から薬剤を投与する方法。長所と短所をわきまえ、家族への指導が出来るようにする。簡便で安全な方法ではあるが、家庭内では油断することがないよう、回数や量を家族が勝手な判断で変更してしまわないような教育指導できる知識が必要となる。誤飲や大量摂取、または飲んだつもりになってしまって効果が出ないというようなことのないよ	
		5.次コマとの関係	次は、他の薬剤投与方法を学ぶ	
8	薬物動態1	1.シラバスとの関係	薬を投与した後の、体内での流れと効果発現までのストーリーを知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	体内の薬物の動きについて	
		3.コマ主題細目	体内の薬物の動き、効果発現までの流れについて知る	
		4.コマ主題細目深度	薬物は、様々な方法で投与された後入った体内で、どのような流れで効果が発現されるのか、という流れのストーリーを学び、投与された後の薬剤を考慮しながら患者動物の看護介入に活かすことができるようになる	
		5.次コマとの関係	薬の投与方法を学んで、後に、その薬がどのように吸収されるのかを次回に知った後でプロセスを学ぶ	
9	薬物動態2	1.シラバスとの関係	薬を投与した後の、体内での流れと効果発現までのストーリーを知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	体内の薬物の動きについて	
		3.コマ主題細目	体内の薬物の動き、効果発現までのプロセスについて知	
		4.コマ主題細目深度	体内での薬剤の崩壊、胃からの排出、小腸からの吸収、食事の影響、分布ににについて学び、食事後の投薬された患者動物の看護介入に活かすことができるようにする	
		5.次コマとの関係	薬物の分布について知り、その後の代謝を理解する	
10	薬物動態3	1.シラバスとの関係	薬を投与した後の、体内での流れと効果発現までのストーリーを知る	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	体内の薬物の動きについて	
		3.コマ主題細目	体内に入った薬剤の代謝について知る	
		4.コマ主題細目深度	薬物は、吸収されて全身に分布し、作用部位に届くことによって効果を発揮する。しかし、それまでの経過中で肝臓を通過する際に代謝を受けることになり、このことは薬剤が効果を発揮できるうえで重要な作用となる。再度、肝臓の働きを復習しながら代謝について知り、効果的な投薬について学ぶことができる。	
		5.次コマとの関係	次から、薬物に影響を与える要因について学ぶ	
11	薬物に影響を与える因子1	1.シラバスとの関係	体内に入った薬剤が影響を与える因子について（量、その他要因）	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	効果に影響を与える因子について	
		3.コマ主題細目	効果に影響を与える因子、量について	
		4.コマ主題細目深度	薬物は、全ての動物に対して同じように作用するものではないので、さまざまな要因により薬物の効果が変化したり、副作用がでることを知る。これらのことが看護介入に活かせるよう知識として得ることができるようにする	
		5.次コマとの関係	量の他の要因について学ぶ（頻度、年齢、性別）	
12	薬物に影響を与える因子2	1.シラバスとの関係	体内に入った薬剤が影響を与える因子について（頻度、年齢、性別）	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	効果に影響を与える因子について	
		3.コマ主題細目	効果に影響を与える因子、頻度、年齢、性別	
		4.コマ主題細目深度	投与する動物の年齢が若い、高齢ということによっても発現する効果に違いがでることが考えられる。調剤は、このような要因を念頭においてすることになるので、そういう知識を持っていることが看護介入に活用できることになる	
		5.次コマとの関係	次回から、おもな薬剤の特性（各論）に進む	
13	おもな薬剤の特性1	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	自律神経作用薬	
		3.コマ主題細目	自律神経の生理の復習と、その作用薬とは？	
		4.コマ主題細目深度	自律神経とは、消化器、血管系、内分泌腺、生殖器など、自分の意志でコントロールできない期間（不随意器官）の機能を促進または抑制する神経。解剖生理学的知識を復習しながら、ここに影響を及ぼす薬剤について学ぶことが	
		5.次コマとの関係	受容体について学ぶ	
14	おもな薬剤の特性2	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	自律神経作用薬	
		3.コマ主題細目	自律神経に影響を及ぼす薬物について、受容体作動薬に	
		4.コマ主題細目深度	副交感神経作動薬、交感神経作動薬、受容体について学ぶ。患者動物に処方された薬剤の作動を知ることにより、患者動物の容態の観察をする上でより留意できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次のコマでは、抗菌薬について学ぶ	

15	おもな薬剤の特性3	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	抗生物質とは、ほかの微生物の増殖を抑えるカビまたは細菌から得る可溶性物質。抗生物質の系統を学び、そこに分類される薬品名を知ることにより、患者動物に処方される抗生物質について理解を深め、副作用や体に起きてくる症状を予測し、看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
16	おもな薬剤の特性4	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	①βラクタム系抗生物質、②アミノグリコシド、③テトラサイクリン、④クロラムフェニコール系の特性について学び、各所属する薬品名を知る	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
17	おもな薬剤の特性5	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	⑤マクロライド系、⑥リンコマイシン系、⑦キノロン系の特性を知り各所属する薬品名を知る	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
18	おもな薬剤の特性6	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	⑧スルホンアミド（サルファ剤）、⑨ポリミキシンB、⑩バンコマイシンの特性を知り各所属する薬剤名を知る	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
19	おもな薬剤の特性7	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	合成ステロイド	
		3.コマ主題細目	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイドについて知	
		4.コマ主題細目深度	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイド（副腎皮質ホルモン剤）は、動物医療でもっとも多く使用されている薬物の一つである。幅広い薬効を持ち、貢献している薬物である一方、副採用の多い薬物でもある。しっかりと理解し、看護に活かす。	
		5.次コマとの関係	総論を知り、次回からの糖質コルチコイドを知る上に活かす	
20	おもな薬剤の特性8	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	合成ステロイド	
		3.コマ主題細目	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイドについて知	
		4.コマ主題細目深度	①糖質コルチコイドの分泌・抑制機構、②糖質コルチコイドの生理作用、③合成ステロイドの種類について学び患者動物に対する作用を理解し、看護介入に活かせるようにする	
		5.次コマとの関係	糖質コルチコイドの基本を知った上で、応用に進む	
21	おもな薬剤の特性9	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	合成ステロイド	
		3.コマ主題細目	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイドについて知	
		4.コマ主題細目深度	④合成ステロイドの臨床応用、⑤合成ステロイドの副作用について学び、患者動物の看護介入に活かすことができるようになる	
		5.次コマとの関係	次の薬剤に進む	
22	おもな薬剤の特性10	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	非ステロイド抗炎症剤	
		3.コマ主題細目	非ステロイド抗炎症剤（NSAIDs)について	
		4.コマ主題細目深度	①NSAIDsの薬効メカニズム、抗炎症作用、解熱作用、鎮痛作用、抗腫瘍作用について学ぶことにより、処方された患者動物の症状理解、観察や看護介入に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	次回は、非ステロイド抗炎症剤（NSAIDs)の種類を学ぶ	

23	おもな薬剤の特性１１	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	非ステロイド抗炎症剤	
		3.コマ主題細目	非ステロイド抗炎症剤（NSAIDs)について	
		4.コマ主題細目深度	NSAIDsの種類について学ぶ。臨床の場で多く使用するこになるNSAIDsの薬品名を知り、処方された薬剤を使用する患者動物の看護介入に活かし、その薬についてご家族に指導教育する時の資料になるよう学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	次回は、循環器疾患に作用する薬について	
24	おもな薬剤の特性１２	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	循環器疾患に対する薬	
		3.コマ主題細目	循環器疾患に対する薬の作用機序について知る	
		4.コマ主題細目深度	①心不全の病態生理を知り、薬の作用機序について学ぶ。②血管拡張薬についてその作用機序について知ることにより、患者動物の看護介入に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	次回は、消化器疾患に作用する薬について	
25	おもな薬剤の特性１３	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	消化器疾患に対する薬	
		3.コマ主題細目	消化器疾患に対する薬の特徴と種類について	
		4.コマ主題細目深度	①嘔吐とは、②薬による治療法の注意点、③下痢とは　④下痢の祭に使用される薬剤の種類と特徴　について知る	
		5.次コマとの関係		
26	薬用量の計算１	1.シラバスとの関係	患者動物に使用する際の量の計算が正しくできる	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。体重1キロあたりの量で定められていることが多く、正しく使用するために計算ができるようにする。そのコンプライアンスについて。	
		5.次コマとの関係		
27	薬用量の計算２	1.シラバスとの関係	患者動物に使用する際の量の計算が正しくできる	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。体重1キロあたりの量で定められていることが多く、正しく使用するために計算ができるようにする。	
		5.次コマとの関係	次は液体の薬の計算ができるようになる	
28	薬用量の計算３	1.シラバスとの関係	患者動物に使用する際の量の計算が正しくできる	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。体重1キロあたりの量で定められていることが多く、正しく使用するために計算ができるようにする。注射やシロップなどの溶液の計算ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は液体の薬の計算ができるようになる	
29	薬用量の計算４	1.シラバスとの関係	患者動物に使用する際の量の計算が正しくできる	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	コンプライアンスを確認し、薬用量の計算の応用が出来るようにする。手術時の麻酔量の計算も、複数人で確認をするよう心がけるが、薬の量は命に結びつく可能性のある間違っていけないものなので、充分に配慮する習慣がつくようにする。	
		5.次コマとの関係	一年間のまとめをする	
30	総まとめ	1.シラバスとの関係	動物薬理学の総まとめ	専修学校・動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠動物看護の教科書　第6巻
		2.コマ主題	不十分な部分がないか確認し、薬物投与に関する略語に	
		3.コマ主題細目	不十分な部分がないか確認し、薬物投与に関する略語に	
		4.コマ主題細目深度	復習として必要な部分を確認し、その他に薬物投与に関する略語について復習をする。	
		5.次コマとの関係		

「動物栄養学Ⅰ」

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		動物が家族の一員として迎えられ、ヒトと生活を共にするようになる数が増えるとともに、社会における動物の位置付けが変化してきた。それと共に、動物の健康維持に特に必要な動物の栄養学について学ぶ。病気になった動物の治療をすることだけが獣医療なのではなくむしろその予防と、病気にならないような環境作り、体作りを推進することが動物看護師の大きな役割と言える。ここでは、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して応用へと進む準備とする。また、ペットフード市場を理解し、安心安全をつかさどっている法についても学ぶ。
年度	2014年度	
学年	1	
期	前期	
ユニット		
科目名	動物栄養学Ⅰ	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態		評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物栄養学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物栄養学総論1	1.シラバスとの関係	基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違い、適切な食事管	動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	六大栄養素	
		3.コマ主題細目	六大栄養素と概論	
		4.コマ主題細目深度	到達目標は、六大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算、適切なフードの知識	
		5.次コマとの関係	次回からの総論として開始	
2	動物栄養学総論2	1.シラバスとの関係	基礎栄養素と犬猫の必要栄養素の違い、適切な食事管	動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	六大栄養素	
		3.コマ主題細目	六大栄養素と概論	
		4.コマ主題細目深度	到達目標は、六大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算、適切なフードの知識	
		5.次コマとの関係	次回からの総論として開始	
3	基礎栄養学1	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中の基本を知る	動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養学	
		3.コマ主題細目	六大栄養素とその働きについて知る	
		4.コマ主題細目深度	六大栄養素とは何か？水、タンパク質、炭水化物、脂肪、ミネラル、ビタミン。総論として各栄養素を理解する	
		5.次コマとの関係	次回からは、一つづつの栄養素について学ぶ	
4	基礎栄養学2	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中の基本を知る	動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養学	
		3.コマ主題細目	六大栄養素とその働きについて知る	
		4.コマ主題細目深度		
		5.次コマとの関係	次回からは、一つづつの栄養素について学ぶ	
5	基礎栄養素　1水	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ	動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素；水	
		3.コマ主題細目	水について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	あらゆる栄養素の中で最も重要で不可欠な水について。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の二つ目の蛋白質に進むために水を学ぶ	
6	基礎栄養素　2タンパク質①	1.シラバスとの関係		動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素；水	
		3.コマ主題細目	水について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	あらゆる栄養素の中で最も重要で不可欠な水について。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の二つ目の蛋白質に進むために水を学ぶ	
7	基礎栄養素　3タンパク質②	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ	動物栄養学：臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素；タンパク質	
		3.コマ主題細目	タンパク質について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	タンパク質は約20種類のアミノ酸からなる高分子化合物の総称。タンパク質のアhたら気、アミノ酸の種類、消化吸収について学ぶ	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の三つ目の炭水化物に進むためにタンパク質を学ぶ	

8	基礎栄養素　4タンパク質③	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素;タンパク質	
		3.コマ主題細目	タンパク質について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	タンパク質は約20種類のアミノ酸からなる高分子化合物の総称。タンパク質のアhたら気、アミノ酸の種類、消化吸収について学ぶ	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の三つ目の炭水化物に進むためにタンパク質を学ぶ	
9	基礎栄養素　5炭水化物①	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素:炭水化物	
		3.コマ主題細目	炭水化物について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	炭水化物は、炭素、水素、酸素で構成される。その働き、消化吸収、推奨量について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の四つ目の脂肪に進むために炭水化物を学ぶ	
10	基礎栄養素　6脂肪	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素:脂肪	
		3.コマ主題細目	脂肪について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	有機溶剤に可溶性で水に不溶性の物質を脂肪という。脂肪の働き、必須脂肪酸、飽和脂肪酸、脂肪の修理、脂肪の分類、消化吸収、推奨量について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	次回は六大栄養素の五つ目ミネラルに進む	
11	基礎栄養素　7ミネラル	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素:ミネラル	
		3.コマ主題細目	ミネラルについて学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	生体に含まれる元素のうち、炭素、水素、酸素、窒素を除いたものをミネラル（灰分、無機質）という。その働き、ミネラルの機能、微量ミネラルの機能と欠乏症、消化吸収、ミネラルの働きと推奨量について学ぶ	
		5.次コマとの関係	次回は、六大栄養素最後のビタミンにすすむ	
12	基礎栄養素　8　ビタミン	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	基礎栄養素:ビタミン	
		3.コマ主題細目	ビタミンについて学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	ビタミンは体の構成成分やエネルギー源にならないが、微量でも生体の機能や代謝を円滑にする働きをする有機化合物である。その種類、働き、消化吸収、推奨量について学ぶ	
		5.次コマとの関係	基礎栄養素の知識を元に次コマにすすむ	
13	犬と猫の栄養要求の違い①	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	犬と猫の栄養素のちがい	
		3.コマ主題細目	犬と猫の必要な栄養素が違う訳	
		4.コマ主題細目深度	犬は集団で狩りをするオオカミやコヨーテと近縁。猫は乾燥した地域で進化した動物で、単独で狩りをする。生活形式の違いが狩りと栄養素の違いを産む。犬と猫の体の構造の違いについて	
		5.次コマとの関係	基本的な構造を知った上で必要な栄養素の違いにすすむ	
14	犬と猫の栄養要求の違い②	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	犬と猫に必要な栄養素の違い	
		3.コマ主題細目	犬と猫にどんな食事を与えたらよいか	
		4.コマ主題細目深度	食性や体の構造が異なる犬と猫では、必要な栄養素が異なる。健康維持のためにどんな食事を与えればよいか。	
		5.次コマとの関係	犬と猫の栄養素の特徴にすすむまえに総論をまなぶ	
15	犬と猫の栄養要求の違い③	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	犬と猫に必要な栄養素の違い	
		3.コマ主題細目	犬と猫にどんな食事を与えたらよいか	
		4.コマ主題細目深度	犬にはタンパク質を人より多く摂取する必要がある。犬は雑食。猫は肉食。猫には与える必要な栄養素とは？　食べさせてはいけない食物とは？	
		5.次コマとの関係	ライフステージ別の栄養管理に進む前の総論	

16	ライフステージ別の栄養管理①	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	ライフステージ別に考える理由	
		3.コマ主題細目	なぜ、ライフステージ別の栄養が必要なのか、を考えてみ	
		4.コマ主題細目深度	ヒトと同じように、イヌもネコもそれぞれのライフステージによって必要となる栄養素の量が異なることを知る。ライフステージとは、年齢、生活y状態、生理状態などを言う。	
		5.次コマとの関係	ライフステージ別の栄養管理に進む	
17	ライフステージ別の栄養管理②	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は繁殖期について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	繁殖期に必要な栄養管理について学習する	
		3.コマ主題細目	繁殖期に必要な栄養管理について学習し、繁殖に携わる犬や猫が健やかないすごせるように知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	繁殖期の動物たちは、栄養素によっては成長期以上の要求量を必要とする。良好な状態で妊娠を維持し、子犬や子猫の胎児期や新生児期の生育を最適にするためには、この時期の食事が重要になってくることを学習する。特に、妊娠期について学習する。	
		5.次コマとの関係	繁殖期の授乳期に必要な栄養に進む	
18	ライフステージ別の栄養管理③	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は繁殖期の授乳期について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	繁殖期の授乳期に必要な栄養管理について学習する	
		3.コマ主題細目	繁殖期に必要な栄養管理について学習し、繁殖に携わる犬や猫が健やかないすごせるように知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	繁殖期の動物たちは、栄養素によっては成長期以上の要求量を必要とする。良好な状態で妊娠を維持し、子犬や子猫の胎児期や新生児期の生育を最適にするためには、この時期の食事が重要になってくることを学習する。特に、授乳期について学習する。授乳期は母体の維持に加えて、母乳を供給せねばならないため、ライフステージ中で最もエネルギーを必要とすることを理解する	
		5.次コマとの関係	繁殖期の授乳期に必要な栄養に進む	
19	ライフステージ別の栄養管理④	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は成長期の授乳期について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	子犬や子猫の成長期には、どんなエネルギー源が必要となるのか、を理解できるようにする	
		3.コマ主題細目	子犬や子猫の成長期には、活動のためのエネルギー源と発達のためのエネルギーが必要であることを理解できる	
		4.コマ主題細目深度	子犬や子猫の成長期(哺乳中、離乳中)には、体の維持や活動のエネルギー源と栄養素のために必要となるエネルギーと、免疫系や身体構造、骨格の発達のために必要なエネルギーや栄養素が必要であることが理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	離乳後の成長期に必要な栄養に進む	
20	ライフステージ別の栄養管理⑤	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は成長期の哺乳後について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	子犬と子猫の離乳後の成長期に必要な栄養について理解する	
		3.コマ主題細目	離乳後に必要な栄養管理について学習し、適切な成長を促すためにも、健康な犬や猫に育てるためにも重要であることを理解する。	
		4.コマ主題細目深度	離乳後の成長期の栄養管理で大切なのは、子犬子猫の最適な成長を保ち、健康な成犬・成ネコに育てることである。この時期のエネルギー要求量の目安を計算でき、内容を理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	維持期(成犬・成猫)期に必要な栄養に進む	
21	ライフステージ別の栄養管理⑥	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は維持期について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	一般に成犬・成猫期とはいつごろまでの事をいうのかを理解できるようにする	
		3.コマ主題細目	成犬・成猫にはそれぞれの栄養基準を満たした、維持期用の栄養が摂取できるようの考え、理解できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でなりと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する	
		5.次コマとの関係	繁殖期の高齢期に必要な栄養に進む	

22	ライフステージ別の栄養管理⑦	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は高齢期について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	加齢に伴う変化が現れる時期であることを理解した上で、必要な栄養を理解できるようになる	
		3.コマ主題細目	高齢の犬と猫は、食事内容を変化することに対して頑固なところがあるが、加齢に伴う体調の変化に合わせて食事内容や栄養を考慮する必要がある。この意味を理解し、対応できるような知識を習得できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でなりと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する	
		5.次コマとの関係	ペットフードの表示の見方にすすむ	
23	ライフステージ別の栄養管理⑧	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は高齢期について	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	加齢に伴う変化が現れる時期であることを理解した上で、必要な栄養を理解できるようになる	
		3.コマ主題細目	高齢の犬と猫は、食事内容を変化することに対して頑固なところがあるが、加齢に伴う体調の変化に合わせて食事内容や栄養を考慮する必要がある。この意味を理解し、対応できるような知識を習得できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でなりと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する	
		5.次コマとの関係	ペットフードの表示の見方にすすむ	
24	ペットフードの表示の見方①	1.シラバスとの関係	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようにする	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料などの情報が表示されていることが理解できる	
		3.コマ主題細目	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料、給与方法、原産国、賞味期限などの情報が明記されていることを知り、その意味が理解できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料、給与方法、原産国、賞味期限などの情報が明記されていることを知り、その意味が理解できるようにする	
		5.次コマとの関係	パッケジやラベルに表現されている事の意味が理解できたので、実際の商品をいろいろとみてみる	
25	ペットフードの表示の見方②	1.シラバスとの関係	パッケジやラベルに表現されている事の意味が理解できたので、実際の商品をいろいろとみてみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	実際のいろいろな商品を見て、ラベル上の情報を読み取る練習をする	
		3.コマ主題細目	ラベルやパッケージには様々な情報が提示されており、また、そのデザインによって売れ行きに影響ができることがあるので、さまざまな商品を見比べてみる。	
		4.コマ主題細目深度	ペットフードのいろいろを見比べて見て、そこに表現されている情報を比較検討してみる。臨床の場で、質問を受けた時に情報を読み取ることができ、対応できるように練習をしておく。	
		5.次コマとの関係	BCS評価ができるようになるための学習にすすむ	
26	BCS評価とカロシー計算の仕方①	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物がどんな栄養度にあるかを理解できる必要がある。その観察方法を知る。	
		3.コマ主題細目	各動物の栄養状態を客観的に表現できる方法を学習する	
		4.コマ主題細目深度	食事管理を行うには、まずその動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。BCSとは何かを理解し、その上で、与える食事がどのくらいのエネルギーを持つのか、動物自身のエネルギー要求量はどのくらいなのか、を理解し、計算方法を習得し、活用できるようにする	
		5.次コマとの関係	カロリー計算ができるようになる	

27	BCS評価とカロシー計算の仕方②	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要である	
		3.コマ主題細目	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要であり、臨床の場でも、飼主家族からの相談のあった時にでも計算ができるようにしておく	
		4.コマ主題細目深度	動物のエネルギー要求量には個体差がある。年齢や繁殖状態、環境、性別、活動レベルなどによって差が出てくるので、個体別の状態に見合ったカロリー計算ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	個体が必要としているエネルギー量(食事の量)が計算できるようにする	
28	BCS評価とカロシー計算の仕方③	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要なので、様々なパターンを事	
		3.コマ主題細目	食事管理を行うためには、その動物が必要としているカロリー計算ができることが必要であり、臨床の場でも、飼主家族からの相談のあった時にでも計算ができるようにしておく	
		4.コマ主題細目深度	動物のエネルギー要求量には個体差がある。年齢や繁殖状態、環境、性別、活動レベルなどによって差が出てくるので、個体別の状態に見合ったカロリー計算ができるようになる。様々な事例を挙げてその動物が必要としている最適な食事量やカロリーを計算し、提示できるようになる	
		5.次コマとの関係		
29	ペットフードの種類①	1.シラバスとの関係	ペットフードの種類があることを理解する	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	目的別のフードを理解する	
		3.コマ主題細目	目的別にペットフードがあることを理解する。目的別のフードの内容について知識を習得し、飼主家族に説明でき	
		4.コマ主題細目深度	目的別にペットフードがあることを理解する。目的別のフードの内容について知識を習得し、飼主家族に説明できるようになる。総合栄養食の特徴を理解し、その他のフードにはどんなものがあるのを知識として習得する	
		5.次コマとの関係	ペットフードの種類とともに、全体のまとめにすすむ	
30	ペットフードの種類②	1.シラバスとの関係	ペットフードの種類があることを理解する	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	目的別のフードを理解する	
		3.コマ主題細目	ペットフードには、ライフステージ別、機能別(肥満対策、歯石ケア、猫の毛球対策などに配慮したフードがあり、今後、各論でまなぶ疾患別による栄養特性を理解することにつながるように学習する	
		4.コマ主題細目深度	ペットフードには、ライフステージ別、機能別(肥満対策、歯石ケア、猫の毛球対策などに配慮したフードがあり、今後、各論でまなぶ疾患別による栄養特性を理解することにつながるように学習すると共に、フードの与え方にはどんな技術があるのかを理解する	
		5.次コマとの関係	各論を学ぶ前にまとめをする	

「動物栄養学Ⅱ」

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		動物が家族の一員として迎えられ、ヒトと生活を共にするようになる数が増えるとともに、社会における動物の位置付けが変化してきた。それと共に、動物の健康維持に特に必要な動物の栄養学について学ぶ。病気になった動物の治療をすることだけが獣医療なのではなくむしろその予防と、病気にならないような環境作り、体作りを推進することが動物看護師の大きな役割と言える。ここでは、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論について学ぶ。
年度	2014年度	
学年	1	
期	後期	
ユニット		
科目名	動物栄養学Ⅱ	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態		評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物栄養学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	尿路結石のある犬と猫の食事管理について知る	
		3.コマ主題細目	尿路結石のある犬と猫の食事管理について知り、患者動物の援助ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	①尿路結石について復習する ②猫下部尿路疾患について復習する ③局所解剖について復習する	
		5.次コマとの関係	尿路結石に関する基礎知識を学習した上で、食事の管理の援助にすすむ	
2	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	尿結石の種類を知り、種類別の食事管理について知る	
		3.コマ主題細目	尿路結石について、種類別の特徴を学び、適切な食事管理ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	①ストルバイト（リン酸ナンモニウムマグネシウム） ②シュウ酸カルシウム ③シスチン ④その他	
		5.次コマとの関係	尿路結石と猫の下部尿路疾患が再発しないための予防について学ぶ	
3	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	尿結石は、管理により再発することが多いので、予防について学び、飼主家族に適切な指導ができるようになる	
		3.コマ主題細目	尿結石の再発を防ぐための予防について知る。特別処方食による管理について。	
		4.コマ主題細目深度	尿結石の再発を防ぐための予防について知る。特別処方食による管理について。①特別処方食 ②定期健康管理 ③早期発見の方法	
		5.次コマとの関係	疾患別の食事管理として、心臓病にすすむ	
4	各論：心臓病①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	心臓病を理解できるための復習をし、知識として習得でき	
		3.コマ主題細目	循環器系としての心臓。局所解剖を復習する	
		4.コマ主題細目深度	①循環器としての心臓 ②心臓の局所解剖 ③心臓を出入りしている血管と、弁について ④血管の種類と定義 ⑤その他	
		5.次コマとの関係	心臓について基礎知識を習得した上で、疾患の学習にすすむ	
5	各論：心臓病②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	代表的な心臓疾患について知る。心臓疾患のある患者動物の看護をするために必要な看護技術について	
		3.コマ主題細目	代表的疾患として、僧房弁閉鎖不全について知る	
		4.コマ主題細目深度	①僧房弁閉鎖不全について ②減量の必要性について ③循環器の患者動物に必要な看護援助について 以上について学習する	
		5.次コマとの関係	基礎知識、代表的疾患を復習し、栄養管理にすすむ	
6	各論：心臓病③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	心臓疾患がある患者動物に必要な栄養管理について知	
		3.コマ主題細目	①ナトリウムの管理 ②カルニチン、タウリンについて ③心臓疾患用療法食について	
		4.コマ主題細目深度	①ナトリウムの管理 ②カルニチン、タウリンについて ③心臓疾患用療法食について知る。 これらを使用する意味をよく理解し、飼主家族に協力理解してもらえるような指導ができるようにする	
		5.次コマとの関係	消化器系疾患のある患者動物の管理について進む	

7	各論:消化器病①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	消化器系の局所解剖と機能を復習する	
		3.コマ主題細目	消化器系の始まりと終わり。局所解剖と機能について復習する	
		4.コマ主題細目深度	①口腔と咀嚼 ②食道 ③胃の解剖と機能(消化液について) ④十二指腸の構造と働き;消化液、胆汁と膵液 ⑤付属器官について ⑥大腸の解剖と機能 ⑦排泄	
		5.次コマとの関係	消化器の基礎と知った上で代表的疾患にすすむ	
8	各論:消化器病②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	消化器の基礎を知った上で代表的疾患について学ぶ	
		3.コマ主題細目	正常な消化器系と疾患のある消化器系について違いを知り、消化器病の原因について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	消化器病の原因 ①寄生虫、ウイルス、細菌感染 ②年齢 ③ストレス ④品種 ⑤食物 ⑥その他	
		5.次コマとの関係	消化器病の原因を知った上で、代表的疾患について学ぶ	
9	各論:消化器病③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	代表的な消化器病を知る(口腔～胃)	
		3.コマ主題細目	代表的な消化器病を知り、各疾患の食事管理について学	
		4.コマ主題細目深度	①口腔疾患の食事管理・・・炎症、腫瘍、外傷、先天性疾患(口蓋裂など) ②咽頭疾患、食道疾患の食事管理・・・巨大食道症、輪状咽頭アカラシア、食道炎、など。 ③胃疾患の食事管理・・・胃炎、胃拡張、胃捻転。	
		5.次コマとの関係	小腸疾患の食事管理に進む	
10	各論:消化器病④	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	代表的な消化器病を知る(下痢、小腸、大腸)	
		3.コマ主題細目	代表的な消化器病を知り、各疾患の食事管理について学	
		4.コマ主題細目深度	①下痢・・・浸透性下痢、分泌性下痢、運動性の障害による下痢。 ②小腸疾患の食事管理・・・急性腸炎、蛋白喪失性腸症、炎症性腸疾患 ③大腸疾患の食事管理・・・大腸炎、便秘。	
		5.次コマとの関係	付属器官である膵臓の疾患と食事管理に進む	
11	各論:消化器病⑤	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	膵臓疾患のある動物の食事管理について	
		3.コマ主題細目	膵臓疾患のある動物の食事管理について。代表的疾患として膵外分泌機能不全、膵炎。	
		4.コマ主題細目深度	①膵外分泌機能不全 ②膵炎について、症状と食事管理について学ぶ。特に重傷の膵炎では、3日以上の絶食が必要となるので、特別な栄養管理と、激烈な痛みへの看護援助が必要になることを学ぶ	
		5.次コマとの関係	次の疾患別利用管理として腎臓病に進む	
12	各論:腎臓病①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	泌尿器系の解剖と機能について復習する	
		3.コマ主題細目	腎臓や膀胱の局所解剖と機能について復習する	
		4.コマ主題細目深度	腎臓、尿管、膀胱、尿道に関する局所解剖と機能について復習する	
		5.次コマとの関係	基礎知識を復習した上で、代表的疾患について学ぶ	
13	各論:腎臓病②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	代表的な腎臓病について学ぶ	
		3.コマ主題細目	代表的な腎臓病の症状について復習する	
		4.コマ主題細目深度	①急性腎不全 ・・・腎前性腎不全、腎性腎不全、腎後性腎不全 ②慢性腎不全について学ぶ	
		5.次コマとの関係	腎臓に関する疾患について知った上で、食事管理に進む	
14	各論:腎臓病③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	腎不全の食事管理について知る	
		3.コマ主題細目	急性、慢性の腎不全の食事管理について知る	
		4.コマ主題細目深度	①急性腎不全 ②慢性腎不全 の食事管理について。慢性疾患は特に家庭での管理が必要になるので、しっかりと理解し、協力してもらえるために必要な知識として習得する	
		5.次コマとの関係	次の疾患別利用管理として肝臓病に進む	

15	各論:肝臓病①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	肝臓の構造と機能について復習する	
		3.コマ主題細目	肝臓の構造と機能について復習する。特に、肝臓の機能は多機能のため、その代表的機能について復習する	
		4.コマ主題細目深度	肝臓の構造と機能について。①栄養の代謝 ②決勝蛋白質の合成 ③胆汁の生成と分泌 ④生体防御	
		5.次コマとの関係	肝臓の基本を知った上で、肝臓病の原因と症状について学ぶ	
16	各論:肝臓病②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	肝臓病の原因と症状について学ぶ	
		3.コマ主題細目	肝臓病の原因について。	
		4.コマ主題細目深度	原因について。①ウイルス、細菌感染 ②有害物質、薬物の摂取 ③心臓病や先天的および後天的な異常による、肝臓への血流の変化 ④品種特異性	
		5.次コマとの関係	肝機能障害と体への影響について学ぶ	
17	各論:肝臓病③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	肝機能障害と体への影響について知る	
		3.コマ主題細目	肝臓は栄養素の代謝において重要な臓器であることを知	
		4.コマ主題細目深度	繁殖に用いる犬猫は、適切なBCSであることが必要である。肥満が難産につながることをしり、妊娠期の栄養管理について学ぶ。妊娠期間の復習、妊娠期の体重の増加の違い(犬と猫)	
		5.次コマとの関係	代表的な肝臓疾患と、栄養管理について学ぶ	
18	各論:肝臓病④	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	代表的な肝臓疾患の栄養管理について学ぶ	
		3.コマ主題細目	肝臓疾患の栄養管理について。消化改善のための食事回数や内容について知る。	
		4.コマ主題細目深度	①急性肝炎 ②犬の慢性肝炎 ③肝硬変 門脈体循環シャント ④猫の肝リピドーシス	
		5.次コマとの関係	次の疾患として口腔疾患にすすむ	
19	各論:口腔疾患①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	口腔の局所解剖と機能を知る	
		3.コマ主題細目	口腔の局所解剖と機能を知る	
		4.コマ主題細目深度	消化器系の一部としての口腔を復習する。 食欲と密接な関係のある場所でもある。	
		5.次コマとの関係	口腔内の局所解剖を知った上で、	
20	各論:口腔疾患②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	歯周病と健康の関連性について知る	
		3.コマ主題細目	歯周病と健康の関連性について知る	
		4.コマ主題細目深度	歯周病の原因と症状、進行について。食物と歯の関係について。歯周病の症状について。	
		5.次コマとの関係	食物の形状、食事の仕方、について進む	
21	各論:口腔疾患③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食物の形状、食事の仕方、について知る	
		3.コマ主題細目	食物の形状、食事の仕方、について知る	
		4.コマ主題細目深度	歯を含めた口腔内の健康によい食物について知る。	
		5.次コマとの関係	疾患別栄養管理の糖尿病にすすむ	
22	各論:糖尿病①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養指導認定動物看護師試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	膵臓の構造と機能について復習する	
		3.コマ主題細目	膵臓の機能として外分泌と内分泌について復習する	
		4.コマ主題細目深度	①膵臓の構造 ②膵臓の機能 ③外分泌 ④内分泌 について学習する	
		5.次コマとの関係	膵臓の基本的知識を復習した上で、糖尿病の仕組みにすすむ	

23	各論:糖尿病②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	糖尿病の仕組みと症状について。	
		3.コマ主題細目	食後、消化吸収されたブドウ糖が細胞内に取り組まれる	
		4.コマ主題細目深度	食後、消化吸収されて血液中に入ったブドウ糖は、膵臓から分泌される細胞内に取り組まれる仕組みについて。	
		5.次コマとの関係	ブドウ糖の消化と吸収を知った後で、糖尿病の栄養管理について学ぶ	
24	各論:糖尿病③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	糖尿病の栄養管理について。	
		3.コマ主題細目	適正体重を維持し、血糖をコントロールし、合併症の可能	
		4.コマ主題細目深度	食事管理をするためには、まず、その動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。その上で、与える食物がもつエネルギー要求量を算出し、活用する必要があるので、BCSを正しく評価活用できるように学ぶ	
		5.次コマとの関係	次の疾患のある患者動物の栄養管理にすすむ	
25	各論:食物アレルギー①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食物アレルギーについて復習する	
		3.コマ主題細目	食物有害反応は、食物不耐性と、食物アレルギーがあることを復習する	
		4.コマ主題細目深度	食物有害反応には、免疫と無関係な食物不耐性と、免疫が関係する食物アレルギーとがある。その相違を理解し、学習できるようになる。	
		5.次コマとの関係	食物アレルギーの原因と症状について学ぶ	
26	各論:食物アレルギー②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食物アレルギーの原因と症状について学ぶ	
		3.コマ主題細目	食物アレルギーは、簡単な検査では原因を特定すること	
		4.コマ主題細目深度	総合栄養食、間食、その他目的食について特色を知る。	
		5.次コマとの関係	食物アレルギーのある患者動物の栄養管理について学ぶ	
27	各論:食物アレルギー③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	食物アレルギーのある患者動物の栄養管理について学	
		3.コマ主題細目	食物アレルギーのある患者動物の栄養管理について学ぶ。アレルゲンの除去食について知る。	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族に食べているものをすべてリストアップする。①普段食べている市販フード ②間食 ③サプリメント ④薬 ⑤ヒトからもらう食物 ⑥飼育動物の食物 ⑦噛むおもちゃなど ⑧食糞、その他異物など	
		5.次コマとの関係	他疾患にすすむ	
28	各論:関節炎①	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	関節炎について基礎知識を復習する	
		3.コマ主題細目	①関節の解剖と機能	
		4.コマ主題細目深度	①関節の解剖 ②機能 ③関節炎の仕組みについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	関節炎について基礎知識を復習した後に、原因と症状について知る	
29	各論:関節炎②	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	関節炎の原因と症状について知る	
		3.コマ主題細目	関節炎の原因と症状について知る	
		4.コマ主題細目深度	①原因 ③症状 ④代表的な疾患について学ぶ	
		5.次コマとの関係	関節炎のある患者動物の栄養管理について知る	
30	各論:関節炎③	1.シラバスとの関係	動物の栄養を、疾患別にみる	動物栄養学:臨床栄養 指導認定動物看護師 試験教本:インターズー;パワーポイント
		2.コマ主題	関節炎を持つ動物の栄養管理について学ぶ	
		3.コマ主題細目	関節炎を持つ動物の栄養管理について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	炎症、関節の損傷をお引き起こしている酵素を減少させるEPA、オメガ-3脂肪酸を多くもつ食物を与えるとよい。	
		5.次コマとの関係	動物栄養学Ⅱ 疾患別の栄養管理のまとめとする	

「動物栄養学Ⅲ」

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		動物が家族の一員として迎えられ、ヒトと生活を共にするようになる数が増えるとともに、社会における動物の位置付けが変化してきた。それと共に、動物の健康維持に特に必要な動物の栄養学について学ぶ。病気になった動物の治療をすることだけが獣医療なのではなくむしろその予防と、病気にならないような環境作り、体作りを推進することが動物看護師の大きな役割と言える。ここでは、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論へと進む準備とする。また、ペットフード市場を理解し、安心安全をつかさどっている法についても学ぶ。
年度	2014年度	
学年	1	
期	後期	
ユニット		
科目名	動物栄養学Ⅲ	
単位		
履修時間	１５時間	
回数	１５回	
必修・選択	必須	
省庁分類		
授業形態		評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物栄養学	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	各論：がん①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ	
2	各論：がん②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ	
3	各論：がん③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（脳の加齢を認知障害）	
4	各論：脳の加齢を認知障害①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。フリーラジカルによるダメージは、どんな機能を低下させるかを理解する	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（脳の加齢を認知障害）	

5	各論：脳の加齢を認知障害②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	認知機能の低下について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。認知機能の低下を示す症状を挙げ、他の疾患と区別することが難しい現実を知る。少しでも進行を遅らせる栄養的手段があるのかどうか、学習する	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（脳の加齢を認知障害）	
6	各論：脳の加齢を認知障害③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	老化のメカニズムの中で、フリーラジカルについて理解する	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。フリーラジカルのメカニズムを知り、栄養学的解決法があるのかを学習する。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（肥満）	
7	各論：肥満①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	動物の肥満とはどういう状態かを理解する	
		3.コマ主題細目	肥満の原因と判定について知る	
		4.コマ主題細目深度	肥満の原因を学習する。肥満とは体脂肪が築盛した状態を指す。多くの場合、摂取したエネルギー量が消費したエネルギー量を上回ることによっておこる。肥満を良く知り、これを解消するための栄養学的手段を学ぶ	
		5.次コマとの関係	肥満の原因を知る事により、解説法を学べるようになる	
8	各論：肥満②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	肥満の判定方法について学ぶ	
		3.コマ主題細目	肥満の客観的な判定法について知り、肥満を認識できた上で栄養学的対応を指導できるように知識を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	肥満の客観的な判定法について知り、肥満を認識できた上で栄養学的対応を指導できるように知識を学ぶ。来院する動物の多くは肥満または肥満傾向にあるが、多くの飼主はそれに気が付いていない。気が付いてもらうための指導方法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	適切なカロリー計算ができるために知識を習得する	
9	各論：肥満③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	BCS評価	
		3.コマ主題細目	栄養状態の判定に用いられるBCSについて	
		4.コマ主題細目深度	食事管理をするためには、まず、その動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。その上で、与える食物がもつエネルギー要求量を算出し、活用する必要があるので、BCSを正しく評価活用できるように学ぶ	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（甲状腺機能亢進症）	
10	各論：状腺機能亢進症①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る	
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえる。そのために努力する	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（甲状腺機能亢進症）	

11	各論：甲状腺機能亢進症②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る	
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえる。そのために努力する	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（甲状腺機能亢進症）	
12	各論：甲状腺機能亢進症③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る	
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえる。そのために努力する	
		5.次コマとの関係	ペットフード市場を知るために、疾患ごとにどんな食事が可能かを学習する	
13	ペットフード市場①	1.シラバスとの関係	ペットフード市場を理解する	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	ペットフード市場	
		3.コマ主題細目	ペットフード販売と市場について考察する	
		4.コマ主題細目深度	フードの嗜好性と受容性を理解できる。ペットフードの適切な取り扱いを理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	嗜好性を高めるためにはどうするか	
14	ペットフード市場②	1.シラバスとの関係	ペットフード市場を理解する	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	嗜好性	
		3.コマ主題細目	嗜好性を考える、嗜好性をよくするために	
		4.コマ主題細目深度	嗜好性の要因を考える。臭い、味、質感・低塩食は美味しいか？	
		5.次コマとの関係	嗜好性を高めるための工夫を知る	
15	ペットフードに関する規則とまとめ	1.シラバスとの関係	健全なペットフードを使用でくるために規則をしる	動物栄養学：臨床栄養指導認定動物看護師試験教本：インターズー；パワーポイント
		2.コマ主題	ペットフード安全法	
		3.コマ主題細目	ペットフード安全法を知る	
		4.コマ主題細目深度	多くの動物がペットフードを主食として飼育されている。家族は安心安全を求めている。そのため、ペットフードをの製造・販売に関わる業界団体は、安全確保のための自主的な取り組みをしてきた。それが法律となったことの経緯を知り、今後に役立てる	
		5.次コマとの関係		

動物繁殖学

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について飼主家族指導に活かす。また、犬猫以外の動物の繁殖生理の特徴を知る。生命誕生の過程を学ぶ。解剖学で学習した生殖器の構造についての知識を基本とし、機能と働きにはどのようなものがあるかを理解できるようにする。また、生殖器の疾患には、去勢・避妊手術により発生のリスクが低下するものもある。避妊・去勢のメリットとデメリットを知ることにより正しい繁殖についても理解することができる。また、生殖器の疾患予防の正しい知識を身につける。繁殖を理解するために、発情や交尾行動について学ぶ必要がある。妊娠期間の管理、助産の知識を習得する。
年度		
学年		
期		
ユニット		
科目名	動物繁殖学	
単位		
j時間	15時間	
回数	15回	
授業形態	座学	評価方法
作成者	山下眞理子	筆記試験
教科書	動物看護の教科書　第4巻	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	繁殖にあたって①	1.シラバスとの関係	繁殖学の基本的知識を復習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	雌雄の生殖器の解剖学を復習する	
		3.コマ主題細目	犬猫の雌雄の局所解剖を復習し、交配や助産時の知識として活用できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	①猫のメスの生殖器　②猫のオスの生殖器　③犬のメスの生殖器　④犬のオスの生殖器　について復習し、今後、生殖器関連疾患の看護をする際の知識とする。交配や助産には必須の知識となる	
		5.次コマとの関係	適切な雌雄を選択できるために、交配の種類について知る	
2	繁殖にあたって②	1.シラバスとの関係	繁殖学の基本的知識を復習した後、適切な交配について学ぶ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	交配の種類、雌雄の選択方法、交配前に必要な検査につ	
		3.コマ主題細目	交配に適切な雌雄の選びかた、交配前の検査とケアについて知る	
		4.コマ主題細目深度	①適切な雌雄の選びかた。雌雄の大きさのバランス。短頭種の交配について知識を持つことができる　②交配動物の検査とケアについて。繁殖前に身体の検査と予防しておくものについて知ることができる	
		5.次コマとの関係	交配前に十分な検査や予防をしておくことによって健全な繁殖が可能となる	
3	遺伝性疾患について①	1.シラバスとの関係	繁殖をする前提として知っておかねばならない遺伝性疾患について知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	人気犬種と遺伝性疾患について学習する。	
		3.コマ主題細目	人気犬種と遺伝性疾患について学習するとともに、犬種によっては毛色の組み合わせによって異常が出ることがあることを知る	
		4.コマ主題細目深度	人気犬種と遺伝性疾患について。①ゴールデン・レトリバー　②ラブラドール・レトリバー　③ダックスフント　④ウェルシュコーギー　⑤チワワ　⑥フレンチブルドック　の遺伝性疾患である股関節形成不全、臍ヘルニア、鼠径ヘルニアについて知ることができる	
		5.次コマとの関係		
4	遺伝性疾患について②	1.シラバスとの関係	人気犬種を始めとして、犬の遺伝性疾患について知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	遺伝性疾患について知る	
		3.コマ主題細目	遺伝性疾患の具体例について学習する	
		4.コマ主題細目深度	遺伝性疾患の具体例について。代表的な遺伝性疾患について知ることができる。①進行性網膜委縮症　②血友病　③アトピー性皮膚炎　④水頭症　⑤性格に関する遺伝	
		5.次コマとの関係	遺伝性疾患を知った上で交配を考える	
5	犬と猫の繁殖生理①	1.シラバスとの関係	繁殖生理について知った上で交配にすすむ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	犬猫の繁殖生理について。発情周期について学習する	
		3.コマ主題細目	発情周期には単発情動物と多発情動物がある。	
		4.コマ主題細目深度	繁殖期について。①単発情動物　②多発情動物　発情周期について。①発情前期　②発情期　③発情休期　④無発情期について知る。 メス犬とメス猫の発情徴候について知る。	
		5.次コマとの関係	繁殖期と発情周期、徴候について知った後は、交配時期について学習する	
6	犬と猫の繁殖生理②	1.シラバスとの関係	交配について必要な内分泌について復習をする。排卵とホルモンの関係について学習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	交配に適した時期と、ホルモンの関係について知ることが	
		3.コマ主題細目	交配適期について知る	
		4.コマ主題細目深度	排卵とホルモンの関係。卵胞ホルモンと黄体形成ホルモンの関係を学習する。犬と猫の交配適期を知ることができるようになる。犬と猫の適期の相違について学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	次は適期を確認するスメア検査について学ぶ	

7	犬と猫の繁殖生理③	1.シラバスとの関係	交配適期を知るためのスメア検査を知る。その上で授精と着床について知ることができる	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	犬と猫のスメア検査と、交配様式について知る。	
		3.コマ主題細目	犬と猫のスメア検査と、交配様式について知る。 交配した後の授精と着床について学習する	
		4.コマ主題細目深度	交配適期を知ることができるスメア検査の評価を覚えることができる。①発情前期のスメア ②発情期の中期(交配適期) ③発情期の末期 犬と猫の交尾様式の違いについて学ぶことができる。	
		5.次コマとの関係	授精と着床後の妊娠診断と妊娠に続く	
8	妊娠期	1.シラバスとの関係	犬の妊娠診断について知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	妊娠期に必要な管理について知ることができる	
		3.コマ主題細目	妊娠を診断する方法について。	
		4.コマ主題細目深度	妊娠の診断方法について。①腹部触診 ②超音波診断 ③X線診断などの診断時期について学習する。妊娠期に必要な食事の管理について。妊娠期の薬物投与について学習する。	
		5.次コマとの関係	交配前、交配適期、交配、妊娠を経て助産に進む	
9	助産①	1.シラバスとの関係	伴侶動物の出産について順を追って学習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	助産とは何か？ 分娩過程を学習する	
		3.コマ主題細目	分娩の過程を知ることにより、健全が分娩が迎えられるようにする	
		4.コマ主題細目深度	分娩期は、第1期、第2期、第3期に分かれる分娩期について知ることができる。分娩の様子について知る。	
		5.次コマとの関係	分娩が終了した後の注意について知る	
10	助産②	1.シラバスとの関係	人がどこで、どんなことに介入するかを知る	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	分娩御の介入の度合いについて学習する。	
		3.コマ主題細目	健康な分娩時と、新生子が蘇生法が必要になった際の技術を習得できる	
		4.コマ主題細目深度	①正常分娩時の介入の度合いについて ②新生子をケアしようとしない母親犬への介入について ③新生子の蘇生法を学ぶ ④臍帯の処置について知る	
		5.次コマとの関係	正常分娩の後は、異常な分娩について学習する	
11	助産③	1.シラバスとの関係	異常な分娩について学習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	異常な分娩について学習する。	
		3.コマ主題細目	異常分娩の内容について学習する	
		4.コマ主題細目深度	異常な分娩について。①早産 ②死産 ③妊娠期間の延長 ④難産 以上の意味について知る。また、胎児側の問題として多いものを知る	
		5.次コマとの関係	帝王切開について学習する	
12	助産④	1.シラバスとの関係	帝王切開について生殖器の解剖を復習するとともに、介助ができるように学ぶ	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	帝王切開になる原因について。帝王切開の手順と介助について。	
		3.コマ主題細目	帝王切開になる原因について。帝王切開の手順と介助について知ることができる。	
		4.コマ主題細目深度	母体に対して胎児が大きさが大きすぎる場合などに帝王切開が行われる。難産の対処法として、最終的に選択される場合もある。帝王切開の前の準備や経過について知ることができる	
		5.次コマとの関係	交配、出産、助産について学んだ後は、産褥期について知る	
13	繁殖系疾患①	1.シラバスとの関係	産褥期とは何か、産褥期の代表的な疾患について。	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	産褥期とは何か、産褥期の代表的な疾患について知る。分娩前、後に血中のカルシウム濃度の低下による症状に	
		3.コマ主題細目	産褥期とは分娩直後から母体が生殖器が分娩前と同じ状態に戻るまでの期間。	
		4.コマ主題細目深度	産褥期のメスの代表的な疾患について。子宮蓄膿症の症状、原因、診断、治療を知ることにより看護介入の知識とすることができる。	
		5.次コマとの関係	オスと大動物の繁殖系疾患について知る	

14	繁殖系疾患②	1.シラバスとの関係	産褥期のオスと大動物の繁殖系疾患について学習することができる	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	犬の前立腺疾患、大動物の繁殖系疾患について知る	
		3.コマ主題細目	①犬の前立腺疾患の症状、診断、治、予防について学習し、看護技術の知識として活用できる　②大動物の繁殖系疾患について知る	
		4.コマ主題細目深度	①犬の前立腺疾患の症状、診断、治、予防について学習し、看護技術の知識として活用できる　②大動物の繁殖系疾患について知る	
		5.次コマとの関係	人工授精の技術を学習する	
15	人工授精	1.シラバスとの関係	自然交配の代わりに人為的が繁殖技術として学習する	パワーポイント資料ほか
		2.コマ主題	人工授精の技術を学習する	
		3.コマ主題細目	人工授精の手順を知り、介入援助時に必要な技術を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	犬の人工授精の手順、欠点、現状について学習する。基本的な知識としてクローニング、染色体、優性の法則などを知る	
		5.次コマとの関係	全体のとりまとめとなる。	

「救急救命対応」

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		救急救命処置は、本来獣医師が行うものではなるが、緊急を要し、獣医師がその場にいないこともあり得る。そんな時にはチーム医療のスタッフとして救急救命処置に参加でき、またはその準備が速やかに実施できることによる救命率は大きいと尾もされる。今後、看護職の職域の拡大による救命処置は大いに期待できるところであり、その理解をすすめることは看護介入においても活用できることとなる。緊急処置を必要とする患者動物が来院した時には、スタッフは落ち着きかつ適切な対処を速やかに実施できることが必要である。緊急時に慌てないよう、日頃の診療体制内においても訓練を実施し、全員が承知している準備をし、確実な手順で対応できるよう物品と精神と両面の準備訓練が必要となる。機材薬剤は整理整頓し、だれもが周知できているようになることが重要である。
年度	2014	
学年	2	
期	前期・後期	
ユニット		
科目名	救急救命対応	
単位	1	
履修時間	15時間	
回数	15回	
必修・選択	必修	
省庁分類		
授業形態	座学	評価方法
作成者	山下眞理子	前期、後期に筆記試験を実施。 両方ともに合格の場合、修了とみなす。
教科書	動物看護の教科書　第6巻（緑書	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物モニター	1.シラバスとの関係	救急救命処置が必要であるかどうか評価をする技術につ	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	動物をモニターする	
		3.コマ主題細目	動物のバイタルサインを知り、緊急状態を評価する	
		4.コマ主題細目深度	1意識レベル、2呼吸、3心拍数とリズム、4循環のパラメーター、5生理学的パラメーターの評価　についてわかるようになる	
		5.次コマとの関係	緊急時の動物のバイタルサインの特徴を知り、CPA,CPRを学ぶ	
2	心肺停止（CPA）と心肺蘇生（CPR）	1.シラバスとの関係	救急救時の救急救命処置の方法を学ぶ	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	CPAとCPR	
		3.コマ主題細目	CPAとCPRがわかるようになる	
		4.コマ主題細目深度	1心肺停止①心肺停止を起こす要因、②心肺停止を起こすリスクのたる動物、③準備について学び、2心肺蘇生法①初期の評価、②基本的な蘇生法、③高度な心肺蘇生法、④心肺蘇生の実践的な手順、⑤モニタリングの重要性　について知って実践に活かせるようになる	
		5.次コマとの関係	救急救命時の処置を知り、次回はその時に使用する薬品をしる	
3	救急薬品の知識	1.シラバスとの関係	救急救命処置時に必要な薬品について学ぶ	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	救急薬品についての知識	
		3.コマ主題細目	救急薬品についての知識を知る	
		4.コマ主題細目深度	1化学的保定に使用する薬物①鎮静剤、②鎮痛薬、③麻酔薬一注射麻酔薬、吸入麻酔薬、局所麻酔薬、副交感神経遮断薬、④CPAやショックの場合に使用する薬物　につ	
		5.次コマとの関係	救急時の薬品の種類を知り、次回、治療時の輸液にも活かす	
4	救急時の輸液療法	1.シラバスとの関係	救急救命に必要な治療で、輸液について知る	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	救急時の輸液療法	
		3.コマ主題細目	救急時の輸液療法について学び活かす	
		4.コマ主題細目深度	1総輸液量と脱水の程度について①総輸液量、②脱水の程度一脱水の有無の判定基準、身体検査所見からの脱水程度の推測　について学び、救急時の看護介入に活かすことができるようになる	
		5.次コマとの関係	今回は輸液ににについて学び、次回は、使用する輸液制剤について知る	
5	輸液制剤	1.シラバスとの関係	救急時に使用できるように輸液制剤について知識を得る	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	輸液制剤について知る	
		3.コマ主題細目	輸液制剤について知り、緊急時に活用できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	1基本的な輸液制剤、2血漿増量剤、3心肺停止時およびショック時の輸液について学習し、看護介入に活用できるようになる	
		5.次コマとの関係	緊急時の輸液を知ることにより、次回に学ぶ輸血において活用できる	
6	輸血	1.シラバスとの関係	緊急時処置として輸血準備や看護介入に対応できるようになる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	輸血について	
		3.コマ主題細目	輸血についてついての知識を得て、看護に活用できるよう	
		4.コマ主題細目深度	1輸血の適応、2交差適合試験の手順一用意するもの、クロスマッチの手技、3輸血用血液採取の手順①献血動物の準備、②献血直前検査、③採血方法、④パイロットチューブの作り方、4輸血量の計算、5輸血の準備と輸血①準備するもの②輸血前の受血動物の準備　③受血動物の輸血モニター、6輸血の副作用　について学び、看護介入に活用対応できるようになる	
		5.次コマとの関係	次回から各論。総論の最後として輸血について知ることができる	

7	救急疾患の基礎知識1：	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	外傷エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	外傷エマージェンシーの処置ができる	
		4.コマ主題細目深度	1創傷のケア①ただちに行う必要のあるケア　②創傷の洗浄　③創傷のデブリードマン　④創傷のの閉鎖　2創傷のの包帯法①包帯の効果　②包帯の構成　③出血のコントロール　について知り、対応ができるように準備ができる	
		5.次コマとの関係	次は眼科エマージェンシーに進む	

8	救急疾患の基礎知識2:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	眼科エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	眼科エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	1眼球突出、2眼球損傷、3角膜損傷、4緑内障　各々における提議、症状、治療を知ることにより、より良い対応と看護介入ができるようになる	
		5.次コマとの関係	次は神経エマージェンシーに進む	
9	救急疾患の基礎知識3:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	神経エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	神経エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	脊椎の外傷と椎間板の突出　①原因　②臨床症状と身体検査　③ミニマムデーターベース　④治療　につてい学び、看護介入に活用できるようになる	
		5.次コマとの関係	次は中毒エマージェンシーに進む	
10	救急疾患の基礎知識4:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	中毒エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	中毒エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	1中毒に対する処置①治療目標　②来院前のご家族に対する指示　③救急処置　④吸収の抑制　⑤催吐薬　⑥胃洗浄　⑦吸着剤　⑧下剤　⑨解毒薬　⑩吸収された毒物の排泄促進　2小動物における代表的な中毒①鉛　②アセトアミノフェン　③チョコレートについて学び、治療の理解を増し、看護介入に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	次は熱射病エマージェンシーに進む	
11	救急疾患の基礎知識5:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	熱射病エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	熱射病エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	1熱射病の原因と誘発因子　①熱射病とは　②熱射病を誘発する因子　2熱射病の症状、3治療について学び、理解を増して看護介入に活かすことができるようになる	
		5.次コマとの関係	次は呼吸エマージェンシーに進む	
12	救急疾患の基礎知識6:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	呼吸エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	呼吸エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	1呼吸器系の救急療法　2動物の評価　3治療①気道の確保と呼吸の補助　①気胸　②胸水　③横隔膜ヘルニアについて知り、理解できることにより看護介入に活用できるようになる	
		5.次コマとの関係	次は心血管エマージェンシーに進む	
13	救急疾患の基礎知識7:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	心血管エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	心血管エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	1うっ血性心不全　について学び、看護介入に活用できるようになる	
		5.次コマとの関係	次はショックに進むので循環器疾患を見直しておく	
14	救急疾患の基礎知識8:	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。疾患について対応できる	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	ショック	
		3.コマ主題細目	ショックについて理解し、看護介入に活かす	
		4.コマ主題細目深度	ショックの定義及び病態生理について学ぶ。 2モニタリング①血液量、②酸素供給　3ショックの治療について学び、看護介入に活用できるようになる	
		5.次コマとの関係	救急救命に関するまとめに入る	
15	総まとめ	1.シラバスとの関係	救急救時の救急救命処置の方法を学ぶ	専修学校　動物看護師養成モデルコアカリキュラム準拠　動物看護の教科書　第6巻／パワーポイント
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	救急救時の救急救命処置の方法を学び、看護介入に活	
		4.コマ主題細目深度	救急救時の救急救命処置の方法を学び、看護介入に活用できる事を復習しておく。実際に活用できるように訓練をしておく	
		5.次コマとの関係		

学科	動物看護学科	シラバス（概要）
コース		ヒトと動物のより良い共生を目指し、専門職の観点からご家族指導に活かす。今まで学習した専門知識を活用し啓蒙と個別に応じたご家族教育に活かす。ご家族に教育指導する場合には、まずは説明する立場の動物看護師個人を信頼し、耳を傾けてもらわねばその内容を受け入れてもらうことができない。その結果、治療や処置を必要としている動物に適切な処置がなされないまま、動物達は治療が為されないまま、又は適切な生活をすごすことができないまま放置されることになる。 患者動物に直接働きかけるわけではなく、常にその間にご家族が存在する治療となる獣医療の中で、家族に動物病院そのもの、または個人としてのスタッフが信頼されて、コンプライアンスを高められるかということが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていると考えられる。そのためには、医療人として信頼されるための第一印象を得るための姿勢、ユニフォームの正しい着用、身だしなみ、身なり整理整頓などを心がけた上で、ご家族に受け入れていただけるような知識を蓄積し、その説明能力を身に着けることが望ましい。ここでは、それらの順を追って学習する。また、ご家族は個々により環境や能力が異なるため、いかにその家族についての情報を読み取ることができるか、そしてその能力や環境に応じた方法程度を心得て説明できるかが重要である。
年度	2014	
学年	2	
期	前期・後期	
ユニット		
科目名	クライアントエジュケーション	
単位		
履修時間	30時間	
回数	30回	
必修・選択	必修	
省庁分類		
授業形態	座学、グループワーク、模擬プレ	評価方法
作成者	山下眞理子	座学（授業態度・取組姿勢）、グループワーク、模擬プレー
教科書	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	クライアントエジュケーション概論	1.シラバスとの関係	この学科の全体を知る	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントエジュケーション概論	
		3.コマ主題細目	クライアントエジュケーションとは何か	
		4.コマ主題細目深度	クライアントエジュケーションとは何か、何故必要か、どのように進めるかの解説をし、今後の授業をスムーズに展開できるようにする	
		5.次コマとの関係	全体を知る前に意味を知る	
2	クライアントエジュケーションに関係用語の意味を知る	1.シラバスとの関係	クライアントエジュケーションとは？を知るための用語について	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントエジュケーションを知るための用語を知る	
		3.コマ主題細目	クライアントエジュケーションを知るための用語を知る	
		4.コマ主題細目深度	クライアントとは？エジュケーションとは？コンプライアンスとは？クライアントサービス、ホスピタリティー、対人能力、など専門的な用語を理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	自分自身を信頼して貰えるために必要なテクニックに進む	
3	必要な情報を集約できる①	1.シラバスとの関係	適切な家族教育をするための情報収集について	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	カルテの情報から必要な情報を集約する	
		3.コマ主題細目	症例資料から、飼主家族教育に必要な情報を読み取る	
		4.コマ主題細目深度	看護対象である動物に対する情報を収集する時には、動物看護過程に沿ったSOAPモデルを活用した方法で実施できる。対象動物自体についての動物像のみならず家庭環境、必要な獣医学的知識や検査結果などをみていく。その中から読み取れる客観的情報と、その裏にある情報を読み取れるようになる。	
		5.次コマとの関係	飼主家族を知るための方法を習得する	
4	必要な情報を集約できる②	1.シラバスとの関係	適切な家族教育をするための情報収集について	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	カルテの情報から必要な情報を集約する	
		3.コマ主題細目	症例資料から、ご家族教育に必要な情報を読み取る	
		4.コマ主題細目深度	家庭環境、動物像、病像、をみていく。その中から読み取れる客観的情報と、その裏にある情報を読み取れるようになる。飼主家族に実施してもらう技術や知識を指導する上で、関連情報をいかに修得整理し、お互いの理解を深めた上で信頼関係を構築できるようになる。事例を用いて、関連図を作成してできるようになる	
		5.次コマとの関係	飼主家族を知るための方法を習得する	
5	クライアントのコンプライアンスの向上①	1.シラバスとの関係	信頼関係を築き、ご家族に教育を受け入れてもらうために	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントのコンプライアンスの向上	
		3.コマ主題細目	クライアントのコンプライアンスの向上させるためには？	
		4.コマ主題細目深度	コンプライアンスとは？コンプライアンスに影響する要因について。クライアントとはどんな人々なのか？次の観点からクライアントについて考察してみよう。年齢、性別、就労生活、自宅外で過ごす時間数、生活様式の選択肢、家庭内の動物の役割について理解し、クライアントの理解を深めるテクニックを持つことができるようになる	
		5.次コマとの関係	クライアントのレベルを知る	

6	クライアントのコンプライアンスの向上②	1.シラバスとの関係	クライアントの視点を理解する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	コンプライアンスを高めて、患者動物への対応を向上させる	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	クライアントの視点を理解する、動物看護師の役割とは？クライアントの経験を聞き、事例をかんがえてみよう。そして飼主家族との関わりを持つことが可能なテクニックを知ることが出来るようになる	
		5.次コマとの関係	模擬症例を見て、関わり方を考える	
7	クライアントのコンプライアンスの向上③	1.シラバスとの関係	飼主家族の視点を理解する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	事例を用いて架空の飼主家族への対応を考える	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	事例を見て、その事例では獣医師からの説明があったのかどうか、その説明を飼主家族は重要なものと受け止めていたのか、聞いた時の感情を考え、実行できそうな内容であるのかどうか、また、不可能な場合には問題点はどこか、解決方法はどうするか、を考えて一生に頑張りましょうという姿勢を示す。また、開始後は継続確認を確認する。発表できるようなる	
		5.次コマとの関係	院内サービス、クライアントサービスを考える	
8	私達が達成したいものは？	1.シラバスとの関係	動物病院の目標は何でしょうか？	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	私達が達成したいものは？	
		3.コマ主題細目	動物病院のサービス、クライアントの求めているものは？	
		4.コマ主題細目深度	クライアントの求めるものは？・・・これに応えることにより、クライアントの眼には、その病院が何者にも代えがたい存在と映るようになる。その内容について考え、対応できるようになる	
		5.次コマとの関係	クライアントを逃さないようにするためのサービスとは？	
9	ホスピタリティーについて学ぶ	1.シラバスとの関係	相手を教育するためには自分自身を信頼して貰えることが必要	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	ホスピタリティーとは	
		3.コマ主題細目	ホスピタリティーについて学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	全てのヒトに快適に感じてもらえる良い印象の全て。動物病院にはどのようなホスピタリティーが必要か？を考えられるようなる	
		5.次コマとの関係	各自が考える「もしも自分の動物病院だったら」の基礎知識	
10	ホスピタリティーのある動物病院を考える	1.シラバスとの関係	患者動物のご家族に信頼してもらえるためには。	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	ホスピタリティーのある動物病院	
		3.コマ主題細目	動物病院の各種分野のホスピタリティーについて学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物病院の各種分野のホスピタリティーについて。①患者動物のための、②飼主家族のための、③スタッフのための④周辺社会　以上4つの分類に対してホスピタリティーを考えられるようになる	
		5.次コマとの関係	各自が考える「もしも自分の動物病院だったら」をつくるための準備	
11	ホスピタリティーのある動物病院を考える「もしも、自分の動物病院だったら」1	1.シラバスとの関係	患者動物のご家族に信頼してもらえるためにはサービスと満足が必要	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	「もしも、自分の動物病院だったら」を考える	
		3.コマ主題細目	「もしも、自分の動物病院だったら」を分野ごとに考える	
		4.コマ主題細目深度	①動物病院のポリシー②名称③患者動物のための④飼主家族のための⑤スタッフのための⑥周辺社会のための、ホスピタリティーについて考え、今後、動物看護師として就業した際に実施できるようになれる	
		5.次コマとの関係	各自の発表をする準備	
12	ホスピタリティーのある動物病院を考える「もしも、自分の動物病院だったら」2	1.シラバスとの関係	患者動物のご家族に信頼してもらえるためにはサービスと満足が必要	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	「もしも、自分の動物病院だったら」を考える	
		3.コマ主題細目	「もしも、自分の動物病院だったら」を発表する	
		4.コマ主題細目深度	①動物病院のポリシー②名称③患者動物のための④ご家族のための⑤スタッフのための⑥周辺社会のための、ホスピタリティーについて発表し、考える。また、クラス全体で共に考え意見を述べることができるようになる	
		5.次コマとの関係	ご家族に教育指導するためにはまず、何から開始するかを考える	

13	飼主家族を理解納得させることができるか （フィラリア予防薬を使用するように説明する）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	フィラリア予防薬をすすめる	
		3.コマ主題細目	フィラリア予防薬を納得して利用してもらえるか	
		4.コマ主題細目深度	フィラリアという病気を理解し、その予防の必要性を知った上で、適切な方法で使用してもらえるように説明できるか、予想される質問を前提にして回答を準備する	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
14	飼主家族を理解納得させることができるか （フィラリア予防薬を使用するように説明する）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	フィラリア予防薬をすすめる	
		3.コマ主題細目	フィラリア予防薬を納得して利用してもらえるか	
		4.コマ主題細目深度	フィラリアという病気を理解し、その予防の必要性を知った上で、適切な方法で使用してもらえるように説明できるか、予想される質問を全員で予想し、抽出してどれに回答を準備し、説明できるようになる	
		5.次コマとの関係	次のテーマに進み、他の項目にも挑戦する	
15	飼主家族を理解納得させることができるか （ノミの駆除及び予防）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	飼主家族に理解してもらえうるか	
		3.コマ主題細目	飼主家族に、ノミのライフサイクルを説明し、見えているノミだけ駆除ではいけないことの理解を得られるように知識を駆使して伝えられる	
		4.コマ主題細目深度	体に寄生しているノミがいた場合、それだけを駆除すればよいのではなく、ノミのライフサイクルに合わせた駆除と予防が必要になる。何故必要なのか、などを知識として調べる。臨床の場での質問を予想して回答を準備することにより、患者動物の飼主家族の気持ちを理解し、どこがわかないのか理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
16	飼主家族を理解納得させることができるか （ノミの駆除及び予防）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動
		2.コマ主題	ノミの駆除と予防に必要な知識を確認する	
		3.コマ主題細目	動物病院では実際にどのような方法を使っているか	
		4.コマ主題細目深度	動物病院で実際に使用している薬剤や方法を知り、それを飼主家族にどのようなツールで勧めればよいか、を考えて対応できるようになる。ある飼主が猫を連れて来院した。その猫にノミがついていたため、近所のドラックストアーでノミ取り首輪を買ってつけていたようだが、いまだに駆除できていないしひっかいている。動物看護師として専門的な駆除製品を購入する必要性について、どのように説得できるか。実演してみる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
17	飼主家族を理解納得させることができるか （今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明する）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	（今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明	
		3.コマ主題細目		
		4.コマ主題細目深度	いつから健康診断をしたらよいか、どんな項目があるのか、何故必要なのか、などを知識として調べる。質問を予想して回答を準備することにより、患者動物の飼主家族の気持ちを理解し、どこがわかないのか理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	
18	飼主家族を理解納得させることができるか （今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明する）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目	（今は健康だが、定期健康診断を受けて貰えるように説明	
		4.コマ主題細目深度	いつから健康診断をしたらよいか、どんな項目があるのか、何故必要なのか、などを知識として調べる。模擬家族からの質問に応える。準備した予想される質問を基に、医学的知理気のない飼主家族に対しても理解してもらえるように考えることができるようになる	
		5.次コマとの関係	次のテーマに進み、他の項目にも挑戦する	
19	飼主家族を理解納得させることができるか （歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		3.コマ主題細目	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		4.コマ主題細目深度	歯肉炎とは？歯周病とは？歯石除去はなぜ必要か？実施するリスクと実施しないリスクは？納得してもらえるように知識を蓄える。出てきそうな質問を予想して抽出し、回答を準備することにより、知識を復習することができる	
		5.次コマとの関係	模擬家族を前にして指導できるようにする	

20	飼主家族を理解納得させることができるか （歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		3.コマ主題細目	歯肉炎、歯周病がある歯石除去を進める	
		4.コマ主題細目深度	歯肉炎とは？歯周病とは？歯石除去はなぜ必要か？実施するリスクと実施しないリスクは？納得してもらえるように知識を蓄える。調べた知識を元に、質問に回答することにより、獣医学的知識のない人達に理解して貰えるよう解説することの困難さを知り、分かりにくいことは容易に理解して貰えるような術を習得できる	
		5.次コマとの関係	次のテーマに進み、他の項目にも挑戦する	
21	飼主家族を理解納得させることができるか （♂猫の去勢、♀猫の避妊手術を薦める）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	♂猫の去勢、♀猫の避妊手術について調べて知識を得る	
		3.コマ主題細目	飼主家族に手術を進め、理解し実施してもらえるようにす	
		4.コマ主題細目深度	手術について基礎知識を調べ、予想される質問に準備することで外科的、解剖学的知識が復習できる	
		5.次コマとの関係	ご家族に模擬説明体験できるよう準備する	
22	飼主家族を理解納得させることができるか（♂猫の去勢、♀猫の避妊手術を薦める）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	♂猫の共生、♀猫の避妊手術について	
		3.コマ主題細目	飼主家族に理解し納得してもらえるようにする準備	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族から出る可能性のある質問を予想し、その答えを考えておく。グループで知識を集積し、説明プレーの準備をすることにより、各自がより理解度を深めることができる	
		5.次コマとの関係	飼主家族に模擬説明体験できるよう準備する	
23	飼主家族を理解納得させることができるか（♂猫の去勢、♀猫の避妊手術を薦める）3	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	♂猫の去勢、♀猫の避妊手術について手術を薦める	
		3.コマ主題細目	飼主家族に理解し納得してもらえるようにする	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族に説明し、手術してもらえるよう理解を求め、説得できるか。模擬体験することにより実践的な雰囲気と、理解度を深めるための説明テクニックを学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	次の課題に進む	
24	ご家族を理解納得させることができるか （狂犬病ワクチン接種の薦め）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	狂犬病ワクチンについて調べて知識を得る	
		3.コマ主題細目	ご家族に狂犬病ワクチンを進め、接種してもらえるように	
		4.コマ主題細目深度	ご家族から出る可能性のある質問を予想し、その答えを考えておく。グループで知識を集積し、説明プレーの準備をすることにより狂犬病の知識の復習ができる	
		5.次コマとの関係	ご家族に模擬説明体験できるよう準備する	
25	飼主家族を理解納得させることができるか（狂犬病ワクチン接種の薦め）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	狂犬病ワクチン接種を勧める	
		3.コマ主題細目	飼主家族に8種混合ワクチンを進め、接種してもらえるよ	
		4.コマ主題細目深度	ご家族に説明し、接種してもらえるよう理解を求め、説得できるか。模擬体験により実践を体験し、より理解を深めてもらえるような説明テクニックを習得することができるようになる	
		5.次コマとの関係	次の課題に進む	
24	飼主家族を理解納得させることができるか （8種混合ワクチン接種を進める）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	8種混合ワクチンについて調べて知識を得る	
		3.コマ主題細目	飼主家族に8種混合ワクチンを進め、接種してもらえるようにできるか	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族から出る可能性のある質問を予想し、その答えを考えておく。グループで知識を集積し、説明プレーの準備をすることで基本的知識の復習をすることができるようになる	
		5.次コマとの関係	飼主家族に模擬説明体験できるよう準備する	

26	飼主家族を理解納得させることができるか （8種混合ワクチン接種を進める）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	8種混合ワクチン接種を勧める	
		3.コマ主題細目	飼主家族に8種混合ワクチンを進め、接種してもらえるようにできるか	
		4.コマ主題細目深度	大きな災害が発生した後には感染症が広まりやすい。ズーノーシスの中ではレプトスピラの発症が報告されている。また、災害復帰作業時には破傷風が発症する例がいくつかある。ワクチンで予防できるものは動物も人も可能な限りワクチン接種によって予防対策を講じるようにする。飼主家族に説明し、接種してもらえるよう理解を求め、説得できるか。模擬体験により、より実践的な雰囲気を体験し、各自が説明できる術をもつことができるようになる	
		5.次コマとの関係	次の課題に進む	
27	飼主家族を理解納得させることができるか （総合栄養食指導）1	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	総合栄養食指導	
		3.コマ主題細目	総合栄養食指導ができるような知識を蓄える	
		4.コマ主題細目深度	栄養学的知識を復習し、飼主家族からの質問を予想して答えられるように準備することでより深く復習することができる	
		5.次コマとの関係	ご家族に対して回答できるように質問に答える	
28	飼主家族を理解納得させることができるか （総合栄養食指導）2	1.シラバスとの関係	患者動物の飼主家族との信頼関係を基に、教育指導する	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	総合栄養食指導	
		3.コマ主題細目	想定した質問を用意し、飼主家族に説明納得してもらう	
		4.コマ主題細目深度	飼主家族に見立てたスタッフ（素人）に動物看護師として説明し、理解納得してもらえ、総合栄養食を使用してもらえるようにする	
		5.次コマとの関係	次回は、1年間の総合まとめに入る	
30	クライアントエジュケーションに関わるまとめ	1.シラバスとの関係	クライアントエジュケーションについてまとめ	①ヒルズ作成テキスト「動物病院におけるコミュニケーション」 ②動物看護の教科書第1巻 ③パワーポイント資料
		2.コマ主題	クライアントエジュケーションのまとめ	
		3.コマ主題細目	クライアントエジュケーションとはどんなことだったか	
		4.コマ主題細目深度	総まとめ	

1.5. モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発

ユニット	時間	科目時間	教科（授業科目）	ユニット特徴	学習目的（どんな方にお勧めか）
Ⅰ	150	15	動物健康管理学	臨床現場で見られる主な疾病を学び、実際に動物飼育（主に犬猫）を通して健康管理に努める。また犬猫以外の動物、小鳥、ウサギ、ハムスター、フェレットなどのエキゾチックアニマル、産業動物、実験動物、野生動物、展示動物の動物種による飼育健康ケアの違いを知る。	犬猫以外の動物関連分野に興味のある方。 動物医療の知識から動物飼育を学びたい方。
		30	飼養管理学Ⅰ		
		30	動物疾病看護学Ⅰ		
		30	動物疾病看護学Ⅱ		
		45	動物飼育実習Ⅰ		
Ⅱ	120	30	動物形態機能学Ⅰ	主に犬猫の体の構造や機能を知り、動物医療現場で行われる処置及び入院看護に活かす。	動物医療分野に参入したい方。
		90	動物看護実習Ⅰ		
Ⅲ	120	30	動物形態機能学Ⅱ	主に犬猫の体の構造や機能を知り、動物医療現場で行われる検体採取及び検査に活かす。	検査技術を身につけたい方。
		90	動物臨床検査実習Ⅰ		
Ⅳ	135	30	病原体・衛生管理	公衆衛生、関連法規から人と動物の健康に寄与する。また、ワクチン接種や外科的処置（避妊手術、去勢手術）含めた疾病予防から動物の健康の向上に役立てる。	共通感染症及び法規を理解し人と動物の健康への啓発に努めたい方。 動物医療現場での基本的な外科手術の流れを身につけたい方。
		30	公衆衛生学		
		30	動物医療関連法規		
		45	外科動物看護実習Ⅰ		
Ⅴ	150	30	動物行動学Ⅰ	主に犬猫の動物種としての習性や行動様式や必要栄養素やライフステージの違いから適正な飼養を学ぶ。また動物の個性や生活環境を活かした飼養のために院内及びクライアントとの情報収集、共有にコミュニケーション	行動学、栄養学の知識を身につけたい方。 動物医療現場でコミュニケーション能力を高めたい方。
		30	動物栄養学Ⅰ		
		30	動物栄養学Ⅱ		
		30	院内コミュニケーションⅠ		

		30	院内コミュニケーションⅡ	能力を活かす。	
Ⅵ	150	30	動物感染症学Ⅰ	主に犬猫の感染症（寄生虫、微生物）の知識から必要な検査項目を知る。また、動物看護に欠かせない観察力や職業人としての情意面を養い症状別の異常を見分ける知識を身につける。	動物看護師として働くために必要となる基礎的、基本的な知識・概念を体系的に学びたい方。
		30	動物感染症学Ⅱ		
		30	動物看護学Ⅰ		
		30	動物看護学Ⅱ		
		30	動物臨床検査学		

1.6. まとめと考察

本事業では、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」（60 単位、1,920 時間）を基にして、学習ユニットの構築を行った。学習ユニットを構築する際には、履修証明書の発行を前提として考え、120 時間以上となるよう配慮した。

学習を始める際の目的、動機は人によって異なり、様々である。「動物を飼いたい。動物をよりよく飼育するために知識・技術を学びたい」というニーズもあれば、「介護の現場でアニマルセラピーを取り入れたいが、動物からの感染症が気になるので、そういった知識を短期間で効率よく学びたい」というニーズもある。もちろん、「動物看護師になりたいので、動物看護師として働くために必要となる基礎的、基本的な知識や概念を体系的に学びたい」というニーズもある。

本事業では、そうしたそれぞれのニーズに応えられるよう、学習ユニットの特徴に加えて、学習目的（どんな方にお勧めか）も明記している。

なお、今回構築する学習ユニットは、夜間や土日、ならびに夏季休業期間や冬季休業期間などに開講することを検討しており、すぐに専門学校等に入学して学び出すことが困難な就労者や求職者など、社会人の学び直しに役立つよう活用する予定である。働きながら学ばざるを得ない方や、結婚・出産・子育てなどで家庭から離れにくい方に、短期間の講座（詳しくは「1.5 モデルカリキュラム（学習ユニット）の開発」を参照）を受講していただき、そこで得られる修了証（履修証明書）を積み重ねることで、２年課程の１年生の科目をすべて履修し、２年生に編入できるような仕組みを作れないかと考えている。

上記のことを考慮し、本事業における学習ユニットの構築に当たっては、主に１

年生で履修すべき科目を取り扱った（各科目の位置づけについては「1.3（２）科目の整理」を参照)。今後、関連職域 WG が調査した学習ニーズ等を考慮し、さらに科目を増やしていきたいと考えている。

第２編　事業実施記録

2. 調査について〈関連職域調査研究 WG〉

2.1　調査の目的

関連職域調査研究 WG では、動物病院でのサービスが獣医療だけでなく、関連する各種サービスも実際に展開されているなかで、今回、獣医療以外のサービスに関して現状どのような状況にあるか、またこれらに関する病院長・病院運営者の意識を調査し、必要とされる人材、またその養成に必要な課題を探るため、「動物病院における獣医療以外のサービスに関する意識･実態調査」実施した。

2.2　調査の方法及び対象

A. アンケート実施方法（調査方法）

（１）インターネット配信による調査回答（184 件回答／229 件依頼中：回答率 80.3%）

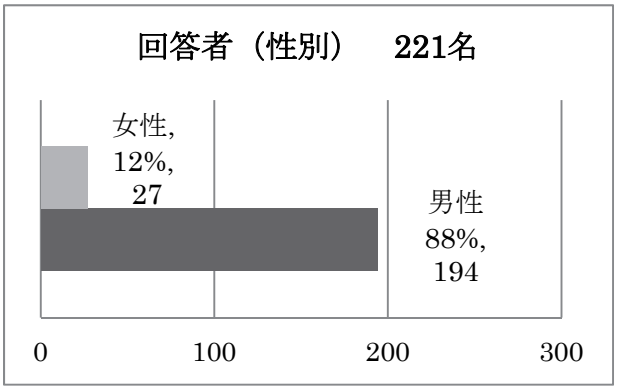
（２）アンケート用紙を用いた調査回答（37 件回答／45 件依頼中：回答率 82.2%）

（１）、（２）合計回答数：221 件回答／274 件依頼中、回答率 80.66%

B.アンケート調査回答者プロフィール

（１）回答者（動物病院院長）男女比

男性	194 名	88%
女性	27 名	12%
合計	221 名	100%



（２）年齢

平均年齢	41.39 歳

（219 名平均、未記入 2 名）

（３）地域分布

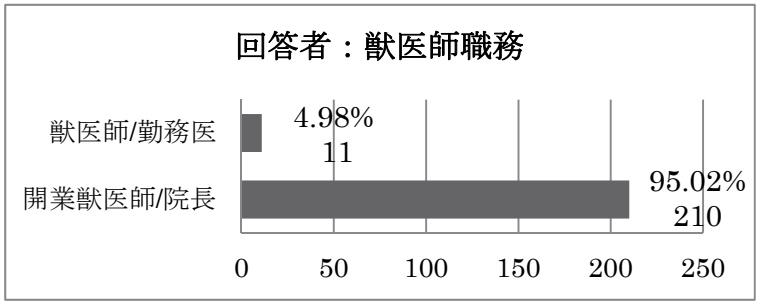
40 都道府県の動物病院から回答

地域	北海道	東北	関 東 / 甲信越	東 海 / 北陸	近畿	中 国 / 四国	九州沖縄	全国計
含む都道府県	北海道	青森 秋田* 岩手 盛岡 宮城 山形 福島	群馬 栃木 茨城 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨* 長野* 新潟	静岡 愛知 三重* 岐阜 富山* 石川 福井*	滋賀 京都 大阪 奈良 和歌山 兵庫	岡山 鳥取 島根* 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	福岡 佐賀 大分 熊本 宮崎 鹿児島 沖縄	
回答者数	10 名	10 名	95 名	26 名	40 名	22 名	18 名	221 名
比率※	4.52%	4.52%	42.99%	11.76%	18.10%	9.95%	8.14%	100%

※(小数点第２位以下四捨五入)　　(*)の都道府県は回答者なし

（４）回答者：獣医師職務

職務	回答者分布
開業獣医師/院長	210 名
獣医師/勤務医	11 名
合計	221 名



（５）開業年数

平均８．３６年

開業年数	0～5 年	6～10 年	11～15 年	16～20 年	21 年以上	合計
回答者数	115 名	48 名	28 名	11 名	19 名	221 名
比率	52.04%	21.72%	12.67%	4.98%	8.60%	100%

（６）動物病院スタッフ数（221 病院）

職種	平均
獣医師	2.02 名
獣医師以外	3.55 名
スタッフ数合計	5.57 名

（７）動物病院のスタッフ構成

獣医師以外のスタッフ数（動物看護師、その他スタッフ）

職種	動物看護師	その他スタッフ（受付/トリマー/しつけトレーナー/その他の合計）
平均人数	2.47 名	1.08 名

職種別スタッフ数

職種	獣医師	:看護師	受付	トリマー	しつけトレーナー	その他
平均人数	2.02 名	2.47 名	0.22 名	0.63 名	0.04 名	0.19 名

動物看護師の経験年数

動物看護師の経験年数（190 病院）	1 ヵ月～6 ヵ月	6 ヵ月～1 年	1 年～2 年	2 年～3 年	3 年～5 年	5 年～7 年	7 年～10 年	10 年～15 年	15 年～20 年	20 年以上	合計
総人数（名）	19	54	59	49	56	28	28	23	11	4	331
1 病院当たりの動物看護師数（名）	0.09	0.24	0.28	0.23	0.26	0.13	0.13	0.10	0.05	0.02	1.52

スタッフの経験年数　（動物看護師/獣医師以外）

スタッフの経験年数（動物看護師/獣医師以外）（190 病院）	1 ヵ月～6 ヵ月	6 ヵ月～1 年	1 年～2 年	2 年～3 年	3 年～5 年	5 年～7 年	7 年～10 年	10 年～15 年	15 年～20 年	20 年以上	合計
総人数（名）	20	35	30	29	26	27	19	12	8	8	214
1 病院当たりのスタッフ数（名）	0.09	0.16	0.14	0.13	0.12	0.12	0.09	0.05	0.04	0.04	0.97

（８）職員(スタッフ)の社会保険への加入実態

加入実態	全員加入	一部加入	未加入	合計
件数	78 名	19 名	122 名	219 名
比率（%）	35.62%	8.68%	55.71%	-

※有効回答数：219 名

【地域別】職員(スタッフ)の社会保険への加入実態

地域	回答者数	全員加入		一部加入		未加入	
		(左:件数、右:地域内比)		(左:件数、右:地域内比)		(左:件数、右:地域内比)	
北海道	10	2	20.00%	0	0.00%	8	80.00%
東北	10	3	30.00%	1	10.00%	6	60.00%
関東/甲信越	94	38	40.43%	12	12.77%	44	46.81%
東海/北陸	26	5	19.23%	3	11.54%	18	69.23%
近畿	40	18	45.00%	1	2.50%	21	52.50%
中国/四国	22	7	31.82%	2	9.09%	13	59.09%
九州/沖縄	17	5	29.41%	0	0.00%	12	70.59%
全国計	219	78	35.62%	19	8.68%	122	55.71%

（９）正規職員／非正規職員の比率

職種	動物看護師			その他スタッフ（獣医師除く）		
正規/非正規	正規職員	非正規職員	合計	正規職員	非正規職員	合計
総数	481 名	75 名	556 名	185 名	73 名	258 名
比率	86.51%	13.49%	□	71.70%	28.30%	□

※221 病院回答より

（１０）学歴

学歴	大学院卒	大学卒	短大卒	専門学校卒	フリースクール卒	高校卒	その他	合計
人数	13	91	18	258	1	21	8	410
比率(%)	3.17%	22.20%	4.39%	62.93%	0.24%	5.12%	1.95%	100%

（１１）獣医療/動物看護業務以外の収入割合

平均 5.85%　(220 件回答中)

収入割合	0%	0 以上-10%未満	10-20%未満	20-30%未満	30-40%未満	40-50%未満	50-60%	60%以上	合計
病院数	98	57	44	14	5	1	1	0	220
比率(%)	44,55%	25.91%	20.00%	6.36%	2.27%	0.45%	0.45%	0%	

（１２）獣医療／獣医療以外のサービスに占める床面積

平均延床面積(㎡)	129.13
最大値(㎡)	2187
最小値(㎡)	11

※回答者 167件

獣医療に占める面積(%)平均	64.12
最大値(%)	100
最小値(%)	5

※回答者 220 件

獣医療以外のサービスに占める面積(%)平均	5.8
最大値(%)	40
最小値(%)	0

※回答者 220 件

C.アンケート実施内容

【アンケート用紙を用いた調査回答用紙見本】

院長先生

平成２５年度文部科学省委託事業「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業（獣医療体制分野）」

～動物病院における意識･実態調査ご協力のお願い～

この度、上記の通り、文部科学省委託事業として「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業（獣医療体制分野）」の一環としまして、動物病院における獣医療以外のサービスに関する意識･実態調査を実施させていただくことになりました。

つきましては、動物病院での現状とお考えにつきまして、下記アンケートにご回答賜りたくご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

なお、この調査は今後の人材育成・プログラム検討や開発など専門人材の養成のための調査資料とさせていただきます。

ご多忙なところ大変恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

文部科学省委託事業　「獣医療体制分野における中核的人材養成プログラム開発事業」
実施委員会・関連職域調査研究ワーキンググループ

※この調査により集計した情報は、文部科学省委託事業に対する報告以外の用途には使用いたしません。

※（**回答必須**）の設問は必ずお答えいただきますようお願いいたします

※トータルの設問数は２２問（９問＋１３問）です。　※ご回答日現在の状況でご回答願います。

動物病院・スタッフのプロフィールについてお答えください

Q1：スタッフの総数と内訳（主として）

- 獣医師（院長先生含む）　＿＿＿名
- 動物看護師　＿＿＿名
- 受　付　＿＿＿名
- トリマー　＿＿＿名
- しつけトレーナー　＿＿＿名
- ［　　］　＿＿＿名
- ［　　］　＿＿＿名

Q2：主として動物看護以外の業務を行っているスタッフ数（獣医師以外）

・動物看護業務が主業務のスタッフ数）　　名

・動物看護業務以外が主業務のスタッフ数）　　名

Q3：動物看護業務以外が主業務のスタッフの勤務年数

（現在の職場での勤務年数：病院での実務経験年数）

	動物看護師	それ以外のスタッフ
１ヵ月～６ヵ月未満	名	名
６ヵ月～１年未満	名	名
１年～２年未満	名	名
２年～３年未満	名	名
３年～５年未満	名	名
５年～７年未満	名	名
７年～１０年未満	名	名
１０年～１５年未満	名	名
１５年～２０年未満	名	名
２０年以上	名	名

Q4：正規職員または非正規職員

動物看護師	正規職員	名
	非正規職員	名
それ以外のスタッフ	正規職員	名
	非正規職員	名

以下は、 動物看護師以外のスタッフの方（獣医師も除く）について

お答えください。

Q5：社会保険への加入は。（回答必須）（✔）

✔	全員加入
✔	一部加入
✔	加入していない

Q6：経歴

大学院卒	名	フリースクール卒	名
大学卒	名	その他	名
専門学校卒	名		
高校卒	名		

Q7：専門資格（ライセンス）保有

【トリミング・グルーミング分野】

●JKCトリマーライセンス　　名

●その他団体トリマーライセンス　※具体的に明記してください

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

【トレーニング・しつけ分野】

●JAHAしつけインストラクターライセンス　　**名**

●JAPDT（日本ペットドッグトレーナー）ライセンス　　**名**

●優良家庭犬普及協会ライセンス　　**名**

●JKC訓練士　　**名**

●その他しつけトレーニング資格

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、しつけトレーニング関連協会団体資格を具体的に明記してください

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

【その他の分野の資格】

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿：　　名

Q8：獣医療・動物看護業務以外の収入が、動物病院の総収入に占める割合は。（回答必須）

●全体の＿＿＿＿＿％

Q9：病院の延床面積

●延床面積は＿＿＿＿＿平方メートル

その内訳は、

●獣医療業務（臨床）関連の面積　：　全体の＿＿＿＿＿％
●サービス面（トリミング、しつけ教室・ドッグラン、カウンセリング相談ルーム）
：　全体の＿＿＿＿＿％

動物病院の付帯サービスについてお答えください。

Q1：院長先生からみて、動物病院での各付帯サービスの経営への貢献度は？
各サービスの貢献度を５段階評価でお答えください。(✔)

５：大変貢献している／４：貢献している／３：どちらとも言えない／２：貢献していない／１：全く貢献していない

※実施していない評価対象外のサービスは、『なし』を選択してください
※１, ※２　：診断書が無くても購入できるもの　　※３　　：トリミング、しつけ等

サービス名	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	なし
トリミング	✔	✔	✔	✔	✔	✔
ホテル	✔	✔	✔	✔	✔	✔
しつけ	✔	✔	✔	✔	✔	✔
パピークラス	✔	✔	✔	✔	✔	✔
マッサージ	✔	✔	✔	✔	✔	✔
ペットシッター	✔	✔	✔	✔	✔	✔
グッズ販売	✔	✔	✔	✔	✔	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔	✔	✔	✔	✔	✔
生体販売	✔	✔	✔	✔	✔	✔
ペット保険	✔	✔	✔	✔	✔	✔
シニアケアグッズ販売	✔	✔	✔	✔	✔	✔
カウンセリング相談	✔	✔	✔	✔	✔	✔
出張サービス ※３トリミング、しつけ等	✔	✔	✔	✔	✔	✔

その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔	✔	✔	✔	✔	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔	✔	✔	✔	✔	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔	✔	✔	✔	✔	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名も記入してください

Q2：動物医療の知識および動物看護の知識が必要と思われる付帯サービスは何ですか？

（回答必須）　※複数選択可　（✔）

サービス名	必要と思うものに（✔）
トリミング	✔
ホテル	✔
しつけ	✔
パピークラス	✔
マッサージ	✔
ペットシッター	✔
グッズ販売	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔
生体販売	✔
ペット保険	✔
シニアケアグッズ販売	✔
カウンセリング相談	✔
出張サービス ※３トリミング、しつけ等	✔
その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名を記入してください

Q3：院長先生からみて、現在おこなっている付帯サービスの満足度は？

各サービスの満足度を５段階評価でお答えください。

５：大変貢献している／４：貢献している／３：どちらとも言えない／２：貢献していない／１：全く貢献していない

※実施していない評価対象外のサービスは、『なし』を選択してください

※１, ※２　：診断書が無くても購入できるもの　　※３　　：トリミング、しつけ等

サービス名	評価 5	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	なし
トリミング	✔	✔	✔	✔	✔	✔
ホテル	✔	✔	✔	✔	✔	✔
しつけ	✔	✔	✔	✔	✔	✔
パピークラス	✔	✔	✔	✔	✔	✔
マッサージ	✔	✔	✔	✔	✔	✔
ペットシッター	✔	✔	✔	✔	✔	✔
グッズ販売	✔	✔	✔	✔	✔	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔	✔	✔	✔	✔	✔
生体販売	✔	✔	✔	✔	✔	✔
ペット保険	✔	✔	✔	✔	✔	✔
シニアケアグッズ販売	✔	✔	✔	✔	✔	✔
カウンセリング相談	✔	✔	✔	✔	✔	✔
出張サービス ※３トリミング、しつけ等	✔	✔	✔	✔	✔	✔
その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿	✔	✔	✔	✔	✔	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿	✔	✔	✔	✔	✔	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿	✔	✔	✔	✔	✔	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名も記入してください

Q4：今後展開していきたいと考えている付帯サービスは何ですか？（回答必須）

※３つまで選択可

サービス名	必要と思うものに（✔）
トリミング	✔
ホテル	✔
しつけ	✔
パピークラス	✔
マッサージ	✔
ペットシッター	✔

グッズ販売	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔
生体販売	✔
ペット保険	✔
シニアケアグッズ販売	✔
カウンセリング相談	✔
出張サービス ※３トリミング、しつけ等	✔
その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名を記入してください

Q5：各付帯サービスにおいて、教育機関に強化してほしい付帯サービスは何ですか？

（回答必須）　※複数選択可

サービス名	必要と思うものに（✔）
トリミング	✔
ホテル	✔
しつけ	✔
パピークラス	✔
マッサージ	✔
ペットシッター	✔
グッズ販売	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔
生体販売	✔
ペット保険	✔
シニアケアグッズ販売	✔
カウンセリング相談	✔

出張サービス ※３トリミング、しつけ等	✔
その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名を記入してください

Q6：各付帯サービスで、施術者の資格が問われると思うサービスは何ですか？（回答必須）
※複数選択可

サービス名	必要と思うものに（✔）
トリミング	✔
ホテル	✔
しつけ	✔
パピークラス	✔
マッサージ	✔
ペットシッター	✔
グッズ販売	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔
生体販売	✔
ペット保険	✔
シニアケアグッズ販売	✔
カウンセリング相談	✔
出張サービス ※３トリミング、しつけ等	✔
その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名を記入してください

Q7：Q6で選択した理由は何ですか？（回答必須）※複数選択可（✔）

☐ 社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから
☐ 現在、公的に認められている資格がないから
☐ その他

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、その理由を具体的に記述ください

Q8：動物関連教育機関以外から人材採用を考えることはありますか？（回答必須）（✔）

☐ ある
☐ ない

※上記の項目を選択された理由を具体的に記述ください

Q9：Q8で『ある』を選択した場合はその対象業務は何ですか？※複数選択可

サービス名	必要と思うものに（✔）
トリミング	✔
ホテル	✔
しつけ	✔
パピークラス	✔
マッサージ	✔
ペットシッター	✔
グッズ販売	✔
フード ※１診断書が無くても購入できるもの	✔
サプリメント・おやつ ※２診断書が無くても購入できるもの	✔
生体販売	✔
ペット保険	✔
シニアケアグッズ販売	✔
カウンセリング相談	✔

出張サービス ※3 トリミング、しつけ等	✔
その他 ・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔
・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	✔

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、サービス名を記入してください

Q10：院内にて、付帯サービス業のスタッフ教育・研修を実施していますか？（回答必須）

チェック欄	実施頻度	チェック欄	実施頻度
✔	年１回実施	✔	毎月１回実施
✔	年２回実施	✔	毎週実施
✔	年３回実施	✔	毎日実施
✔	年４回実施	✔	不定期実施
✔	年５回実施	✔	特に実施していない
✔	年６回実施		

Q11：Q10で『実施している』を選択した場合は、主にどんな教育を実施していますか？
※２つまで選択可

チェック欄	実施頻度	チェック欄	実施頻度
✔	学会、セミナーに参加させている	✔	書籍や雑誌で学習
✔	病院内に講師を呼んで実施	✔	Eラーニング（インターネット）を活用
✔	他病院や地域で共同勉強会を開催実施	✔	その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
✔	病院内部の人が講師になって実施 （報告会・研修会等）	✔	その他 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※上記で『その他』とお答えいただいた方は、教育内容をご記入ください

Q12：今後、これらスタッフに対してどんな教育（継続教育・再教育）が必要と思われますか？

職種・業務	必要と思われる教育内容
（例）トリマー	（例）接遇力、病気の知識、 犬種別のカット法を学ばせたい

Q13：その他、動物病院からみたこれらのスタッフについてのご要望・ご意見をお聞かせください

■ご回答者プロフィール■

動物病院プロフィール			
●所在地	都 道 府 県	区 市 町 村	
●総スタッフ数	名		
・獣医師数	名		
・獣医師以外のスタッフ数	名		
●開業年数	年		
院長先生のプロフィール			
●性別	男・女		
●年齢	年齢　　歳		

アンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございました。

2.3　調査結果について

図表編

１）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて
２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価
３）動物病院における付帯サービスの満足度評価
４）今後展開したい付帯サービス
５）動物看護の知識が必要なサービス
６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無
７）養成校以外からの人材採用
８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容
９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス
10）　動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見

コメント編

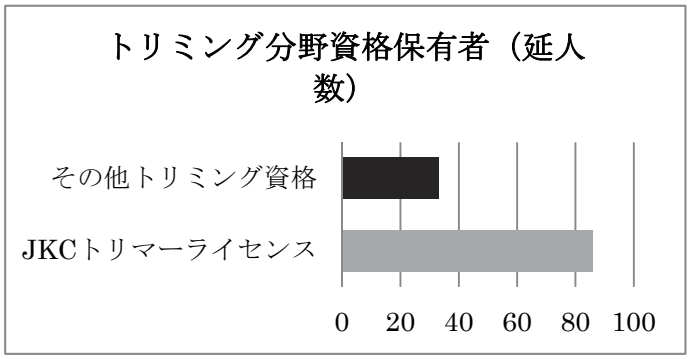
１）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて
２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価
３）動物病院における付帯サービスの満足度評価
４）今後展開したい付帯サービス
５）動物看護の知識が必要なサービス
６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無
７）養成校以外からの人材採用
８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容
９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス
10）　動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見
11）　まとめと考察

図表編

1）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて

（1）トリミング分野

トリミング分野資格保有者（延人数）	人数
JKC トリマーライセンス	86
その他トリミング資格	33
合計	119



その他トリミング分野資格・ライセンス	人数
全国動物専門学校協会ﾄﾘﾏｰﾗｲｾﾝｽ 1 級	1
全日本動物専門学校協会	1
NAVA 日本動物専門学校協会	1
NAVA公認ﾄﾘﾏｰ準 1 級	1
NAVA公認ﾄﾘﾏｰ 1 級	3
JAHTA	1
ZPK	1
日本動物衛生看護師協会	1
専門学校独自ﾄﾘﾐﾝｸﾞﾗｲｾﾝｽ(ﾔﾏｻﾞｷ)	1
盛岡ペットワールド専門学校認定トリマー	1
WaN（専門学校）ライセンス	4
安達認定トリマーライセンス　C 級	1
横浜動物愛犬美容学校 C 級ライセンス	1
カコトリミングスクール／ﾄﾘﾐﾝｸﾞﾗｲｾﾝｽ	1
日本ペットスクール A 級ライセンス	1
青山ケンネルスクール A 級ライセンス	2
学校独自ライセンス	11
合計	33

（2）しつけトレーニング分野

しつけトレーニング分野資格保有者（延人数）	人数
JAHA しつけｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰﾗｲｾﾝｽ	4
JKC 訓練士	3
その他資格	3
合計	10

その他トリミング分野資格・ライセンス
日本警察犬協会
DINGO
JAHTA
日本動物衛生看護師協会／ｺﾝﾊﾟﾆｵﾝﾄﾞｯｸﾞﾄﾚｰﾅｰﾗｲｾﾝｽ
専門学校卒業資格
専門学校独自ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾗｲｾﾝｽ（ﾔﾏｻﾞｷ）
EAC

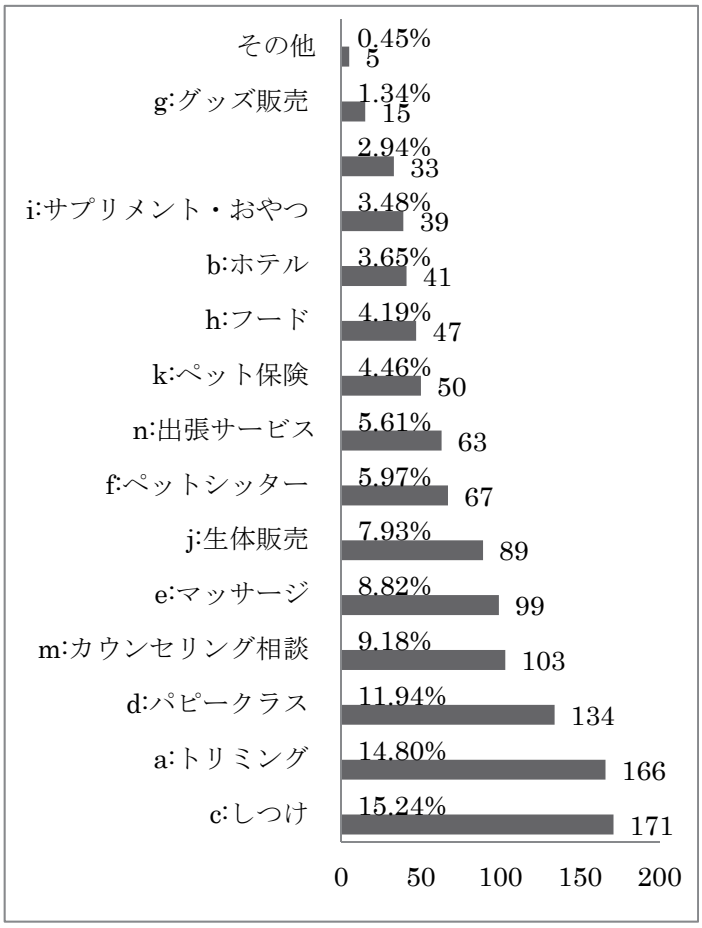
（３）その他の分野に関する資格保有

その他分野資格保有者（延人数）	人数
看護師（人）	1
栄養士（人）	1
動物看護師統一認定機構の認定動物看師護資格	4
日本動物看護職協会／臨床栄養動物看護師 2 級	1
認定動物看護士	3
日本愛玩動物協会／日本愛玩動物飼養管理士 1 級	2
日本愛玩動物協会／日本愛玩動物飼養管理士 2 級	5
日本愛玩動物協会／日本愛玩動物飼養管理士 3 級	1
認定キャットグルーマー	1
職業教育・ｷｬﾘｱ教育財団／ﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定試験(B 検)	2
愛玩動物救命士	1
カコトリミングスクール　動物看護士 B 級	1
T タッチﾌﾟﾛﾃｸｼｮﾅｰ P1	1
JKC　ハンドラー　C 級	1
合計	25

（４）資格が問われると思うサービス

資格が問われると思うサービス

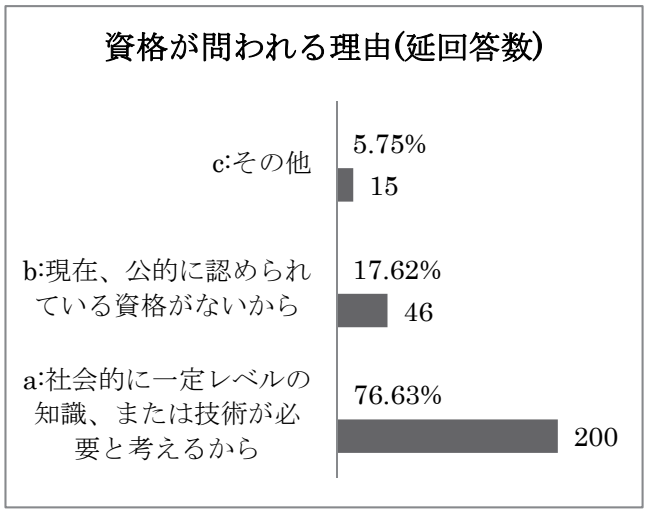
業務内容	件数	比率
c:しつけ	171	15.24%
a:トリミング	166	14.80%
d:パピークラス	134	11.94%
m:カウンセリング相談	103	9.18%
e:マッサージ	99	8.82%
j:生体販売	89	7.93%
f:ペットシッター	67	5.97%
n:出張サービス	63	5.61%
k:ペット保険	50	4.46%
h:フード	47	4.19%
b:ホテル	41	3.65%
i:サプリメント・おやつ	39	3.48%
l:シニアケアグッズ販売紹介	33	2.94%
g:グッズ販売	15	1.34%
その他	5	0.45%
合計	1122	



（５）資格が問われる理由（延回答数）

資格が問われる理由(延回答数)

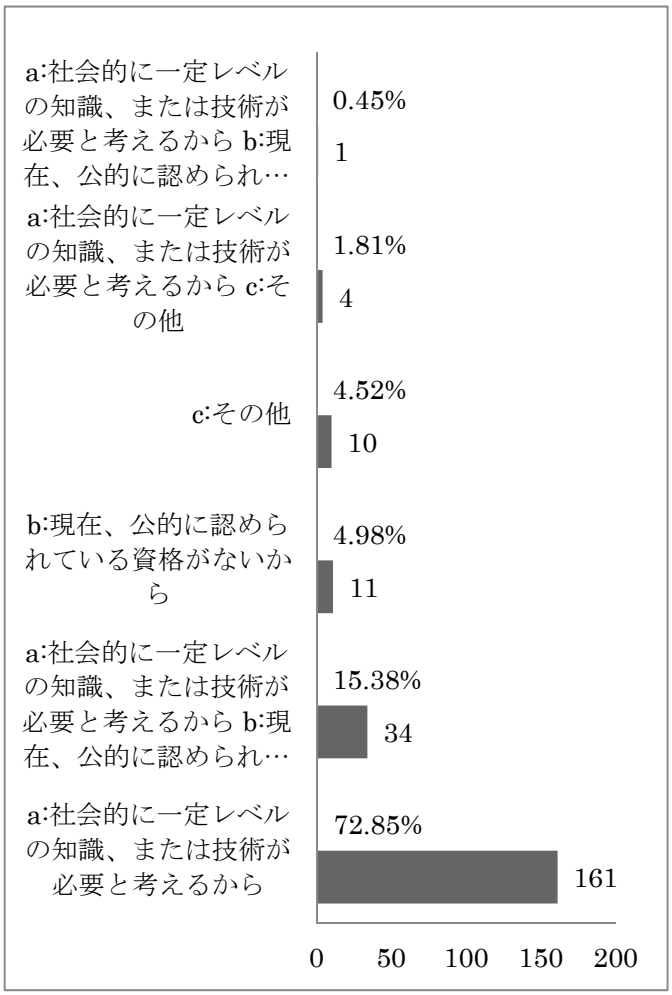
理由	件数	比率
a:社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから	200	76.63%
b:現在、公的に認められている資格がないから	46	17.62%
c:その他	15	5.75%
合計	261	



（６）資格が問われる理由（個別回答数）

資格が問われる理由(個別回答数)

理由	件数	比率
a:社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから	161	72.85%
a:社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから b:現在、公的に認められている資格がないから	34	15.38%
b:現在、公的に認められている資格がないから	11	4.98%
c:その他	10	4.52%
a:社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから c:その他	4	1.81%
a:社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから b:現在、公的に認められている資格がないから c:その他	1	0.45%
合計	221	



（７）その他の理由　（資格が問われる理由）

その他の理由 （資格が問われる理由）
一般的にわかりやすい規格があれば、サービスを見極める標準化になるのでと思う
【生体繁殖】犬に関するなんの知識も持たない者が繁殖を行っているから。
その人の一生を大きく左右するのでとても重要である。
どの程度の資格を言うのかによりますので、回答しかねます。
なし
間違った事を広められると困るので、統一した教育をして欲しい
顧客とのトラブルを生じないため。
誤った知識や偏った方法により、飼主や動物の生活の質を落としたり、大きな問題に発展する可能性があるため、また、ある程度の統一性をもたせた方が良いと考えるため。
施術者の意識の低さ
社会の成熟につれて、よりコンパニオンアニマルとして取り扱いに関する 法整備はさらに厳しくなり、命の取り扱いに関する知識資格は欧米を必ず追う 方向に向かうと思われるため。
生体販売に関して、一部の業者はモラルがなさすぎる。 一定の基準を満たすためにも資格を得るための教育が必要。
生体販売は、最後まで飼うことまで指導するなど、売りっぱなしにならない対策が必要と考えます。
知識的技術的な安定感と責任感が必要 やりたいからやる、という類の仕事ではない。 きちんと仕事している方への報酬を確保するためにも 資格・教育は不可欠であると思います
知人のペットがしつけトレーニング中に事故を起こし、命を落としたため。 （その際、トレーナーと思われる方が“私の経験不足で…”などと話していた。）

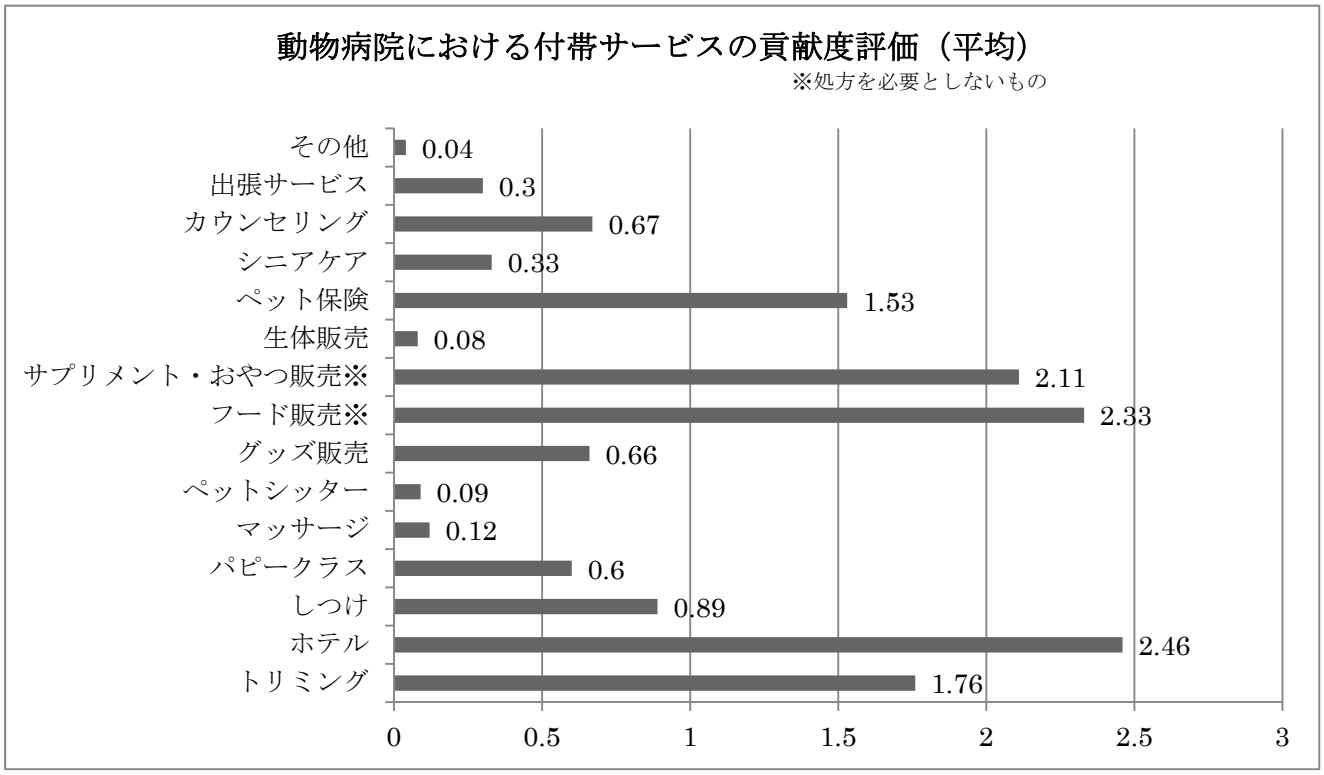
２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価

（１）動物病院における付帯サービスの貢献度評価

動物病院における付帯サービスの貢献度評価

サービス名	トリミング	ホテル	しつけ	パピークラス	マッサージ	ペットシッター	グッズ販売	フード販売※	サプリメント・おやつ販売※	生体販売	ペット保険	シニアケア	カウンセリング	出張サービス	その他	合計
貢献度評価（平均）	1.8	2.5	0.9	0.6	0.1	0.1	0.7	2.3	2.11	0.1	1.5	0.3	0.7	0.3	0	
件数	102	162	64	44	13	11	64	168	170	221	96	28	47	27	2	1219

※処方を必要としないもの



その他：シャンプー、セカンドオピニオン

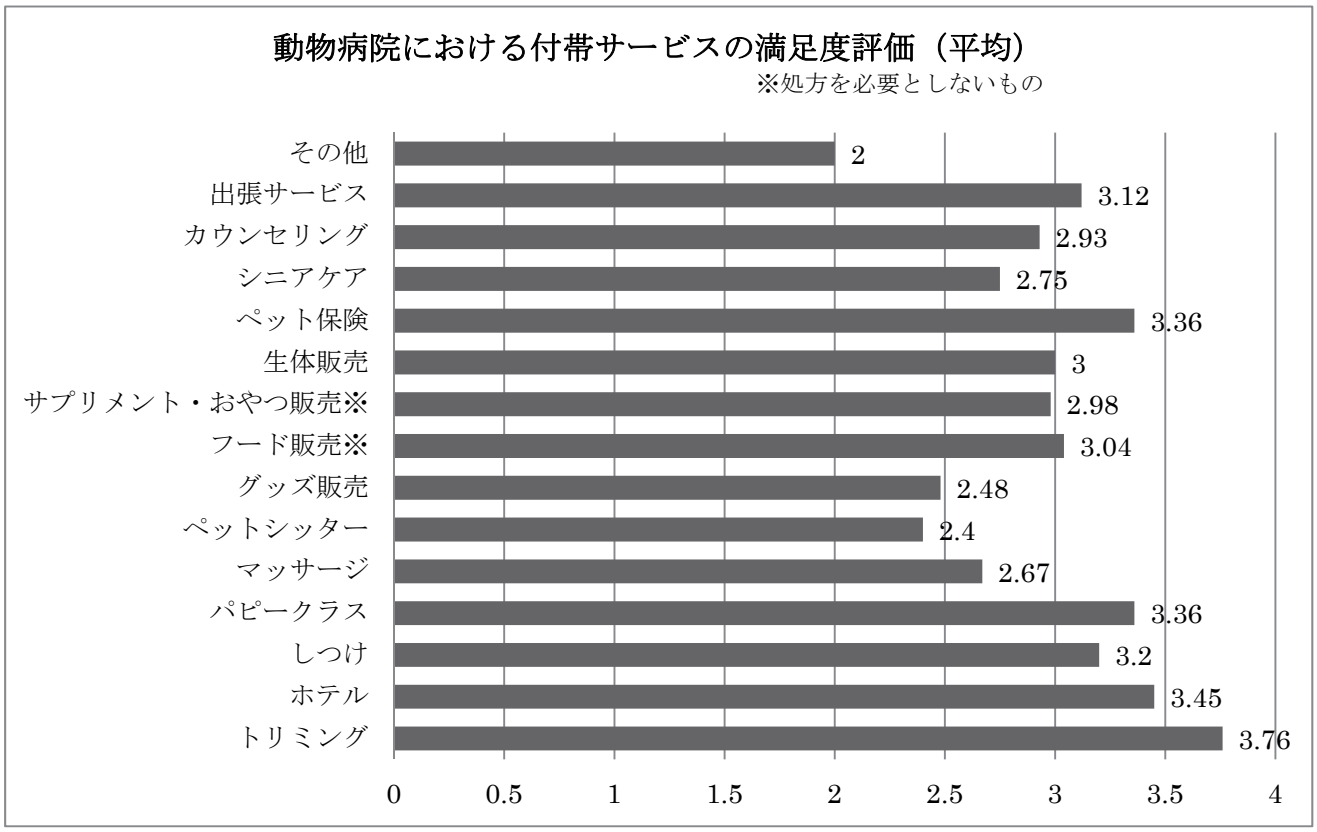
３）動物病院における付帯サービスの満足度評価

（１）動物病院における付帯サービスの満足度評価

動物病院における付帯サービスの満足度評価

サービス名	トリミング	ホテル	しつけ	パピークラス	マッサージ	ペットシッター	グッズ販売	フード販売※	サプリメント・おやつ販売※	生体販売	ペット保険	シニアケア	カウンセリング	出張サービス	その他	合計
満足度評価（平均）	3.76	3.45	3.2	3.36	2.67	2.4	2.48	3.04	2.98	3	3.36	2.75	2.93	3.12	2	
件数	99	159	67	41	9	5	50	152	146	3	77	24	44	17	2	895

※処方を必要としないもの



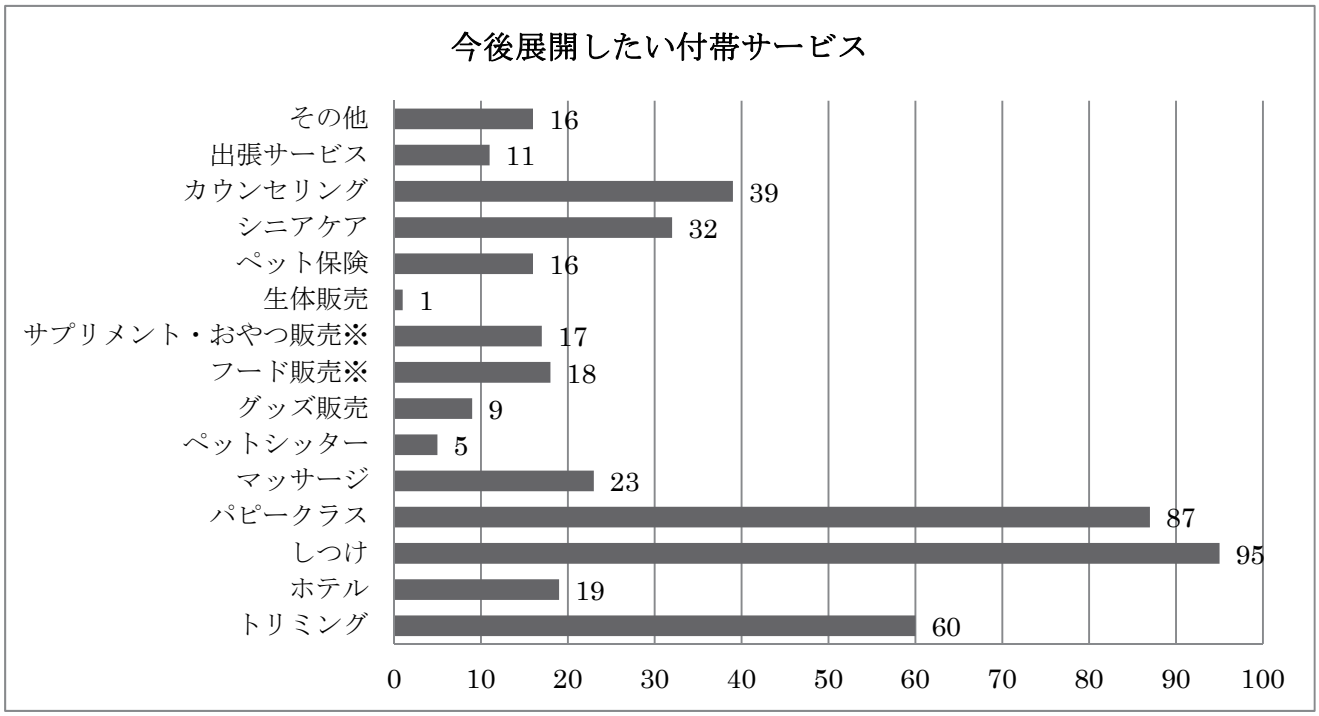
その他：シャンプー

4）今後展開したい付帯サービス

（1）－1　今後展開したい付帯サービス

今後展開したい付帯サービス

サービス名	トリミング	ホテル	しつけ	パピークラス	マッサージ	ペットシッター	グッズ販売	フード販売※	サプリメント・おやつ販売※	生体販売	ペット保険	シニアケア	カウンセリング	出張サービス	その他	合計
順位	3		1	2								5	4			
件数	60	19	95	87	23	5	9	18	17	1	16	32	39	11	16	448
比率	13.39%	4.24%	21.21%	19.42%	5.13%	5.13%	2.01%	4.02%	3.79%	0.22%	3.57%	7.14%	8.71%	2.46%	3.57%	



（1）－2　今後展開していきたいその他サービス

その他展開していきたい付帯サービス

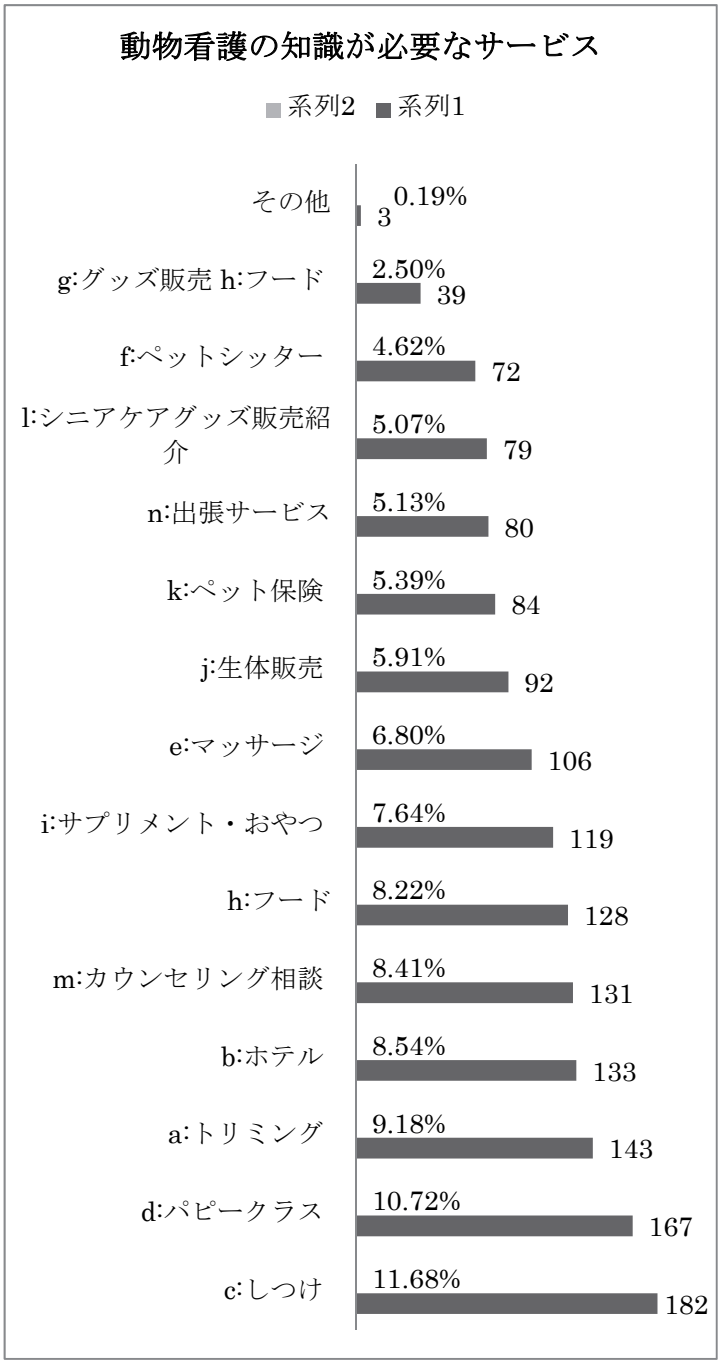
サービス名	特になし（現状のまま）	シャンプー指導	シニアケア	老犬介護	リハビリ	飼育前啓蒙	合計
件数	11	1	1	1	1	1	16

５）動物看護の知識が必要なサービス

（１）動物看護の知識が必要なサービス

看護の知識が必要なサービス

職種	件数	比率
c:しつけ	182	11.68%
d:パピークラス	167	10.72%
a:トリミング	143	9.18%
b:ホテル	133	8.54%
m:カウンセリング相談	131	8.41%
h:フード	128	8.22%
i:サプリメント・おやつ	119	7.64%
e:マッサージ	106	6.80%
j:生体販売	92	5.91%
k:ペット保険	84	5.39%
n:出張サービス	80	5.13%
l:シニアケアグッズ販売紹介	79	5.07%
f:ペットシッター	72	4.62%
g:グッズ販売 h:フード	39	2.50%
その他	3	0.19%
合計	1558	



（２）その他

（動物看護の知識が必要なサービス）

その他サービス名

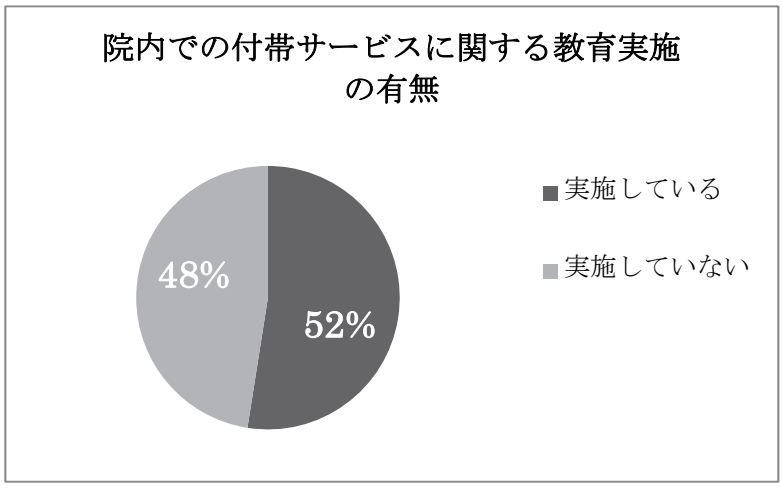
職種	件数
接客対応	1
リハビリ	1
上記サービスにおいて知識は有用ではあるが、必要とは思わない	1
合計	3

６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無

（１）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無

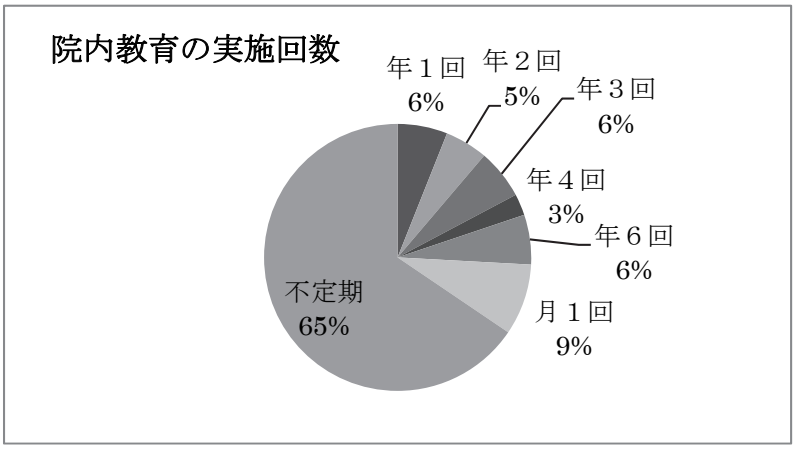
院内での付帯サービスに関する教育実施の有無

実施の有無	件数	比率
実施している	116	52.49%
実施していない	105	47.51%



（２）院内教育実施回数

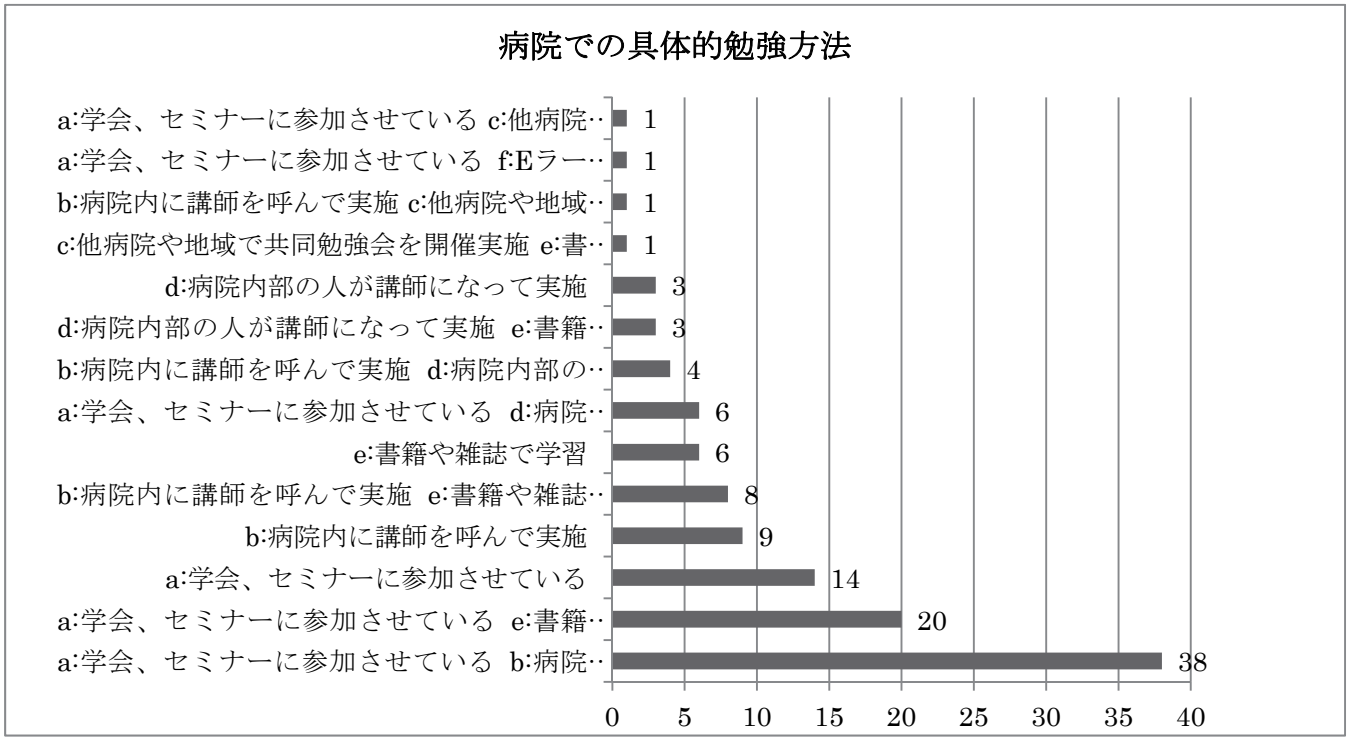
実施回数	件数	比率
年1回	7	6.03%
年2回	6	5.17%
年3回	7	6.03%
年4回	3	2.59%
年6回	7	6.03%
月1回	10	8.62%
不定期	76	65.52%
合計	116	



（３）－１　具体的勉強方法

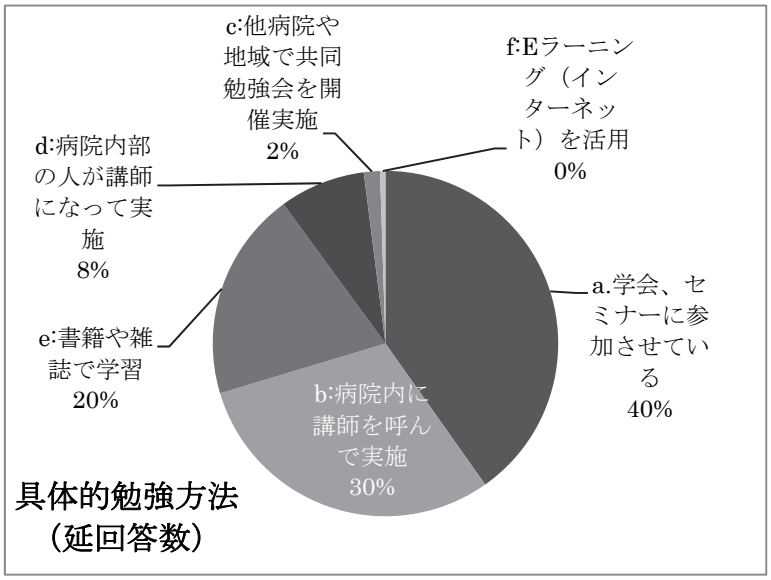
具体的勉強方法	件数
a:学会、セミナーに参加させている b:病院内に講師を呼んで実施	38
a:学会、セミナーに参加させている e:書籍や雑誌で学習	20
a:学会、セミナーに参加させている	14
b:病院内に講師を呼んで実施	9
b:病院内に講師を呼んで実施 e:書籍や雑誌で学習	8
e:書籍や雑誌で学習	6
a:学会、セミナーに参加させている d:病院内部の人が講師になって実施	6

b:病院内に講師を呼んで実施 d:病院内部の人が講師になって実施	4
d:病院内部の人が講師になって実施 e:書籍や雑誌で学習	3
d:病院内部の人が講師になって実施	3
c:他病院や地域で共同勉強会を開催実施 e:書籍や雑誌で学習	1
b:病院内に講師を呼んで実施 c:他病院や地域で共同勉強会を開催実施	1
a:学会、セミナーに参加させている f:E ラーニング（インターネット）を活用	1
a:学会、セミナーに参加させている c:他病院や地域で共同勉強会を開催実施	1
合計	115



（３）－２　具体的勉強方法（延回答数）

具体的勉強方法（延件数）	件数
a.学会、セミナーに参加させている	80
b:病院内に講師を呼んで実施	60
e:書籍や雑誌で学習	39
d:病院内部の人が講師になって実施	16
c:他病院や地域で共同勉強会を開催実施	3
f:E ラーニング（インターネット）を活用	1
合計	199

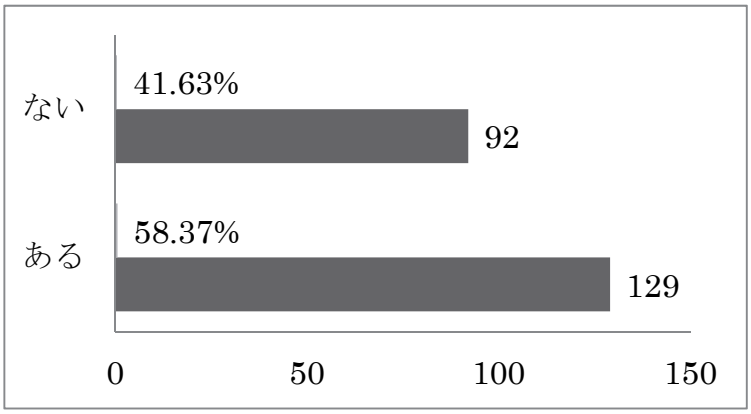


7）動物関連教育機関以外からの人材採用

（1）－1　動物関連教育機関以外からの人材採用することがある

養成校以外からの人材採用することがある

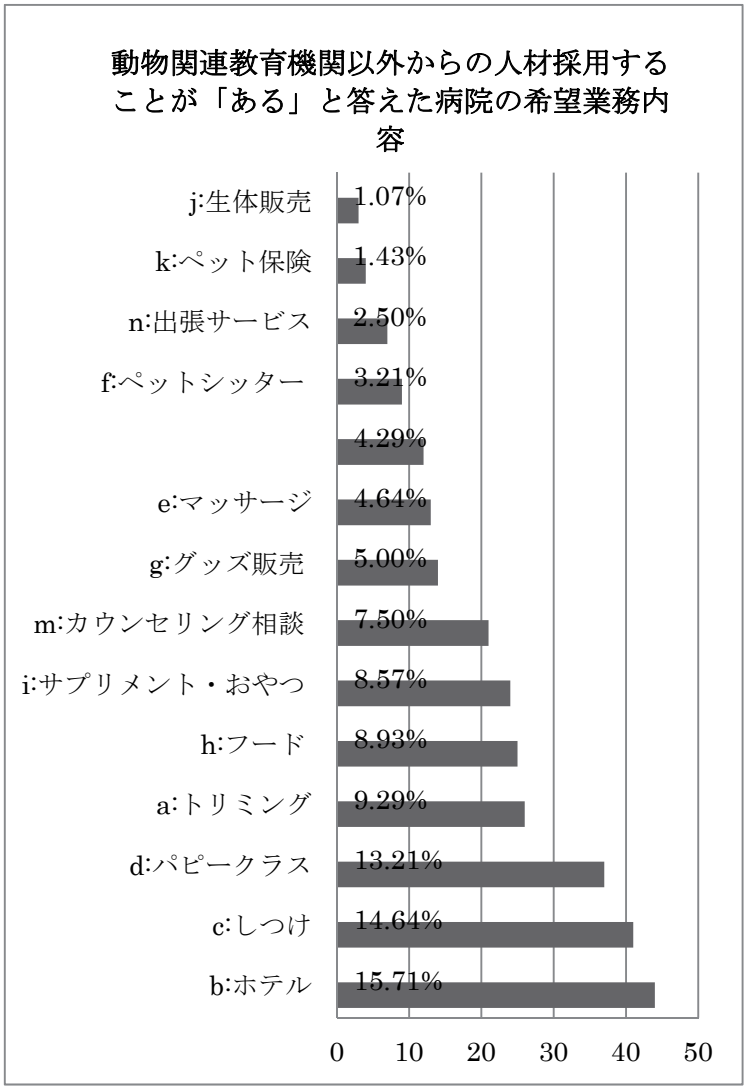
ある	129	58.37%
ない	92	41.63%
	221	100%



（1）－2　動物関連教育機関以外からの人材採用することが「ある」と答えた病院の希望業務内容

動物関連教育機関以外からの人材採用することが「ある」と答えた病院の希望業務内容

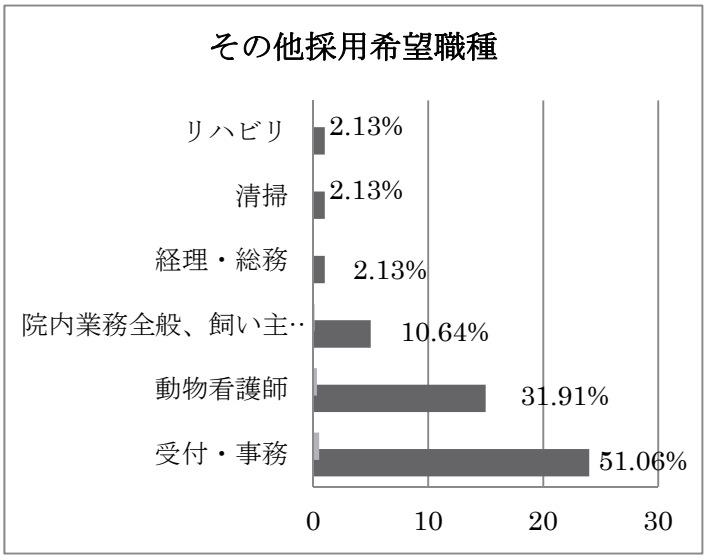
業務内容	件数	比率
b:ホテル	44	15.71%
c:しつけ	41	14.64%
d:パピークラス	37	13.21%
a:トリミング	26	9.29%
h:フード	25	8.93%
i:サプリメント・おやつ	24	8.57%
m:カウンセリング相談	21	7.50%
g:グッズ販売	14	5.00%
e:マッサージ	13	4.64%
l:シニアケアグッズ販売紹介	12	4.29%
f:ペットシッター	9	3.21%
n:出張サービス	7	2.50%
k:ペット保険	4	1.43%
j:生体販売	3	1.07%
合計	280	



（１）－３　その他採用希望職種

その他採用希望職種

業務内容	件数	比率
受付・事務	24	51.06%
動物看護師	15	31.91%
院内業務全般、飼い主対応	5	10.64%
経理・総務	1	2.13%
清掃	1	2.13%
リハビリ	1	2.13%
合計	47	



（２）動物関連教育機関以外から人材採用することがある理由

動物関連教育機関以外から人材採用することがある理由

(A)動物関連教育機関以外から人材採用がある （幅広い人材採用が可能、専門知識が無くてもいい人材が欲しい・・・）
様々な分野での経験を持ち寄ることで、病院全体としての知識の幅も広がるため。
本当にやる気や向上心があれば学校ではなくても学習できると考えている。
本人の資質を重視している。また、勤務しながらの資格取得も考慮しているため
本人の資質と熱意があれば考える
法務関係のアドバイスを必要とする
幅広い人材を採用したいと考えるため。
幅広い見識の持ち主を希望して
病院の規模が大きくないので、採用する余裕がない
病院で実績を積むことの方が、現場では有能な人材になると考えています
必要な時に募集しても、教育機関からの希望者がいない場合はあきらめなければならないと覚悟している。
必ずしも、そういう教育を受けてきた方のみがいい人材とは思わないから。 勤めてからの教育を強化すればできると思う。
特に必要性を感じない
特に専門的知識も大事であるが、人としての最低限のしつけができていない人間があまりにも多すぎる。教育機関では、まず人としての育成に重点を置いてほしい。
特にはない
同じ教育を受けても会得する知識、技術には個人差が出るため
動物関連教育機関以外の方が、マネジメント能力や、接遇力が高い場合があるから。採用後、当院で研修させ、資格取得をした方が、実践的な人材になりうる。

動物関連教育機関以外にも優秀な人材はいると思われるが、 その人材を育てる余裕がない為。
地方のため、就職希望者が少ないため
知識は無くても、人物の資質によっては、専門学校卒業生よりも有能な人材に育つことがあるため
知識ばかりで、頭でっかちの職員はかえって指導しづらいことがあるから。
知識の共有が難しいため。
地方のため、人材が少ないので。
丁寧な接客が出来、人柄が明るいなどは、動物関連教育の有無とは別と考えるから。
当院で研修すれば全くの素人でもある程度までは育てられる。
動物看護師に十分なレベルがあれば受付や掃除業務専門の人を採用する。
専門学校卒の社会的一般常識のなさ。
スタッフ不足
スタッフの不足分は派遣で柔軟に賄えている。動物関連教育機関出身者である必要はない。
サービス業のレベルをあげるため。 おもてなしをするため。
カウンセラーなど人のケア。
いろいろな考え方の人を採用する機会が出来る
ある程度の共通した知識、常識を持っていたい。
ある一定以上の基本的知識は必須だから。
ある一定以上の学力を有する大学卒業者なら、動物専門学校に行かなくとも十分な知識の学習ができる。 経営、経理、受付など、動物関連以外の学生でも問題はない。
・人材不足であるため。
・人材不足 ・事務などの関連以外の業務を拒否することがあるため。
・受付専門の人材（受付なりの知識や応対の仕方・アドバイス等的確だから。） ・薬品は薬剤師（薬剤師なりの知識や応対の仕方・アドバイス等的確だから。）
・教育機関から一定レベルを超えた者を卒業させてもらえれば、そちらから採用するが、素人と何ら変わらない者が卒業するのであれば、それ以外からの採用もありうる。 ・専門的な知識・技術を得ても現場で法的に使えないのであれば無駄。 ・保定と洗濯しかできない、やらせてもらえない看護師・スタッフなら専門学校をでなくてもなれそう。
・学校卒業者からの応募がない。 ・対応等、他業種での経験を期待して。
・学校を卒業しているだけでは、即戦力にならない。 ・公的な資格制度がないため、資格を持たなくても経験者の方が技術力がある。
動物看護士は国家資格でなはく民間資格であり、専門学校を卒業して基礎的な知識が身についてい

ない。また、基礎知識が身についていないので、自ら勉強して向上しようという事ができない。（過去の事例より） 　医学はつねに進歩し今までの定説が覆されることがあるため、興味をもって日々勉強するひつようがある職業と考えます。いろんな事に興味を持ち、勉強する人材であれば看護学校を出ていなくても成長できると考えます。
今までの経験上技量よりもマナーや常識、考察力や対人折衝能力のほうが大事と考えています。 　私自身もどちらかと言うと不器用でありますが、経験や獣医学雑誌、尊敬する諸先輩方からのアドバイスによって今があると考えております。
院内で教育することで可能な業務もあると思うから
院内での教育で十分対応が可能だから。
一般常識を有していると思われるため
一般常識を持っている人であれば、現状の動物関連専門学校で学ぶ知識以上に現場では即戦力になりえると思うから
一定のやる気や接客能力などで適性ある人であれば、経験や知識は現場で学ぶことは可能であると考えているから
一からの教育が大変だと考えるから。
医療事務や理学療法士など
違う分野の人材を入れる事で、病院全体の『空気感』をリフレッシュするため。
意識レベルの高い人材を雇いたいから。
以前、予備知識のない人を採用したところ、全く不向きだったため
（B）動物関連教育機関からの採用を考えている理由
やる気で何とでもなるとは思うが、現状人材育成のために労力を割けないので、即戦力となる人の採用のみ考えている。
動物関連教育機関を卒業した看護師の方がモチベーションが高いことが多いから。
動物関連の専門学校を卒業して来たスタッフの方が、長続きする。
動物関係の学校を出たというプライドを尊重したい
動物を扱う仕事に対する意識が違うと思う。 知識も完璧とまではいかないまでも、働きながら補充できる範囲だと思う。
素人を医療の現場に置くわけにはいかない。 獣医療は動物の保定が重要で、そうした事を（多分）学んでいる人でないと、本人が大怪我をするリスクがある。回避するには、動物関連教育機関からの人材になってしまう。 「動物が好き」という理由程度で素人に仕事されると、はっきり言って大迷惑である。
少しでも動物と接した人物のほうが理解がスムーズだと思うから。
知識がある人のほうが教えるにしても容易だから
専門的な知識を兼ね備えた上で就職を希望してくれる方がいる以上、一般の方を採用するメリットが無い。

専門知識を必要とするため。
専門知識を学んだ方にしてもらった方が安心
専門知識が必要だと思うので。
初めからしっかりした基礎ができてないと不安だ
獣医療も常に進歩しているので、よほどがんばってもらわないと同じレベルで仕事ができない。教育機関からなら最低限の知識を持っている可能性が高くなるため。
獣医療・動物看護以外の業務で採用を考えていない
私は勤務医です。勤務医の視点からお答えします。 看護師の専門学校を卒業した人材は不足しているわけではないので、 専門的な知識をある程度もった人を雇うのが自然な流れかと思います。
採用に当たり、適切な教育を受けているから
最低限の専門用語を理解してもらっているので。
採用するという意味では、動物を扱う以上、最低限の基礎知識と経験は持っていてもらいたいので。
採用したことがあったが、知識や能力不足から今後は採用しない。
トリマーを動物看護師業務と兼任してもらっている為
ヤマザキ学園さんなどの専門学校（大学）でかなり広範囲な教育をされているから、動物看護師であってもかなりの知識はあると感じています。
やはり飼い主さんに対するサービスが主になるので、専門的な知識を有していた方がいい。
教育機関から人材採用をする方がメリットが大きいと思われるから。 またそうでなければ、教育機関の存在意義が問われることになるとも思う。
業務には専門知識が必要だと思うから。
（C）その他意見
当院の規模では動物病院以外の付帯機能は難しいので人材も必要ありません
採用予定自体がない
そもそも人を雇う予定がない
ゼロから指導する余力がない

８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容

（１）動物病院スタッフに対して希望する教育内容（対象職種と希望教育内容）

動物病院スタッフに対して希望する教育内容

職種	希望教育内容
全般	コミュニケーション力、一般常識力
全員	最低限の社会的常識力をつけさせる
いずれの職種も	最低限の獣医療の知識、人とのコミュニケーション能力は必要
トリマ・看護師・事務職	質の高い接遇力・事務能力・病気の知識・フードアドバイザーとしての知識・犬種別のカットを学ばせる
すべて	常識
スタッフ	接客・マナー・研修・病気の知識
すべてのスタッフ	接客応対
全員	接遇力
全員	接遇力
全般	接遇力は必要なのかなと感じる
全て	動物の基礎的な知識

職種	希望教育内容
獣医師	人柄、積極性
獣医師	卒後教室、専門的教育、コミュニケーション力
獣医師	接客サービス
獣医師	飼い主様の要望を引き出す会話力
獣医師	社会人マナー、リーダー学、経営学

職種	希望教育内容
動物管理担当者等	フードの知識、病気の知識、しつけ、動物飼育の知識、衛生管理、接遇
動物看護師・トリマー	人間としての基礎力アップ
動物看護師（受付兼ねる）	知識、社交性、性格向上
看護師	与えられた仕事の正確性、積極性
VT	保定等の実技、患者さんとのコミュニケーションに必要な知識
看護師	保定
看護師	病気の知識ならびにフードの説明力、受付等での接遇力アップ

看護師	病気の知識、看護知識、麻酔管理、しつけ、リハビリ、接遇、栄養学
看護師	入院看護、手術助手
動物看護師	特別療法食、一般職等のアドバイザーとしての知識
看護師	動物の保定力アップ
看護士	全て
看護師	接遇力の要請と、さらに実地での経験時間をもっと増やし、即戦力を養成してほしい
動物看護師	接遇力の幅、様々なシチュエーションへの対応力
看護師	接遇力、病気の知識を法を学ばせたい
動物看護師	接遇力、病気の知識、技術、倫理観
動物看護士	接遇力、病気の知識
動物看護士	接遇力、病気の知識
動物看護師	接遇力、病気の知識
動物看護師	接遇力、病気の知識
看護師	接遇力、病気とフードを関連させた知識、問題行動
動物看護士	接遇力、病気とその治療についての知識、器具の扱い方、検査法
動物看護師	接遇力、犬猫の取り扱い
看護士	接遇力、検査力
動物看護士	接遇力、より高度な検査の知識　状況の判断力
看護師	接遇力、しつけ相談、飼育相談
動物看護師	接遇力，専門知識，看護過程
動物看護師	接遇力（電話対応）、実践力
動物看護師	接遇力　礼節　動物全般の知識　考える力
看護師	接遇力
動物看護士兼受付	接遇力
動物看護師	接遇力
動物看護士	接遇、病気・予防の知識、動物の保定、しつけを学ばせたい。
看護師	接遇、フード、病気の知識の知識をもっと深く学ばせたい
動物看護師	接遇、トリミング、ドック・キャットトレーニング、販売力
看護師	接遇、しつけ指導
看護師	接客力、病気の知識
看護師	接客力
動物看護士	接客業務のスキル、知識の up date
動物看護士	接客技術や病気の治療知識を継続教育したい
VT	接客・健康管理の基礎知識の見直し・衛生管理
動物看護士	接客、話術、一般常識
動物看護師	人の看護師のような病気の専門知識

看護師	診療補助技術の向上、接遇技術の向上
動物看護師	食事関連の勉強など他のものの習得
動物看護師	獣医学的知識、コミュニケーション力、接遇力
動物看護師	獣医学全般（特に病気について）、看護方針、検査手技
看護師	獣医学の基礎知識
動物看護師	受付等の接遇力
動物看護師	社会人マナー
看護師	社会人としての視野
動物看護師	社会常識/接遇など
看護師	疾病に対する知識、接客力
動物看護士	基礎一般
動物看護師	看護師参加可能なセミナーの参加
動物看護師	各種分野でのセミナー参加
動物看護士	栄養、しつけ、社会福祉（動物が人に与える貢献など）
動物看護師	一般的なマナーや接客等
動物看護師	医療の知識はもちろん、飼い主とのコミュニケーション能力
動物看護師	より専門性の高い知識と技術の習得
AHT	より深い知識
動物看護師	フードの知識を増やして説明に幅を持たせたい
動物看護師	フードの知識、コミュニケーション力、保定の技術
動物看護師	バイタルサイン、病気の知識、保定
看護	スタッフ間の関係を構築する能力　接遇力
VT	しつけの継続教育
看護師	しつけ
動物看護師	しつけ
動物看護士	コミュニケーション・接遇研修、病気の知識、受付業務
職種	**希望教育内容**
生体販売	病気の知識(先天性疾患)
職種	**希望教育内容**
理学療法士	病気の知識、リハビリ、理学療法の知識
職種	**希望教育内容**
カウンセリング	知識だけでなく、ペットオーナーの立場をよく考え、一緒に結論を探す根気

職種	希望教育内容
受付	コミュニケーション能力
受付・スタッフ	フードの知識を増やして説明に幅を持たせたい
受付	効果のあるポップ作成法　接遇技術　病気の知識
受付	最初のトリアージ、接遇力、電話の応対方法
受付	獣医学的知識、接遇力
受付　看護師	接遇
受付	接遇能力の向上
受付	接遇力
受付	接遇力、病気の知識、簿記
受付	接遇力のアップ
受付	他の接客サービス業の経験
受付	電話・クレーム対応法
受付事務	病気の知識、しつけ、接遇、

職種	希望教育内容
ホテル	病気の知識
ホテル	動物の正しいケアについて

職種	希望教育内容
ペットショップ店員	まともな小児科・栄養学程度は身につけてくれ。ペットショップの犬猫はほぼ全員栄養失調
フード、サプリメント、オヤツ販売業	正しい知識を持って、良い点悪い点を購入者に伝えれるよう学ばせたい
フード	栄養学

職種	希望教育内容
シニアグッズ	シニアライフの手助けをすることに必要なグッズや使用法の正しい認識

職種	希望教育内容
トリマー	エステ、接遇
トリマー	カットの講習会、
トリマー	カット技術、接遇力
トリマー	カット技術、動物の制御法
トリマー	カット技術の向上
トリマー	カット時間の短縮並びに技術力の向上

トリマー	カット等の技術力向上、接遇力
トリマー	カット法
トリマー	コミュニケーション・接遇研修、病気の知識、カット技術向上
トリマー	スキルアップ
トリマー	スピードトリミング
トリマー	バイタルサイン、病気の知識、保定、カット法
トリマー	ハンドリングテクニック、責任感
トリマー	技術のレベルアップ
トリマー	技術の向上
トリマー	技術の向上
トリマー	犬種別のカット法、病気(皮膚や循環器等)の知識に関して
トリマー	効率的なカット手法、接遇、フードの知識、病気の知識、衛生管理
トリマー	最先端のカット技術を学ばせたい
トリマー	耳・皮膚に対する観察力
トリマ・看護師・事務職	質の高い接遇力・事務能力・病気の知識・フードアドバイザーとしての知識・犬種別のカットを学ばせる
トリマー	実践力、コミュニケーション力（対オーナー・スタッフ）
トリマー	獣医療全般、接遇、販売力、ドック・キャットトレーニング
トリマー	新しいカット、デザインの習得
トリマー	人柄、ミスの少ない技量
トリマー、看護師	接客、対応について
トリマー	接客対応力、病気の知識
トリマー	接客力、トリミング技術
トリマー	接遇　病気の知識
トリマー	接遇、マナー
トリマー	接遇、皮膚病の知識、カット法
トリマー	接遇、病気の知識、セミナーなどでの知識・技術のアップデート
トリマー	接遇技術　病気の知識　薬の知識　フードの知識　トリミング経営
ﾄﾘﾏｰ	接遇力
トリマー	接遇力
トリマー	接遇力　礼節　サービスに付帯する病気の知識　カット技術
トリマー	接遇力、カットの技量、動物病院のスタッフであることの自覚
トリマー	接遇力、トリミング時に外見から発見できる病気の知識
トリマー兼看護師	接遇力、対人関係について、コミュニケーション能力、時代に合わせたトリミング技術
トリマー	接遇力、病気の知識
トリマー	接遇力、病気の知識、犬種別のカット法

トリマー	接遇力、病気の知識、犬種別のカット法を学ばせたい
トリマー	接遇力、病気の知識、犬種別のカット法を学ばせたい
トリマー	接遇力、病気の知識、犬種別のカット法を学ばせたい
トリマー	接遇力、病気の知識、犬種別のカット法を学ばせたい
トリマー	接遇力、病気の知識、最新のカットを学んで欲しい
トリマー	接遇力、病気の知識、猫のシャンプー、カット
トリマー	接待力。トラブル対処
トリマー	先輩から後輩への技術の継承
トリマー	多くの犬カットの経験を積ませること
トリミング担当	大型犬（S プードルなど）のカット技術
トリマー	日々の悩みなどを解決できるセミナーなど
トリマー	皮膚科の知識、カットセミナー
トリマー	皮膚科学などの医療的な知識
トリマー	皮膚疾患、皮膚ケアー、健康管理
トリマー	病気の知識
トリマー	病気の知識
トリマー	病気の知識
トリマー	病気の知識
トリマー	病気の知識（とくに皮膚病、感染症）、薬用シャンプーの知識
トリマー	問診力と病気に関する知識

職種	希望教育内容
ﾊﾟﾋﾟｰクラス	若齢動物の知識、説明能力の向上
パピークラス	子犬とのかかわり方、問題行動への対処法を学ばせたい
パピークラス	犬猫の行動学の知識
パピークラス	接遇力
しつけ	しっかりとしたしつけの指導、
しつけ	ヒトの心理学
しつけ	一般知識、親切な応対、ほう、れん、そうの徹底など。
しつけ	犬の行動学、適正な飼育を学ばせたい
しつけ、パピーパーティー	子犬の生態学、飼い主さんの気持ちを知る
しつけ、パピークラス	飼い主にわかりやすく教えるコミュニケーション力を身につけさせたい
しつけ、パピー	疾患に関する知識を広げてもらいたい。コミュニケーション能力の向上
しつけ担当	若齢動物のケア、認知症動物のケア

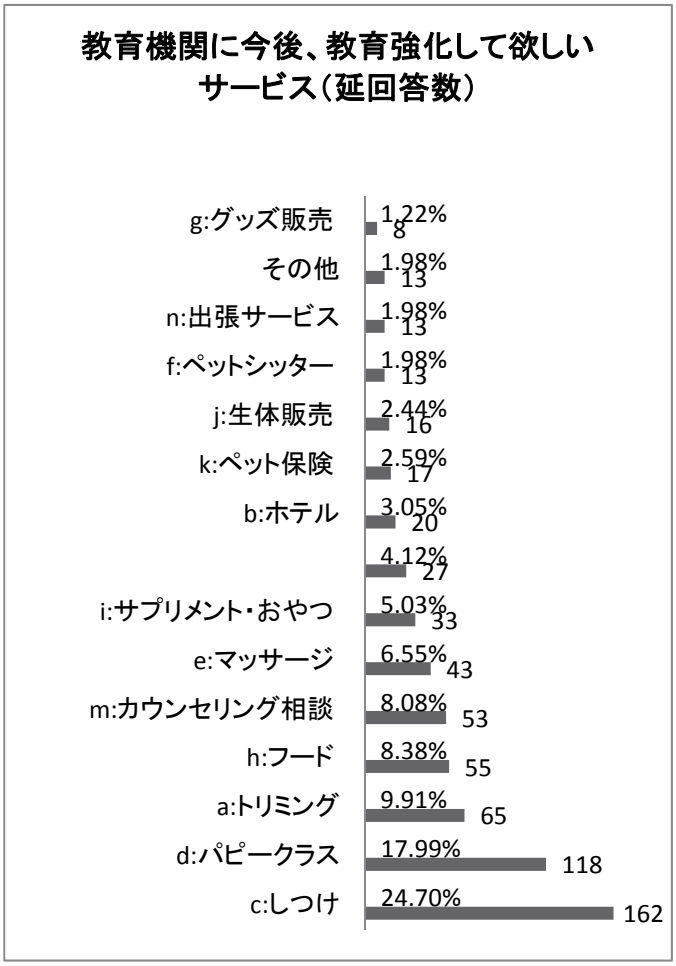
ドックトレーナー	獣医療全般、接遇、キャットトレーニング、販売力
訓練士、しつけ	接遇力、犬種別だけでなく、飼い主の性格別に対応したしつけ方法
トレーナー	病気の知識
しつけ	病気の知識、犬種全般の知識
しつけ	問題行動学

9）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス

（1）－1　教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス

教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス（延回答数）

業務内容	件数	比率
c:しつけ	162	24.70%
d:パピークラス	118	17.99%
a:トリミング	65	9.91%
h:フード	55	8.38%
m:カウンセリング相談	53	8.08%
e:マッサージ	43	6.55%
i:サプリメント・おやつ	33	5.03%
l:シニアケアグッズ販売紹介	27	4.12%
b:ホテル	20	3.05%
k:ペット保険	17	2.59%
j:生体販売	16	2.44%
f:ペットシッター	13	1.98%
n:出張サービス	13	1.98%
その他	13	1.98%
g:グッズ販売	8	1.22%
合計	656	



（１）－２　教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス（上位1位～5位重複しての希望）

教育強化して欲しいサービス （上位1位～5位重複して希望）

業務内容	件数	
c:しつけ	162	上位 1 位
c:しつけ d:パピークラス	106	上位 2 位
a:トリミング c:しつけ d:パピークラス	28	上位 3 位
a:トリミング c:しつけ d:パピークラス h:フード	14	上位 4 位
a:トリミング c:しつけ d:パピークラス h:フード m:カウンセリング相談	8	上位 5 位

（１）－３　教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス（その他の希望）

教育強化して欲しいサービス　（その他の希望） 13 件中

業務内容	件数
特に希望なし	5
接遇・応対	5
トリマーのしつけ	1
シニアケア	1
保定技術	1

10）動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見

動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見
動物看護師については、公的資格や 4 年制大学卒業など知識は豊富になる傾向があるが、接遇力や一般常識という面ではむしろ低下する傾向にあるように思う。
専門学校で学んで来ていただいた方は、確かに優秀ではありますが、実際の現場に立っていただいた時に、勉強してきたこと以外（掃除、洗濯など）のごくごく基本的な作業ができない方が非常に多く、こちらとしても当惑します。インターン制度として一定期間いくつかの病院を回って、集中的に経験を積むなどのカリキュラムも必要なのではないかと思います。
新卒獣医師や看護師も含め、近頃他者とのコミュニケーション能力が著しく欠けている人が多いと感じる。 また、想像力も欠けているのか、自分の行動や言動が他者に対してどのような反応を生むのか？、全く考慮もせずにいる人も多く感じます。 ただしこれらは、大学や専門学校以前の、小中学校での教育が欠けているのだと思いますが。
現在の状況に満足しています。
看護師も自分を売りに出来るスキルを持つ事を望みます。例えば、ドッグマッサージをはじめとするリハビリ関連など。

コメント編

2.3　調査結果について（つづき）

A. アンケート実施方法（調査方法）

今回の調査では、全国 47 都道府県の動物病院の主に院長に対し、274 件に動物病院での付帯サービスの実態についての調査依頼し、全国 40 都道府県 221 件から回答を得た（回答率 80.66%）。

回答方式は、インターネットによる配信（184 件）と、アンケート用紙による調査（37 件）の 2 種類の調査により行った。

B. アンケート調査回答者プロフィール

（1）回答者（動物病院院長または準じるもの）

210 名の内訳は、男女比は 88%が男性、12%が女性から調査

（2）年齢

回答者の平均年齢は 41.39 歳

（3）　地域分布

40 都道府県の動物病院から回答。

地域別には、北海道（4.52%）、東北（4.52%）、関東/甲信越（42.99%）、東海/北陸（11.76%）、近畿（18.10%）、中国/四国（9.95%）、九州/沖縄（8.14%）の 7 エリアで調査

（4）　回答者：獣医師職務

95%が院長、残りは院長に準じる方から調査

（5）開業年数

221 名の平均開業年数は、8.36 年で、最大値 43 年、最小値 1 年未満

（6）動物病院スタッフ数（212 病院）

回答いただいた 221 病院の平均スタッフ数は、獣医師数：2.02 名、獣医師以外のスタッフ数：3.55 名、スタッフ合計数：5.57 名であった。

（７）動物病院のスタッフ構成

獣医師以外のスタッフ平均数（動物看護師、その他スタッフ）は、動物看護師：2.47 名、その他スタッフ：1.08 名、獣医師以外のスタッフ合計 3.55 名であった。また、職種別のスタッフ数は、獣医師数 2.02 名。

回答病院の動物看護師の経験年数は、平均 1.52 年。同じくスタッフの経験年数 （動物看護師/獣医師以外)は、0.97 年であった。

（８）職員(スタッフ)の社会保険への加入実態

回答病院における職員(スタッフ)の社会保険への加入率は、全員加入が 35.62%、一部加入の 8.68%を合わせても 44.3%で、未加入（55.71%）の動物病院がまだ多いことが示された。

また地域別にみると、図表の通り、特に未加入率が平均値を下回る関東/甲信越地域と近畿の大都市部であるのに対し、他の地域（地方）の病院の方が未加入率が高いことがわかる。
詳細には調査が必要になるが、雇用形態が勤続年数や労働環境への影響も考えられる。

（９）正規職員／非正規職員の比率

動物看護師（86.51%）に比べ、その他スタッフ(獣医師を除く)の正規職員の割合が 71.70%と低くなっている。これは動物看護師に比べ、常勤形態での雇用でない場合も含まれているものと思われる。

（１０）学歴

学歴に関しては、専門学校卒が 62.93%と他に比べ圧倒的に多くなっている。ただし、動物関連職の養成機関は、専門学校とともにフリースクールも数多くあり出身者も多いことから、一般に専門学校とフリースクールを混同して理解していると思われる。

（１１）獣医療/動物看護業務以外の収入割合

動物病院における獣医療/動物看護業務以外の収入割合は、平均 5.85%であった。最大値 50%、最小値 0%となり、表でも示すとおり、実際には 44.55%が収入割合が 0%（なし）での回答であり、今後の動物病院経営・運営次第では収入を伸ばす要素になるとも考えられる。

（１２）獣医療／獣医療以外のサービスに占める床面積

獣医療／獣医療以外のサービスに占める床面積は、経営規模にもよるが、農水省などの調査からも全国の動物病院では 1 人から 2 人の動物病院が多いことからも最大値、最小値にバラつきが見られたと考えられる。獣医療以外のサービスに占める面積が 30%を超える動物病院は、ペットショップに併設型のものであった。

C.アンケート実施内容

・アンケート用紙を用いた調査回答用紙見本

今回の調査では、動物病院での獣医療以外のサービスに関する意識･実態調査として、各質問項目を作成。特に「人材」、「資格」、「具体的サービス項目」、「教育」、「今後の展開」をテーマに調査を実施した。

１） 動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて

動物看護師の統一認定資格化、公的資格化が動いている一方で、それ以外の職種・各分野における資格・ライセンスの状況、動物病院勤務者における保有状況を調査。また、資格が問われると考える職種・サービスとその理由を調査した。

（1）トリミング分野

トリミング分野では、JKC（一般社団法人ジャパンケネルクラブ）の資格制度がその他の資格保有者に比べ多かった一方で、多くが各専門学校等の養成機関単位、または団体で資格を出しているが現状であった。

（2）しつけトレーニング分野

しつけトレーニング分野では、トリミング分野と同様、教育機関独自で発行された資格を保有することが多い模様。また、卒業後に各団体・協会主催の資格を取得する者もいるとのこと。この分野に関しては、経営側の獣医師自身の知識にもかなりバラつきがあると思われる。

（3）その他の分野に関する資格保有

その他の分野に関しては、日本愛玩動物協会／日本愛玩動物飼養管理士の所有者が多い。また、その他、ヒト分野の看護師、栄養士資格保有者や各種団体で発行のキャットグルーマー、ビジネス検定、T タッチ（マッサージ)、ハンドラ―などの保有がみられた。

（4）資格が問われると思うサービス

動物病院経営・運営者からみた「資格が問われると思うサービス」については、10%を超える割合で、1 位：しつけ、2 位：トリミング、3 位パピークラス、以下 4 位カウンセリング、5 位マッサージなどとなり、他に直接動物または飼い主に対し接する業務に関して、特に資格が問われると考えることが分かった。

（５）、（６）資格が問われる理由（延回答数）/（個別回答数）

資格が問われる理由に関しては、「a:社会的に一定レベルの知識、または技術が必要と考えるから」が 76.63%と過半数を超える結果となった。また、公的に認められている資格がない（17.62%）ことからのニーズも資格の必要性を問う理由として 15%を超えた。

（７）その他の理由　（資格が問われる理由）

動物の命を扱う職種であり、また責任がある仕事であること、人により偏った知識、誤った知識・技術の提供を避けるべきことなど標準化、統一性を持った資格が求められていることがわかる。きちんとしている人への報酬を確保するためにも資格・教育が必要との意見などであった。

２） 動物物病院における付帯サービスの貢献度評価

（１）動物病院における付帯サービスの貢献度評価

実際にすでに動物病院で行われている獣医療以外の「各種付帯サービスについての動物病院への貢献度」を評価する順に 5～１の 5 段階で評価をつけていただいた。現状実施されている付帯サービスでは、1 位「ホテル（2.46)」、2 位「フード販売※（2.33)」、3 位「サプリメント・おやつ販売※（2.11)」、と全体では貢献を評価しており、次いで 4 位「トリミング（1.76)」、5 位「ペット保険」となった。これは、「経営面、飼い主様へのサービス面」の両面にとってプラスになっていることを反映しているものと思われる。

※処方を必要としないもの

３）動物病院における付帯サービスの満足度評価

（１）動物病院における付帯サービスの満足度評価

２）の付帯サービスに対する貢献度評価に対し、実際の経営者側（運営者側）としての満足度に対する評価を聞いたところ、1 位「トリミング（3.76)」、2 位「ホテル（3.45)」、3 位「パピークラス」と「ペット保険」が 3.36 と比較的評価が高いのに対し、3 を下回る評価のサービスには、「マッサージ」、「ペットシッター」、「グッズ販売」、「サプリメント・おやつ販売※」、「シニアケア」、「カウンセリング」が見られた。「ホテル」、「トリミング」に関しては、貢献度とともに満足度でも評価が高いことがわかる。これは、比較的動物病院でも導入件数が多く、これらを運営するスタッフ対しても評価をしている表れと思われる。

４）今後展開したい付帯サービス

（１）－１　今後展開したい付帯サービス

前出の２)、３）の動物病院で実施している付帯サービスの「貢献度」、「満足度」を踏まえて、「今後展開したいと思う付帯サービス」について調査した。

今後展開したい付帯サービスがその他「特になし(現状のまま)」が 11 件(2.46%)みられるが、今回の調査では、院長先生方が今後展開したい付帯サービスとして強く思っておるものが、1 位「しつけ（21.21%,95 件)」、2 位「パピークラス（19.42%,87 件)」と非常に高く、次いで 3 位「トリミング（13.39%,60 件)」、さらに 30 件以上の希望があったものでは、4 位「カウンセリング（8.71%,39 件)」、5 位「シニアケア（7.14%,32 件)」と次いで希望が高く見られた。
これらのことからも動物病院での現状実施している付帯サービスと今後展開していきたいサービスに明らかに違いがあり、特に 1 位「しつけ」、2 位「パピークラス」、3 位「トリミング」サービスに関しては、経営面、飼い主へのサービス面としての価値を感じていながらもさらに貢献していくサービスとして認識しているのが見える。しつけ、パピークラスのサービス実施が求められていることは、現状の動物病院での人材面、教育面での不足が理由ではないかと思われる。

（１）－２　今後展開していきたいその他サービス

その他の展開希望サービスとして、「シャンプー」、「老犬介護/シニアケア」、「飼育前啓蒙」などが見られた。

５）看護の知識が必要なサービス

（１）動物看護の知識が必要なサービス

各種付帯サービスにおいて看護の知識が必要なものについては､1 位｢しつけ(11.68%,182 件)｣、2 位「パピークラス（10.72%,167 件）」、3 位「トリミング（9.18%,143 件）」となり、前出４）で実施の今後、展開したい付帯サービス」と傾向が一致した。これは、4 位の「ホテル」、5 位の「カウンセリング」も含め、
動物病院で実施するサービスしてより飼い主への安全・安心感を与えるためにもより看護の要素についても必要性を感じているものと思われる。獣医師としての立場からも、動物病院で働く人材に対し、より看護に関する知識の必要性を感じていることもあると思われる。

（２）その他

接客対応、リハビリ、付帯サービスにおいては、知識は有用だが必要と思わないなどの意見が見られた

６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無

（１）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無

動物病院内での付帯サービスに関しての教育の実施の有無については、実施している（52.49%,116 件）が実施していない（47.51%,105 件）を４%程度上回っていた。
過半数とはいえ、50%超程度の動物病院でしか院内教育が行われていないという実態が見えてきたことに、現状の人材・技術・知識の継続的な向上機会の不足など問題点・課題点が見えてくる。
一般には、本来、専門分野の知識・技術は入社勤務してから OJT（On Job Training）で向上・指導を図っていくということを考えるが、この動物病院での付帯サービスという点では、実態が乖離している可能性が考えられる。「しつけ」や「トリミング」サービス等に関しては獣医師にとっては、指導教育に関しては専門的な知識技術が本業の範疇の外にあることが多いという事を示しているとも考えられる。

しかし、今回の調査では、動物看護師や獣医師への院内教育については調査実施していないので、比較はできないが今後の教育強化によっては経営面、飼い主へのサービス面において有用となる可能性が大いにあるとも考えられる。

（２）院内教育実施回数

院内教育の実施回数については、不定期実施のところが 65.52%（76 件）と多く、一方で毎月実施している病院は 8.62%（10 件）と少ない現状。

（２）－１、－２　具体的勉強方法

実施している病院の具体的勉強方法では、1 位「学会/セミナー参加（40%）」、2 位「講師の招聘（30%）」、3 位「書籍や雑誌での学習（20%）」と上位を占めた。前出の院内教育実施回数とも併せて考えると、これら勉強の回数、定期実施、教育勉強内容を向上することが、今後の動物病院の飼い主へのサービス向上、経営面での貢献に寄与する可能性を探れる。

７）動物関連教育機関以外からの人材採用

（１）－１　動物関連教育機関以外からの人材採用することがある

付帯サービスの実施等にあたり、「養成校以外から人材採用することがある」かの質問では、「ある」が 58.37%（129 件）、「ない」が 41.63%（92 件）となった。動物看護師以外の職種・サービスでは、過半数の動物病院で人材確保に当たって現状では動物関連教育機関以外からの採用も考えていることが分かった。求める人材と輩出される人材との差異を感じていることも要因の一つと考えられる。

（１）－２　動物関連教育機関以外からの人材採用することが「ある」と答えた病院の希望業務内容

実際に動物関連教育機関以外からの人材採用するサービスとしては、1 位「ホテル（15.71%）」、2 位「しつけ（14.64%）」、3 位「パピークラス（13.21%）」となった。ホテルに関しては、飼い主との対応などもあり、動物関連教育機関以外も考えられるが、2 位のしつけ、3 位のパピークラスに関しては、教育機関卒業したての者を直移採用するよりも、経験・知識があるしつけ・パピークラスを専門としている機関、人材を活用していることが多いとのことも口頭調査で見えてきた。

（１）－３　その他採用希望職種

その他の採用希望職種として、「受付・事務（51.06%）」、「院内業務全般、飼い主対応（10.64%）」、「経理・総務（2.13%）」と 3 つの合計で 61.83%（30 件/47 件中）となっており、飼い主対応などの獣医療関連業務以外の飼い主対応や接客、事務、総務、経理にはより適した人材の確保を望んでいることが分かってきた。

その他採用希望職種のうち、動物看護師（31.91%、15 件）が多いことに関しては、（１）－１にも共通するが、より経験値の高い動物看護師経験者を中心に人材採用をしている病院での傾向が口頭調査で見えてきた。

（２）動物関連教育機関以外から人材採用することがある理由

動物関連教育機関以外から人材採用することがある理由として意見をいただいたものは大きく 3 つに分類できた。

(A) 動物関連教育機関以外から人材採用がある　（幅広い人材採用が可能、専門知識が無くてもいい人材が欲しい・・・）

(B) 動物関連教育機関からの採用を考えている理由

(C) その他意見

(A) では、幅広い人材を採用したい。人材不足。動物関連教育機関から募集しても来ない。サービス業としてのレベルを上げる。役割に応じた人材採用ができる。など動物関連教育機関以

外からの採用理由がみられ、現状の専門分野の教育とともにそれ以外でのサービス、接客に対する教育に対して、また人物に対しても採用基準として見てきていることがわかる。

(B) では、いろいろな人材採用の検討余地もある一方で、専門知識の重要性とともに病院内での教育にかける物理的余裕が少ないのも垣間見えた。

(C) では、採用予定がないなどの意見があった。

ここで出された動物病院からの要望は、動物病院の経営とサービスの充実、運営をするためのよりより人材確保に対しての思いが強く伺われる。一方で、現状のスタッフ、専門教育機関に対する人材育成・努力・姿勢などに対する不満の部分と今後への期待も含め、強い投げかけと要望が見えてきた。

８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容

（１）動物病院スタッフに対して希望する教育内容　（対象職種と希望教育内容）

動物病院を経営・運営する院長からみた「スタッフに対して希望する教育内容」を職種別に分類してみると、以下の 12 職種・サービスに分かれた。

①スタッフ全てに、②獣医師、③動物看護師、④生体販売スタッフ、⑤理学療法士
⑥カウンセリングスタッフ、⑦受付、⑧ホテルスタッフ、⑨フードサプリメントおやつ販売、ペットショップ、⑩シニアグッズ販売担当、⑪トリマー、⑫しつけ、パピークラス担当

①スタッフ全てに

動物病院のすべてのスタッフに共有・共通して学ばせたい教育内容として、「接客・接遇力、社会常識力、コミュニケーション力」が挙げられた。これは、社会人として必要なことのほか、接客・サービス業としての認識の強さがうかがえる。

②獣医師

獣医師（主に勤務医）に対しても①と同様コミュニケーション力とともに、積極性、リーダー学、経営学、会話力など飼い主とだけでなくスタッフ人材との交流場面も想定しているものと思われる。専門知識に関しては、むしろ自主的な学習を期待しているものと思われる。

③動物看護師

動物看護師についても接遇力は多くの病院で共通しているが、その他に病気や予防、フードに関する知識、動物看護技術・保定などの技術の向上、しつけなどの学習をさせたいと多くの病院で求めている。

④生体販売スタッフ

先天性異常などの病気の専門知識の習得、学習

⑤理学療法士

病気の知識、リハビリ・理学療法などの専門知識の習得、学習

⑥カウンセリングスタッフ

専門的知識はもちろん、ペットオーナーの立場を考え、一緒に考える根気を持つなど動物病院での業務・サービスの中でもより高い意識と学習の期待が感じられる。

⑦受付

やはり同様に、共通する接遇力のほか電話・クレームへの応対など高いレベルで求めていることがわかる。

⑧ホテルスタッフ

動物の正しい取り扱い、ケアのほか病気の知識などを常に学ぶことで動物を預かるスタッフとしてより高いレベルを持つことで飼い主への安心感につながるものと思われる。

⑨フード・サプリメント・おやつ販売、ペットショップ

子犬や栄養学について正しい知識をつけることで飼い主や購入者に適切な知識が伝えることができる。ペットショップのスタッフには、もっと正しい知識を得て欲しいという強い危機感も感じられる。

⑩シニアグッズ販売担当

シニア特有の知識やシニア関連グッズの正しい知識・使用法が必要と考えている。

⑪トリマー

いずれにも共通する飼い主との接遇・接客応対が求められている。また、専門的な技術に対しては、積極的なカット技術の学習・スキルアップであるカット方法の向上、時代にあったカットデザインを動物病院で求めるようになっている現状を経営者の院長自身も強く感じていることがうかがえる。また、その他動物病院でのトリマーだからこそより求められる病気の知識、皮膚疾患の知識バイタルサインの取り方を学ばせたいと希望を持つのも、今後の教育機関における教育、就職勤務後の継続教育など動物病院でのトリミングの今後の位置づけと将来性を垣

間見ることができる。

「トリミングサービス」は、前出した現状実施している付帯サービスに対しての「貢献度」で４位、「満足度」で１位、「今後展開したい付帯サービス」でも３位と上位に位置することからも動物病院での経営、飼い主へのサービス向上、来院促進などへの貢献が期待されるサービスであると考えられる。

⑫しつけ、パピークラス担当

しつけ・トレーニング、パピークラス担当者に対しては、直接飼い主と長く接するという意味からも飼い主への対応力・コミュニケーション力、わかりやすく伝える能力などを学習していって欲しい希望がうかがえる。また、しつけ・行動学・問題行動学・子犬など若齢動物に関する生態学などに関しても学習・教育を希望していることからも、獣医大等での獣医師教育の中でも十分な学習機会、実践機会が少ない現状からも特に強く学習機会を持ってほしいという思いの強さがうかがえる。

「しつけ・パピークラスのサービス」も前出した現状実施している付帯サービスに対しても「貢献度」では、5 位以下（いずれも 1 以下 : しつけ:0.89、パピークラス : 0.6）であるものの、「満足度」でパピークラスが 3 位（3.36）、しつけが 5 位（3.2）と上位につけており、さらに「今後展開したい付帯サービス」では「しつけ」が 1 位、「パピークラス」が 2 位となっており、これらの「しつけ・トレーニング・行動分野に関連するサービス」に対しても、他のサービスよりも非常に高い要望があることからも上記のトリミングサービスと同様に、動物病院での今後の経営、飼い主へのサービス向上、本業である獣医療以外での来院機会・リピーターの獲得、来院促進などへの貢献が期待される重要な位置づけのサービスでもあると考えられる。

９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス

（1）－１　教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス

教育機関に求める教育強化して欲しいサービスでは、前出の２）、３）、４）、８）からの結果と同様に「しつけ」が 1 位（24.70%,162 件）、「パピークラス」が 2 位（17.99%,118 件）となり、3 位の「トリミング（9.91%,65 件）」サービスの約 2 倍となった。

3 位トリミング（9.91%,65 件）、4 位フード（8.38%,55 件）、5 位カウンセリング（）

今回の結果に示された「しつけ」、「パピークラス」の教育強化の希望が強く示されたことは、これらの付帯サービスを強化していくことが動物病院経営・運営にとって、また動物・飼い主にとっても適切な飼育環境を享受できやすくなるなど今後に期待できる有用な付帯サービスとして認識してきていることを意味すると思われる。

（１）－２　教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス
（上位１位～５位重複しての希望）

上位 5 位までを重複して希望する動物病院は、1 位（しつけ）は 162 件、1 位（しつけ）と 2 位（パピークラス）の 2 つ希望は 106 件、3 位（トリミング）の 3 つでは、29 件、4 位（フード）の 4 つ重複希望病院は 14 件、1 位から 5 位（カウンセリング相談）の 5 つ重複希望は、8 件だった。

（１）－３　教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス（その他の希望）

その他、教育機関に希望する教育では、特にないが 5 件、接遇が同じく 5 件、トリマーのしつけ、シニアケア、保定技術がそれぞれ 1 件であった。

10）動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見

自由意見では、動物病院経営者・運営者が回答者であることからも動物看護師も含めた意見となっている。

特にコミュニケーション能力の欠如や、接遇力、一般常識力の不足や低下について危惧していることがうかがえる。これは動物専門教育機関だけではないことだが、今後の全体の問題、課題として捉える必要があると思われる。

2.4　まとめと考察

（関連職域調査研究 WG：調査項目）

１）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて
２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価
３）動物病院における付帯サービスの満足度評価
４）今後展開したい付帯サービス
５）動物看護の知識が必要なサービス
６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無
７）養成校以外からの人材採用
８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容
９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス
10）動物病院から付帯サービススタッフに対しての要望・自由意見

（1）まとめと考察

今回、平成２５年度文部科学省委託事業「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」“獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業”関連職域調査研究 WG の調査として「動物病院でのサービスが獣医療だけでなく、関連する各種サービスも実際に展開されているなかで、今回、獣医療以外のサービスに関して現状どのような状況にあるか、またこれらに関する病院長・病院運営者の意識を調査し、必要とされる人材、またその養成に必要な課題を探るため、「動物病院における獣医療以外のサービスに関する意識･実態調査」実施した。

今回、動物病院での獣医療サービス以外の実態調査を動物病院の院長または準じる運営者に実施し、前述の各項目に対する「コメント部分」にも記したように、各調査の結果分析からも「関連職域サービスの動物病院での実施状況、評価、今後に期待・希望すること」が見えてきた。

調査結果の「２）動物病院における付帯サービスの貢献度評価、３）動物病院における付帯サービスの満足度評価、４）今後展開したい付帯サービス、８）動物病院スタッフに対して希望する教育内容、９）教育機関に今後、教育強化して欲しいサービス」の結果からは、現状多くの動物病院で実施している「ホテル」、「処方を必要としないフード販売」、「同おやつ・サプリメント販売」、「トリミング」、「ペット保険」サービスの実施が動物病院運営への貢献度として上位５位に入っており他と比べ評価が高かった。

また、動物病院の院長（経営者）らが今後に期待する付帯サービスとしては、特に「しつけ」、「パピークラス」、「トリミング」の３つは、現在実施している付帯サービスとしても、また、今

後に展開したい期待するサービスとしても注目されることがわかってきた。
　それに伴い人材育成の面に対しても上記３つ以外のサービスも含め、各職種・サービスにかかわる動物病院に就業するスタッフに関して、それぞれの職種・サービスで必要を感じている具体的な教育希望項目、すなわち専門的な知識・技術の継続的な向上を望んでいることがわかった。

人材教育面では、付帯サービススタッフのみでなく獣医師、動物看護師も含めた全職種のスタッフに要望する項目については、共通して社会人としての常識力、顧客はもとよりスタッフ間でのコミュニケーション力、サービス業に就業する者としての接遇力・コミュニケーション力に対する教育の必要性を強く望んでいることも合わせて分かった。前述の７）養成校以外からの人材採用　の意見からもあるとおり経営者側・サービス提供者側では、より幅広い人材を求めていることが垣間見えた。

　付帯サービススタッフに関する資格については、「１）動物病院スタッフが保有する資格・ライセンスについて」の結果からもわかるとおり、現状多くの資格が存在することからも取得資格、教育などにバラつきがあり、この点からも一定水準の教育を受け、技術・知識を持った人材が就業することが望まれていることが見える。
　一方で、動物病院における付帯サービスに関する教育実施状況を見ると、６）院内での付帯サービスに関する教育実施の有無　の結果が示すとおり、教育機会は 47.51％と半数近い動物病院では、実施していないところが多いのが現状で、実施しているところでも不定期開催や年数回開催にとどまっているのが現状で、上述の求める付帯サービス人材に対して必要と考える継続的な教育・育成がなかなかできていないことも見えてきた。

　今回の結果に示された「しつけ」、「パピークラス」の教育強化の希望が強く示されたことは、これらの付帯サービスを強化していくことが動物病院経営・運営にとって、また動物・飼い主にとっても適切な飼育環境を享受できやすくなる。
　それとともに動物を飼っていない「一般社会の人と共生していく」という面、また動物愛護の観点からもこれらの活動が動物病院で積極的にかつ適切に行われ、多くの動物、飼い主が来院しサービスを享受することでより良い社会生活、より良い「人と動物の共生」につながることも非常に重要なことと考えられる。このような意味からも多くの獣医師が今後に期待できる有用な付帯サービスとして認識してきていることを意味すると思われる。

（２）今後の課題について

　今回実施した関連職域調査研究 WG の調査は、「各種サービスを提供する動物病院側からの調査」である。このため、提供されているサービスが「サービスを享受する側が求めるニーズ」に合ったものになっているのか、乖離しているのかの実態が見えてこなかった。また、各種付帯サービスに対する教育希望項目が見えてきたこと、教育機関に期待する項目が示されたことから今後の課題を検討した。

今後の課題として、

(A) 、サービスを受ける側、すなわち飼い主らからの調査を実施することで、ニーズに合ったサービスが提供されているのかの検証と実態把握ができると考えられる。
また、「人と動物のより良い共生」の観点からも、上記に加えて「一般社会から見える動物病院でのサービス提供に対する意識・認識調査」の実施も合わせて必要になると思われる。

(B)、(A) の実態調査をすることで、教育サイド（教育機関）への教育に関しての実態把握、調査研究することも今後の課題として考えられる。

(C)、教育サイドの現状を把握したうえでニーズにあった人材育成のための各種教育項目など方向性の調査検討が必要になると考えられる。

以上